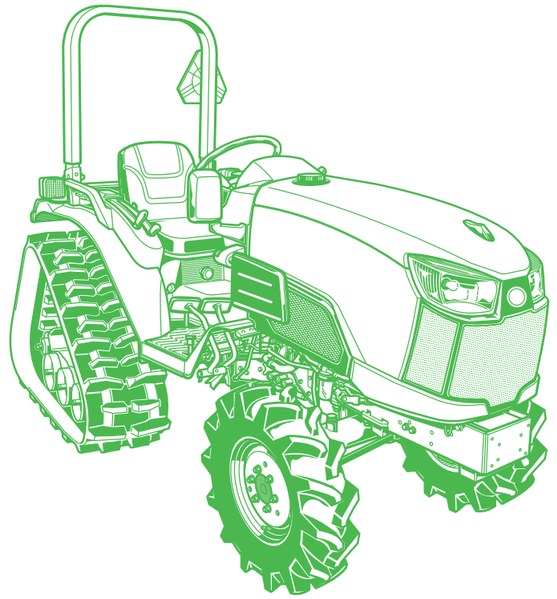
GSK2123

トラクタ

取扱説明書

GSK 21 23



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	火気厳禁
	燃料（残量）
D	ディーゼル軽油
− +	バッテリ充電異常
	エンジンオイル
	水温計
	チルトハンドル
	ホーン
	方向指示器表示（コンビネーションスイッチ）
	方向指示器表示（メーターパネル）
	ヘッドライト
	アクセル高
	アクセル低

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

キーナンバー

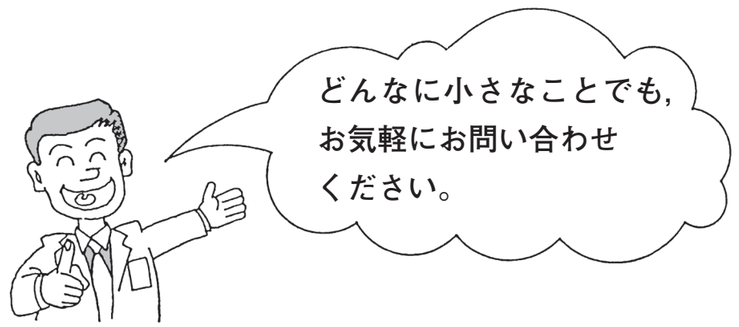
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

GSK21/GSK23
BA．H．1-1．0．AK

はじめに

このたびは，三菱マヒンドラ農機製品をお買い上げいただきありがとうございます。製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき，正しくお使いください。本書は，いつでもご覧頂ける場所に，大切に保管してください。なお，予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が，製品と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買い上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は GSK23 を基本とし，GSK23 と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

● エンジン出力(PS)によって ..... GSK21，GSK23
● ミッション形式によって
　油圧無段変速トランスミッション付き ... **グライドシフト(T)仕様**
　マニュアルトランスミッション付き ..... **マニュアルシフト仕様**
● パワークローラ(パワクロ) ..... **W仕様：ハイラグ**

本書の見方

この取扱説明書には，次のようなトラクタを使ってわからないことがあった時や便利な機能が簡単に調べられる「困ったときには」のページを設けています。

1．困ったこと，やりたいことから関連する項目が調べられる目次
2．レバー・スイッチの名称がわからなくてもイラストから関連する項目が調べられるイラスト目次

わからないことがあった時には，本書を有効にご活用いただき，機械の性能を最大限に発揮させてください。

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会 (VDA) の登録商標です。

本書に記載されている会社名，製品名，サービス名は，それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では，それらの名称には必ずしも商標表示（™，®）を付記していません。

目　次

⚠安全に作業するために

安全フレームについて ..... ⚠-1
運転前に ..... ⚠-2
始動時に ..... ⚠-3
運転時に ..... ⚠-3
作業機使用時に ..... ⚠-6
道路走行時に ..... ⚠-7
駐車，格納時に ..... ⚠-8
点検・給油・整備時に ..... ⚠-9
パワクロ操作の注意事項 ..... ⚠-11
運転時に ..... ⚠-11
あゆみ板使用時に ..... ⚠-11
安全ラベルと貼付け位置 ..... ⚠-13
安全ラベルの手入れ ..... ⚠-16

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証 1
小型特殊自動車としての取扱い 2

運転のしかた

運転前の点検 4
エンジンの始動と停止 5
始動のしかた 5
停止のしかた 7
キースイッチ 8
寒冷時の暖機運転 9
バッテリあがりの処置 9
ならし運転（最初の約 50 時間） 10
運転席周りの調節 10
シート 10
安全フレームとシートベルトについて 11
チルトステアリングハンドル 12
バックミラー 13
灯火類の操作 13
コンビネーションスイッチ 13
外部電源取出端子 13
走行装置の取扱い 14
発進・走行 14
停車・駐車 15
ブレーキペダル 16
クラッチペダル 17
前輪駆動レバー 17
AD 倍速切替スイッチ 18
ワンタッチ耕うんスイッチ 19
各変速レバーの取扱い 19
マニュアルシフト仕様 20
グライドシフト（T）仕様 21
アクセルレバーとアクセルペダル 22
駐車ブレーキの解除のしかた 22
運転中の作動確認 22
燃料計 22
トラクタメータ 23
水温計 23
状況に応じた操作 23
デフロックの使い方 23
旋回のしかた 24
坂道での運転 24
ほ場への出入り時の注意 24
道路走行中の注意 25
トラックへの積み・降ろし 26
パワーステアリングの取扱い 27
パワクロの特別な運転のしかた 27

作業のしかた

作業機昇降装置 29
油圧（ポジションコントロール）レバー 29
ポンパレバー 29
バックアップ／オートアップ切替スイッチ 30
作業機落下速度の調整 31
三点リンク 32
ロアーリンク取付け穴の選択 33
トップリンク 33
リフトロッドの調整 33
チェックチェーン 34
作業機を取付けないときの注意 34
PTO 34
PTO 変速レバー 34
PTO 軸キャップ 35
モンローマチックの取扱い 36
各部の名称 36
ワンタッチ耕うんスイッチ 36
モンロー切替スイッチ 38
角度調節ダイヤル 39
メカオートの取扱い 40
オート耕深レバー 40
ロータリ着脱時の注意 40
タイヤ 41
タイヤの空気圧 41
一般的な耕うん要領 41
隣接耕うんのしかた 41
一うねおき耕うんのしかた 42
トラクタの方向転換のしかた 42

トラクタの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について 43
洗車時の注意 43
定期点検箇所一覧表 44
給油（水）一覧表 46
トラクタの給油（水） 46
推奨オイル・グリース一覧表 47
エンジンオイル 47

目　次

ミッションオイル 47
グリース 47
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 48
ボンネットの開閉 48
サイドカバーの取り外し 49
日常点検 49
前日の異常箇所 49
トラクタの周りを歩いて 49
エンジンオイルの量及び汚れ 50
ミッションオイルの量及び汚れ 50
冷却水の量 51
エバキュエータバルブの清掃 51
ワイヤハーネス，バッテリ (+) コードの点検・交換 52
燃料フィルタの水，沈殿物の点検 52
タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷 53
防虫網の清掃 53
ブレーキペダルの遊び・点検 54
駐車ブレーキの作動点検 54
クラッチペダルの遊び・点検 54
メータ・ランプ類の作動 55
燃料の補給 55
カンタン給油台 56
満タンお知らせブザー 56
パワクロの日常点検 56
ゴムクローラの張り調整 57
スプロケットの交換 58
ゴムクローラの交換 58
30 時間ごとの点検・整備 58
グリースの注入 58
50 時間ごとの点検・整備 59
グリースの注入 59
エンジン始動システムの点検 60
倍速ターン高速けん制装置の点検 61
タイヤ取付けボルトの点検 61
クラッチハウジングの水抜き 61
燃料ホースの点検 62
AD ブレーキホースの点検 62
100 時間ごとの点検・整備 63
エンジンオイルの交換 63
バッテリ電解液の点検 64
エアクリーナエレメントの清掃 65
ファンベルトの点検・調整 66
クラッチペダルの点検・調整 66
ブレーキペダルの点検・調整 67
200 時間ごとの点検・整備 67
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 67
ラジエータホースの点検 68
吸気ホースの点検 68
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 .. 68
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換 69
トーイン調整・タイロッドの点検 69
パワクロの点検項目 69
300 時間ごとの点検・整備 70
ミッションオイルの交換 70
前車軸ケースオイルの交換 71
400 時間ごとの点検・整備 71
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 71
800 時間ごとの点検・整備 71
エンジンバルブクリアランスの点検 71
1 年ごとの点検・整備 71
エアクリーナエレメントの交換 71
2 年ごとの点検・整備 72
冷却水の交換 72
ラジエータの洗浄 73
ラジエータホースの交換 73
燃料ホースの交換 73
吸気ホースの交換 73
AD ブレーキホースの交換 73
モンローシリンダホースの交換 73
必要に応じた点検・整備 73
燃料の空気抜きのしかた 73
ヒューズの交換 73
スローブローヒューズの交換 74
ランプ類の交換 74
格納 74
長期格納時の手入れ 74
不調と処置 76
エンジンの不調と処置 76

付表

主要諸元 77
トラクタの主要諸元 77
走行速度表 79
PTO 回転速度 80
標準付属品 80
主な消耗部品一覧表 81
作業ごとの一般的な調整要領 82

索引

困ったときには

こんな時には …

	目的	項目	参照ページ
エンジン始動時に	エンジンが始動しない	エンジンの始動と停止	5
道路走行時に	2WD, 4WD を切換えたい	前輪駆動レバー	17
	倍速を切換えたい	AD 倍速切替スイッチ	18
	ブレーキ連結ロック解除ランプが点灯している	ブレーキペダル	16
作業時に	作業に適切な速度は	各変速レバーの取扱い	19
	一般的な耕うん要領は	一般的な耕うん要領	41
	ほ場作業時の設定を簡単に行なうには	ワンタッチ耕うんスイッチ	36
	モンローオートの一般的な調整要領が知りたい	作業ごとの一般的な調整要領	82
	傾斜地でモンローマチックを使用したい	モンロー切替スイッチ	38
	作業機を手動で傾けたい	モンロー切替スイッチ, 角度調節ダイヤル	38,39
	スリップした時には	デフロックの使い方	23
	作業機を取付ける時には	ロアーリンクの取付け穴の選択	33
	ワンタッチでロータリの上げ下げをしたい	ポンパレバー	29
	燃料キャップを置く場所は	カンタン給油台	56
	燃料補給時に便利な機能は	満タンお知らせブザーの取扱い	56
	燃料補給のタイミングは	給油お知らせランプ	22
メンテナンス時に	パワクロのメンテナンス項目は	パワクロの日常点検	56
	日常点検ですべきことは	日常点検	49
	オイル量を知りたい	給油（水）一覧表	46
	電球が切れた時には	主な消耗部品一覧表	81
その他	後部作業灯用の電源カプラの位置は	外部電源取出端子	13

困ったときには

■ 外観

安全フレーム…… 11 ページ

ハンドル…… 12 ページ

バックミラー…… 13 ページ

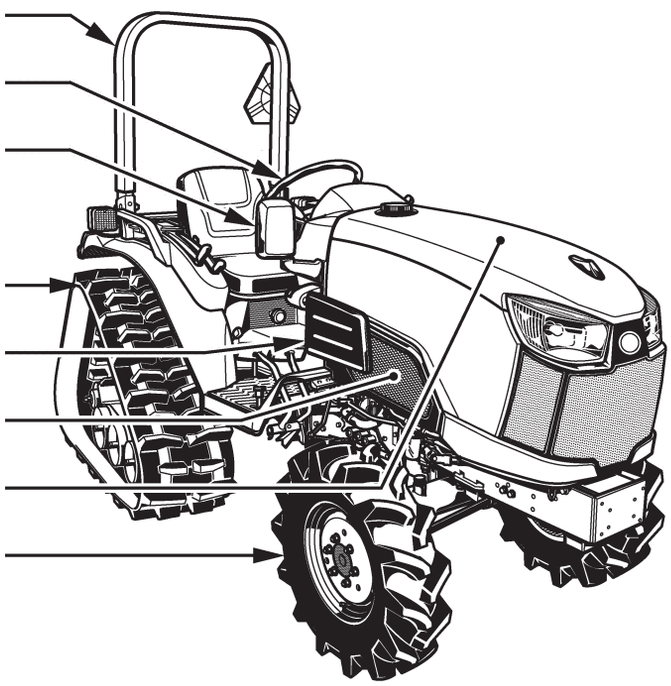
後輪タイヤ(クローラ)…… 27 ページ

カンタン給油台…… 56 ページ

サイドカバー…… 49 ページ

ボンネット…… 48 ページ

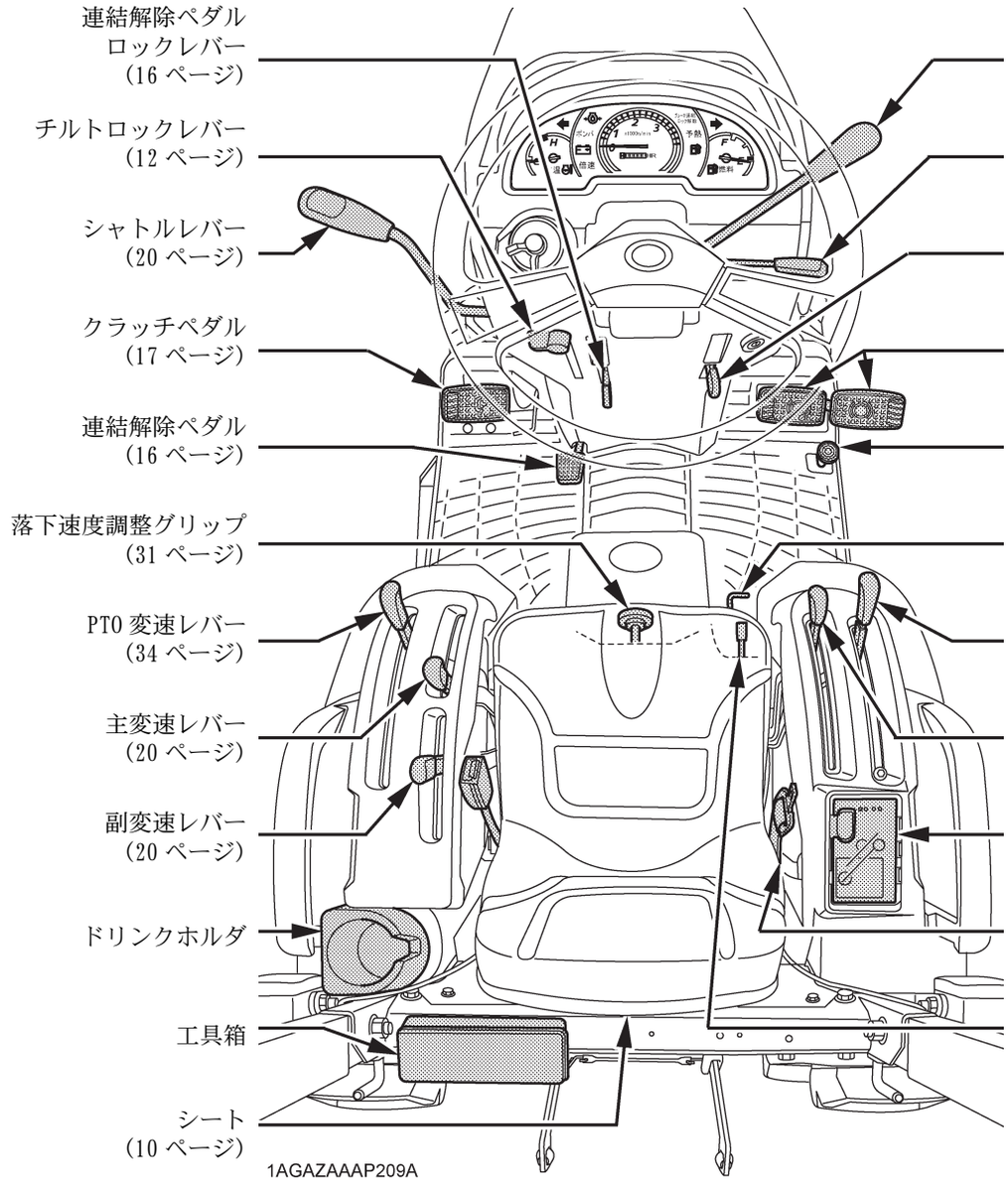
前輪タイヤ…… 41 ページ



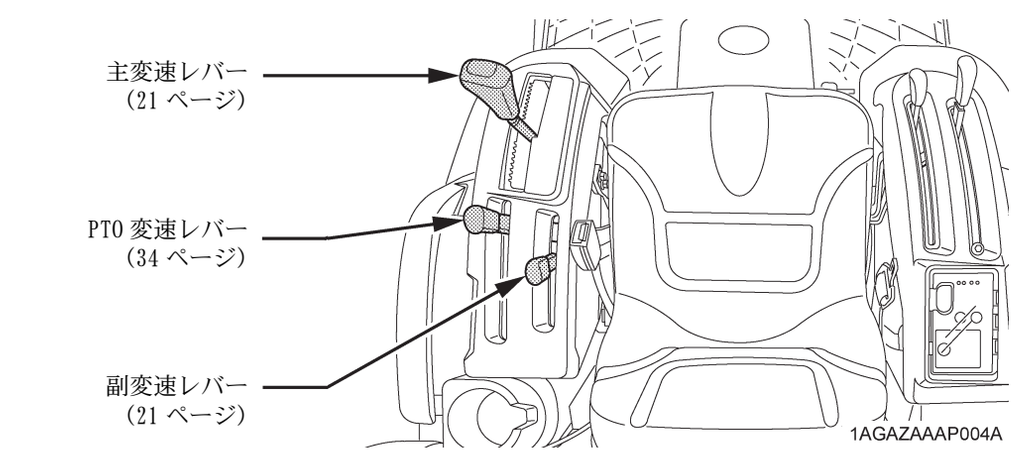
1AGAZAAAP174B

■ 操作レバー・ペダル

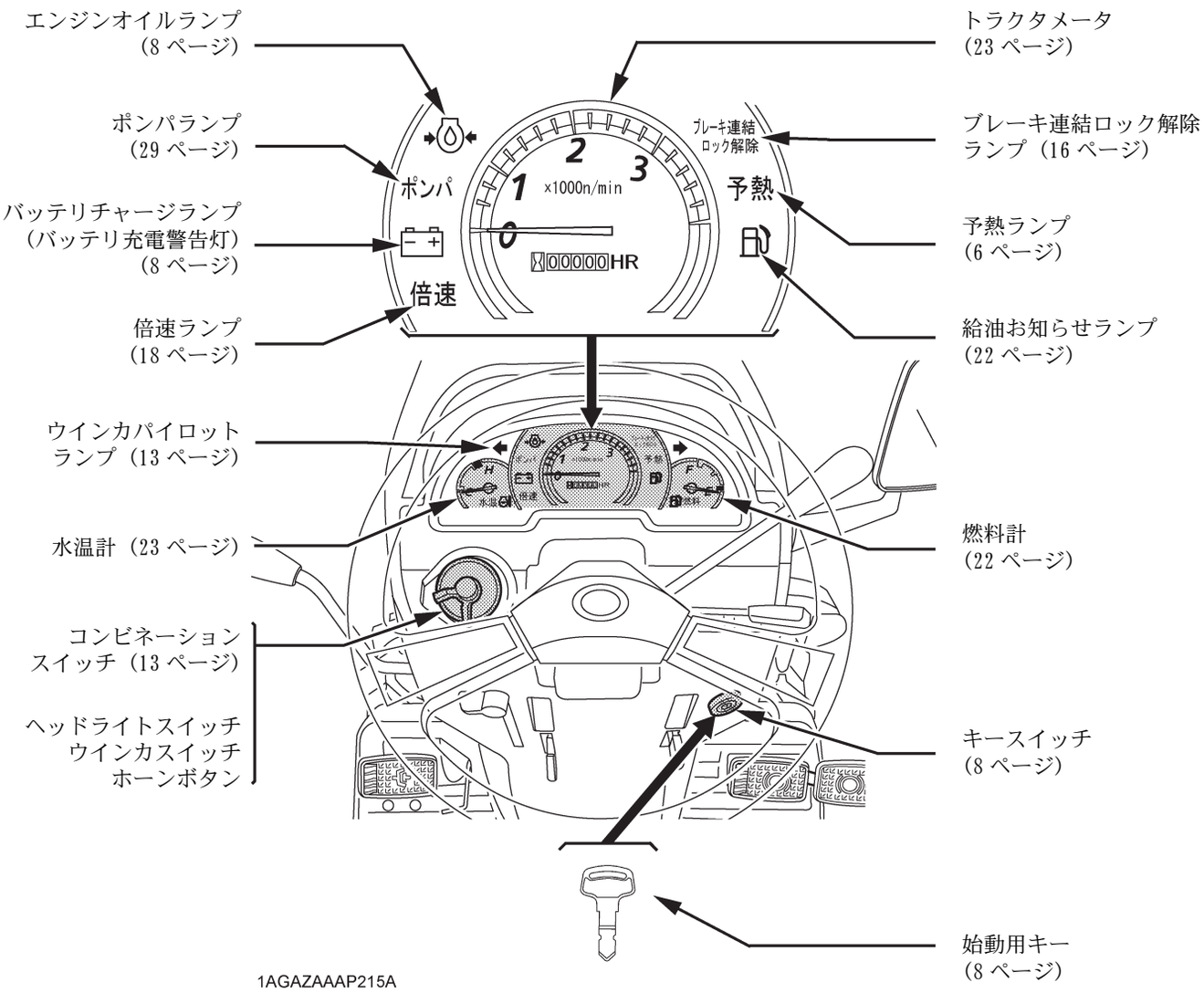
[マニュアルシフト仕様]



[グライドシフト（T）仕様]

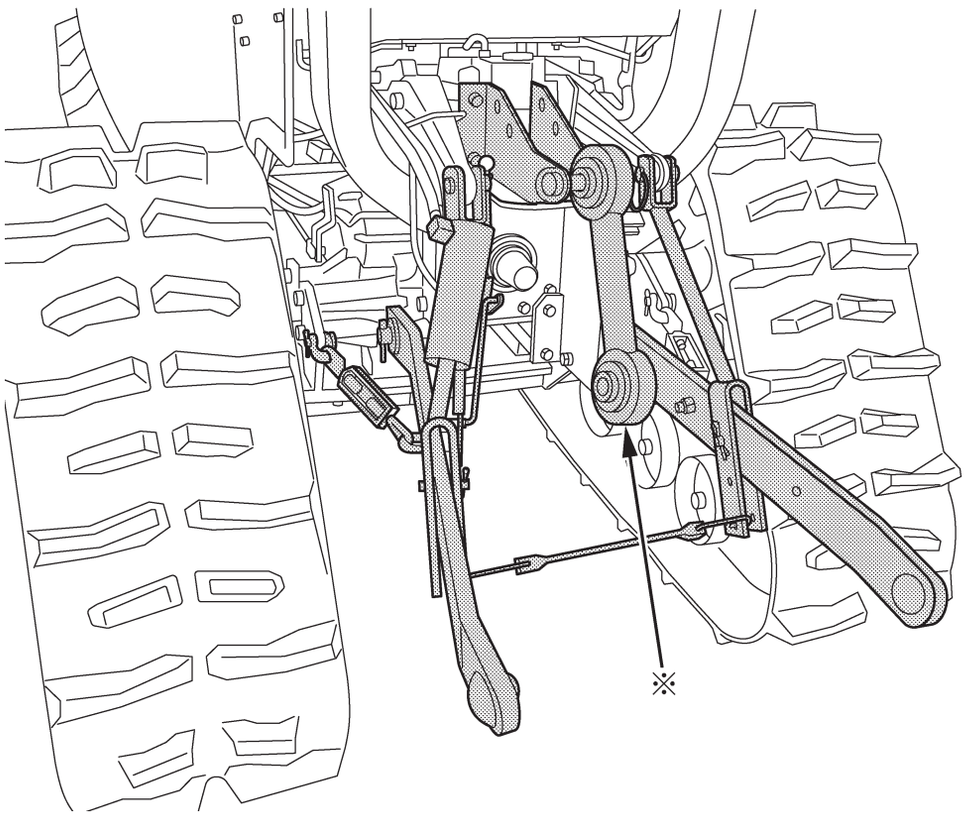


■ スイッチ


エンジンオイルランプ
(8 ページ)
ポンパランプ
(29 ページ)
バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
(8 ページ)
倍速ランプ
(18 ページ)
ウインカパイロット
ランプ (13 ページ)
水温計 (23 ページ)
コンビネーション
スイッチ (13 ページ)
ヘッドライトスイッチ
ウインカスイッチ
ホーンボタン
トラクタメータ
(23 ページ)
ブレーキ連結ロック解除
ランプ (16 ページ)
予熱ランプ
(6 ページ)
給油お知らせランプ
(22 ページ)
燃料計
(22 ページ)
キースイッチ
(8 ページ)
始動用キー
(8 ページ)
ポンパ
x1000n/min
予熱
倍速
00000HR
ブレーキ連結
ロック解除
1AGAZAAAP215A

■ 三点リンク

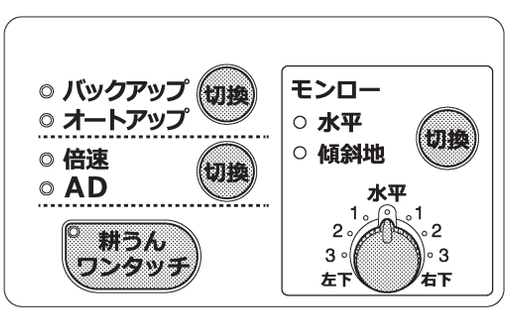
詳細は三点リンクの項 32 ページ参照。
※ 印のトップリンクはロータリ側の部品です。



1AGAZAAAP200K

■ 操作パネル

詳細は以下のページを参照。
[AD 倍速切替スイッチ] の項 18 ページ。
[バックアップ／オートアップ切替スイッチ] の項 30 ページ。
[モンローマチックの取扱い] の項 36 ページ。



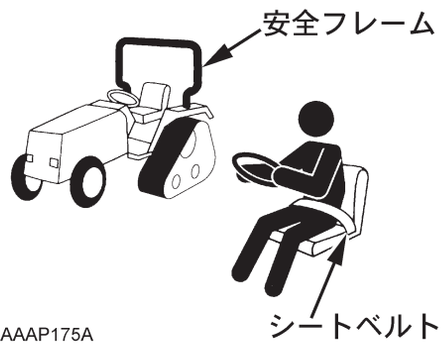
1AGAZAAAP191A

⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危 険・⚠警 告・⚠注 意・重 要・補 足 としてそのつど取上げています。

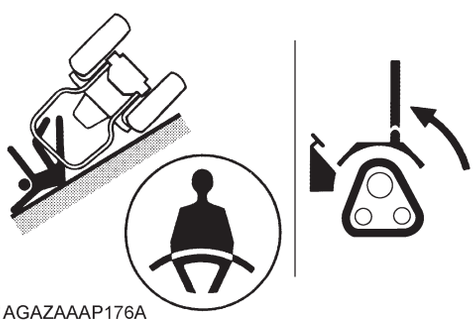
安全フレームについて

安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

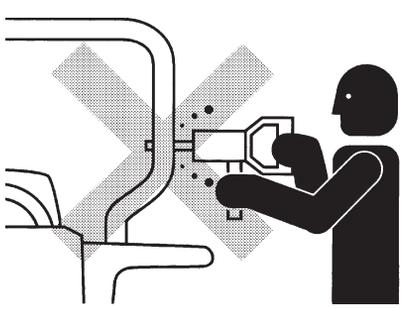


1AGAZAAAP175A

1. 運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
2. 安全フレームを取外して運転しないでください。
3. 納屋の出入口等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
   安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
4. 安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
5. 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行ってください。


1AGAZAAAP176A

6. 安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。


1AGALAFAP034B

運転前に

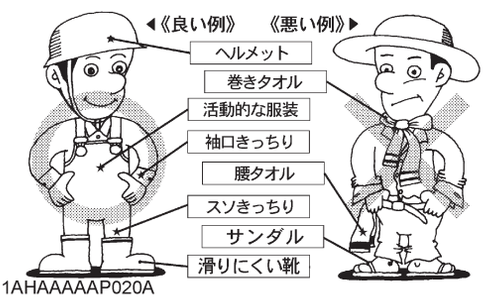
1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠安全ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
3. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
4. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。



1AGALAFAP035A

5. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護めがねや手袋などを使ってください。
6. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
7. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章を参照。）
8. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

作業時の服装



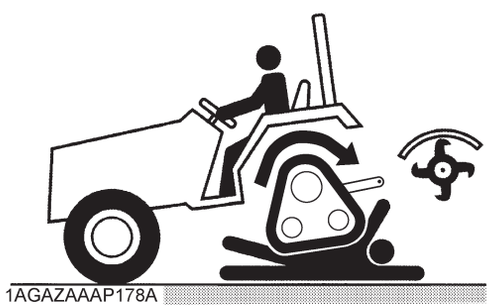
1AHAAAAAP020A

始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）やPTO 変速レバーが**［中立］**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出す恐れがあります。

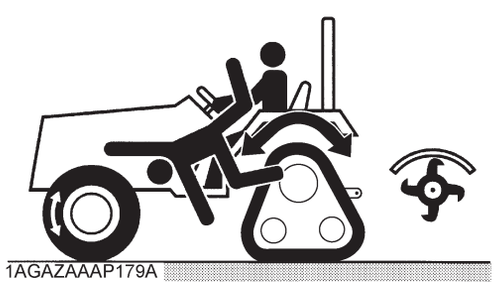

1AGAZAAAP177A

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。
   又，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

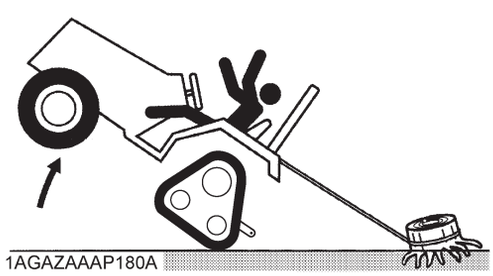

1AGAZAAAP178A

運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。


1AGAZAAAP179A

2. けん引作業には，けん引ヒッチ（別売）を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
   トラクタの破損や転覆の原因となります。

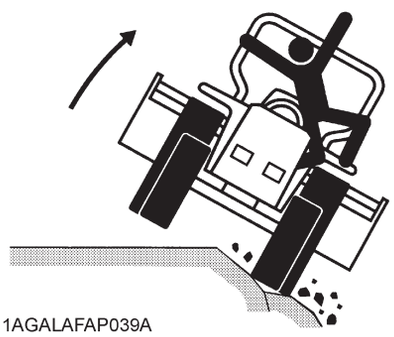

1AGAZAAAP180A

3. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



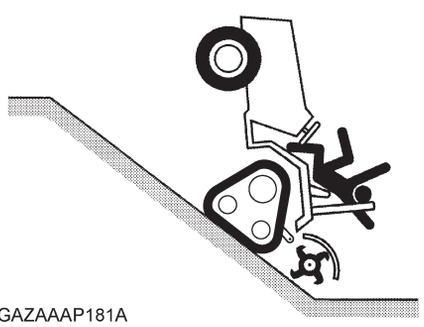
1AGALAFAP052A

4. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



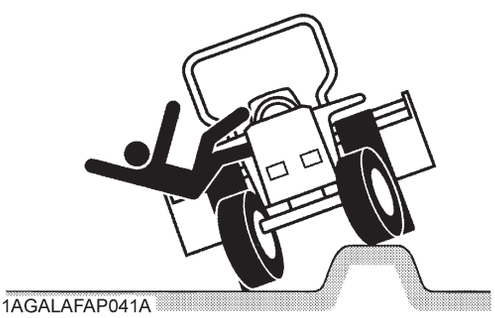
1AGALAFAP039A

5. 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。
6. 共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。



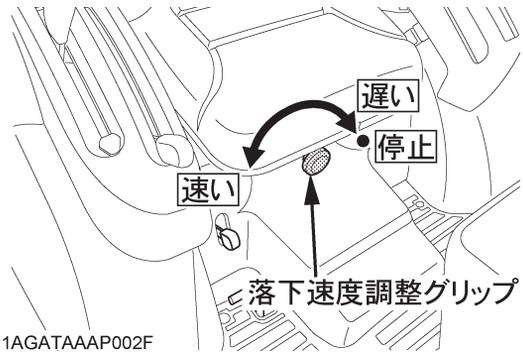
1AGAZAAAP181A

7. ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず連結解除ペダルロックレバーを**［ロック］**位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。



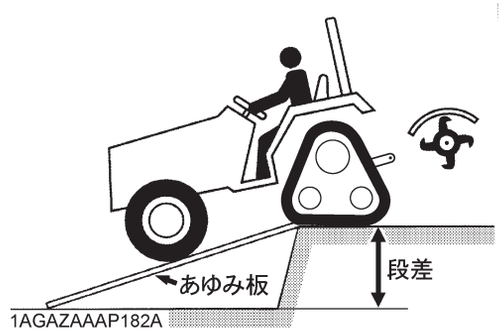
1AGALAFAP041A

8. ほ場外では，落下速度調整グリップで油圧ロック（停止）をして作業機の落下を防止してください。
［遅い］方向に締めきるとロック（停止）します。



1AGATAAAP002F

9. ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。
あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さのものを使用してください。
10. 急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・あぜの乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。



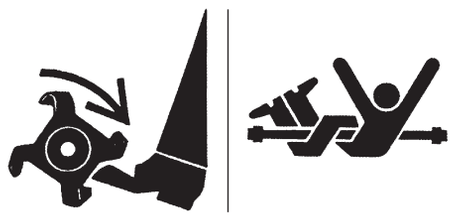
1AGAZAAAP182A

11. ほ場以外や高速走行時，倍速ターン及び AD 倍速ターンを使用すると，旋回時急に回り事故を引起こすおそれがあります。
必ず AD 倍速を**［切］**にしてください。


1AGALAFAP059A

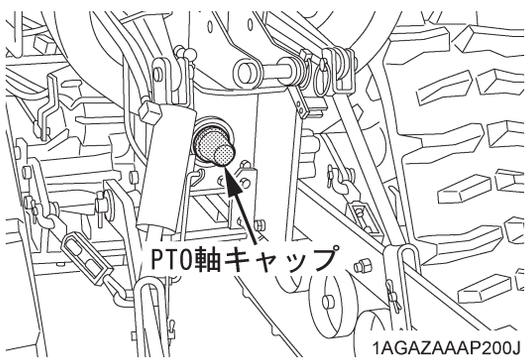
作業機使用時に

1. 作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。
2. トラクタから降りるときや，ロータリなどPTO作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。

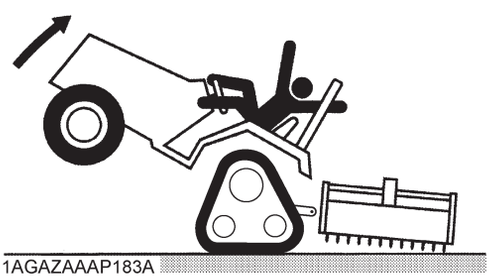


1AGALAFAP054A

3. PTO を使用しないときは，PTO 軸キャップを装着しておいてください。
4. PTO作業機は，その作業機で定められたPTO回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故の恐れがあります。

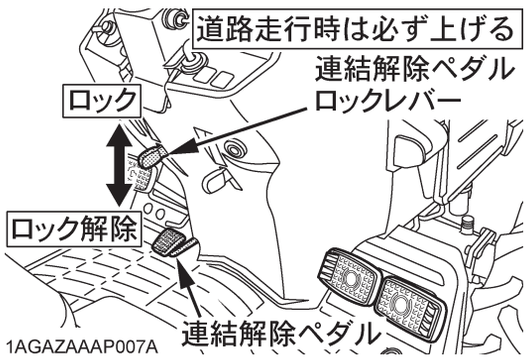


5. トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の 20％以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。
6. 作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。



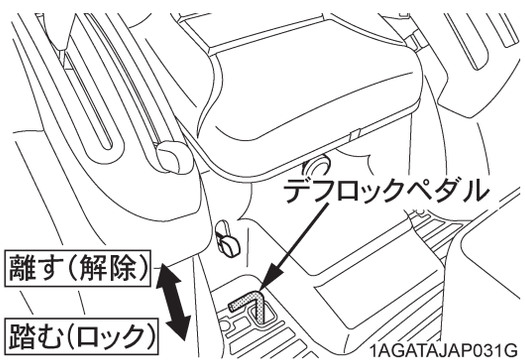
道路走行時に

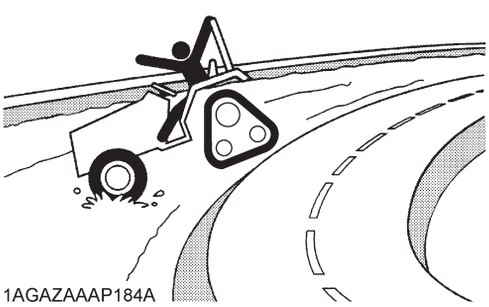
1. 道路走行時は，連結解除ペダルロックレバーを**［上げ］**，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
   高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。
2. 信号待ちなどの一時停止時はブレーキペダルを踏んだままにしてください。



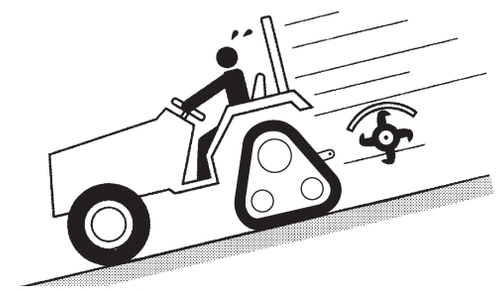


3. 道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
   ハンドル操作が出来なくなります。
4. 旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
   高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。

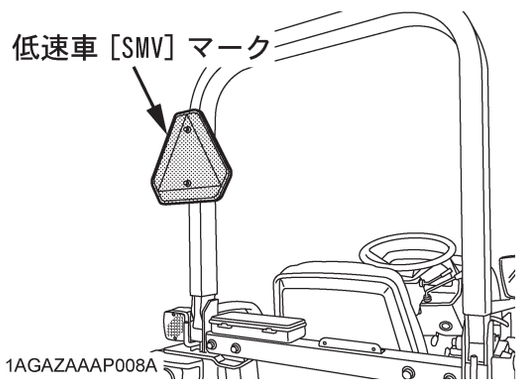




5. 坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を**［中立］**にして惰性で走行しないでください。
操縦ができなくなる恐れがあります。
6. インプルメントやアタッチメントを装着した状態では，**［道路運送車両法の保安基準］**を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと，トラクタとの組み合わせごとに，**［保安基準］**を満たしていることの確認が必要です。
7. 公道では作業灯を点灯して走行しないでください。
［道路運送車両法の保安基準］
8. 交通や安全規則を守ってください。
運転免許証（小型特殊自動車を運転できるもの）は，必ず携行してください。


1AGAZAAAP185A

9. 公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる**低速車［SMV］マーク**を取付けてください。また，夜間ヘッドライトに**低速車［SMV］マーク**がよく反射するように，マークは常に清掃しておいてください。



1AGAZAAAP008A

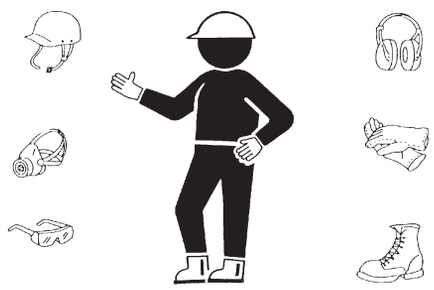
駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTOを**［中立］**，作業機を**［下げ］**，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）を**［中立］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，エンジンを**［停止］**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行なってください。


1AGAZAAAP186A

点検・給油・整備時に

1. 点検整備には帽子と安全な服装を着用してください。作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護めがね，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用してください。
   各保護具は使用前に機能を確認してください。



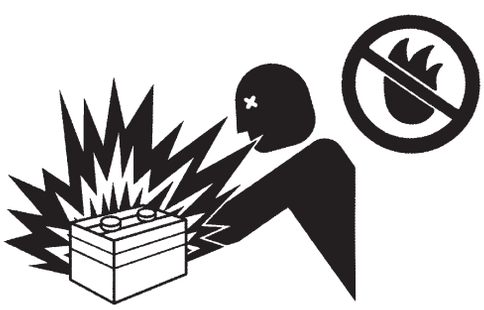
1AGADAPAP122A

2. 平たんな場所に駐車し，作業機を**［下げ］**，駐車ブレーキを**［掛け］**，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）とPTOレバーを**［中立］**にし，そしてエンジンを停止してください。
3. エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。



1AGALAFAP055A

4. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。
5. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   （**［運転のしかた］**の章の**［バッテリあがりの処置］**の項を参照。）



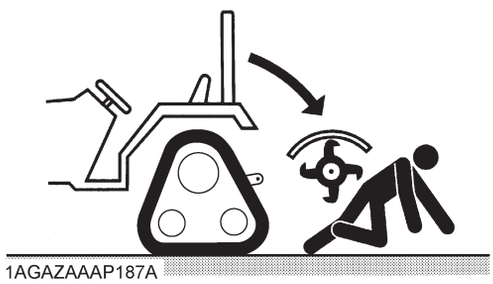
1AGALAFAP048A

6. バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。（補水可能なバッテリ）
7. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
8. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。



1ARAEABAP014B

9. 作業機を上げた状態で点検整備を行なう場合，必ず落下速度調整グリップで作業機が落下しないようにロック（停止）してください。ロック（停止）するとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。


1AGAZAAAP187A

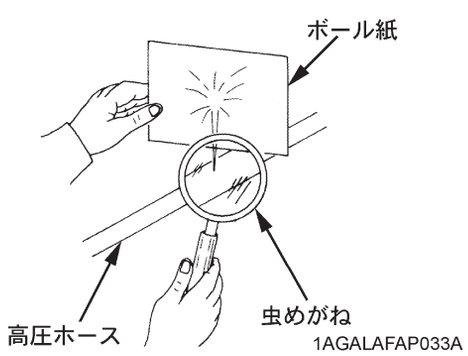
10. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
11. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
12. タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は，必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


1AGALAFAP062A

13. 油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。
圧力がかかり噴出した油は，皮膚を貫通する程の力があり，傷害の原因になります。


1BAACAAAP010D

14. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚を貫通したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。



1AGALAFAP033A

15. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），尿素水（AdBlue），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。
16. 枯草・小枝などがボンネット内に入り込んだり，触媒や排気管にふれて発火するおそれがあります。作業後・高圧洗浄後などは，排気管周辺に燃えやすいものがないか十分注意してください。

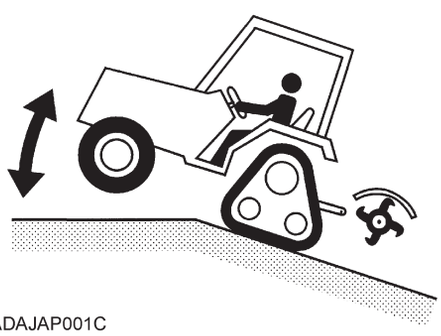

1BJABAAAP018D

パワクロ操作の注意事項

以下の内容はパワクロ操作時の特別な注意事項を記載しています。前述の注意事項と合わせてよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。

■運転時に

1. 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなる恐れがあります。
2. クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。

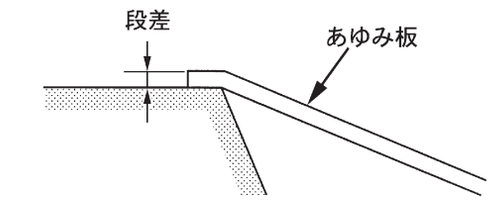

1AGADAJAP001C

■あゆみ板使用時に

1. あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
2. あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
3. 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
4. あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

◆ ほ場への出入り

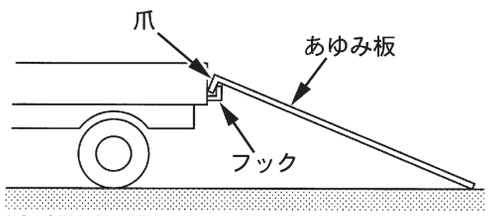
1. クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。



1AGACBUAP002B

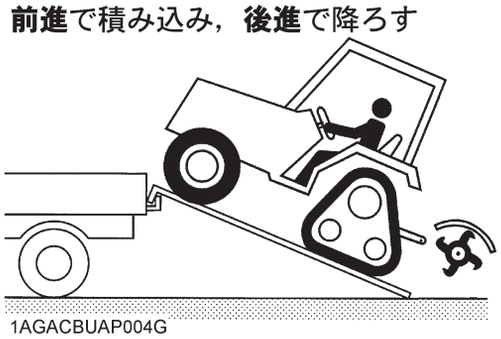
◆ トラックへの積み・降ろし

1. トラックは荷台後部にあゆみ板の爪をかけるフックが付いた物を使用してください。
2. トラックへの積み・降ろしは，必ず連結解除ペダルロックレバーを**［ロック］**位置にし，**前進で積み込み，後進で降ろして**ください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。



1AGACBUAP003B

前進で積み込み，**後進**で降ろす


1AGACBUAP004G

安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番　95410000430



1AGAZAAAP173A

(2) 品番　95410000480



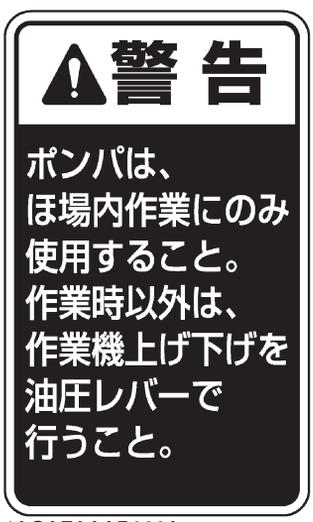
1AGAZAAAP028A

(3) 品番　95410000460



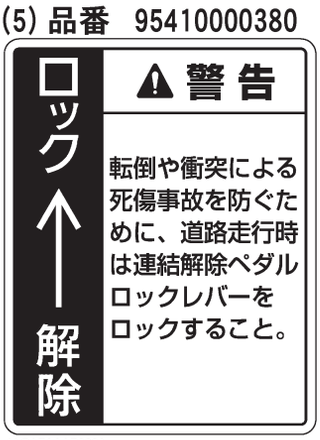
1AGAZAAAP026A

(4) 品番　95410000400



1AGAZAAAP022A

(5) 品番　95410000380

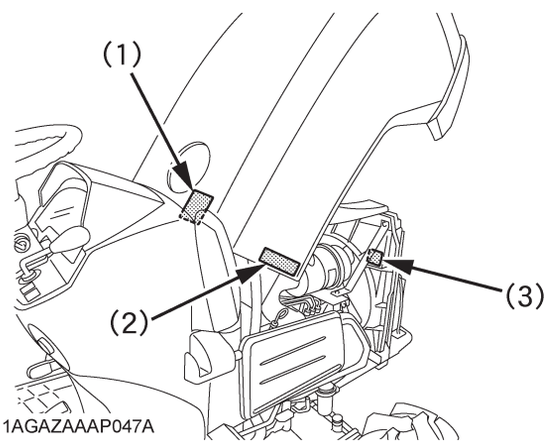


1AGAZAAAP020A

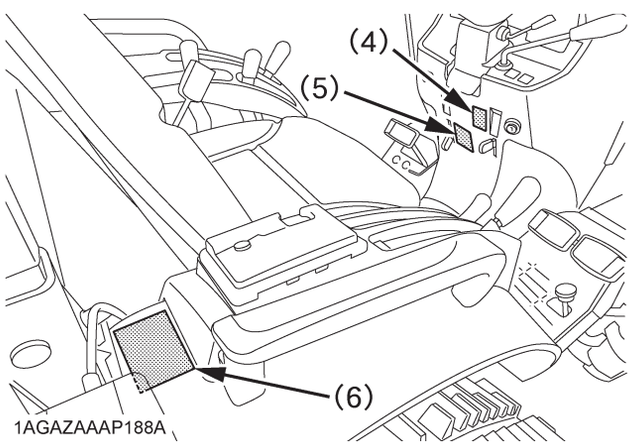
(6) 品番　95410000410



1AGAZAAAP022A



1AGAZAAAP047A



1AGAZAAAP188A

1AGAZAAAP192A

(1) 品番　95410000420

⚠ 警 告

低速車マークをはずしたまま公道を走行すると、追突されるおそれがあります
公道走行時は低速車マークを取り付けること

⚠ 警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- シートにすわり、PTO及び各変速レバーを中立にすること
- 前後左右に人がいないことを確認すること

運転時
- 運転者以外に人を乗せないこと
- 排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと
- 溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと
- 急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと
- 道路走行時はデフロックを使用しないこと
- 道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）

駐車時
- PTO及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること

点検、整備時
- エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと
- 作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること

1AGAZAAAP024A

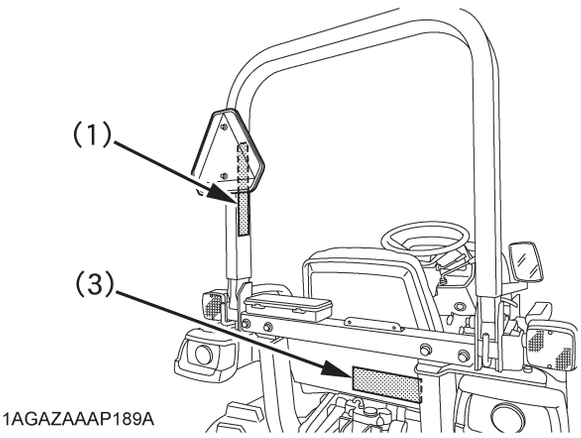
1AGAZAAAP193A

(2) 品番　95410000290

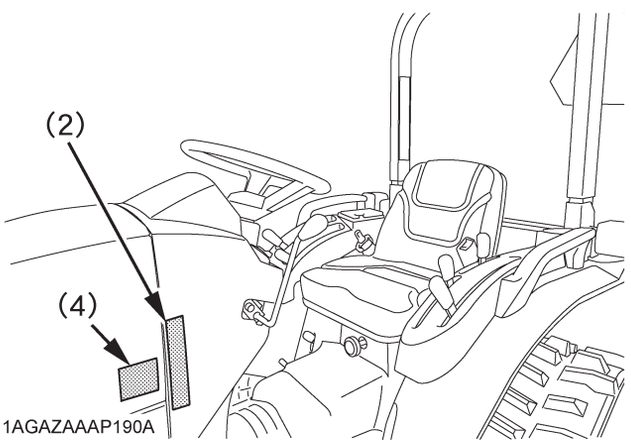
⚠警告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

1AGAAAPAP116A



1AGAZAAAP189A



1AGAZAAAP190A

(3) 品番　95410000370

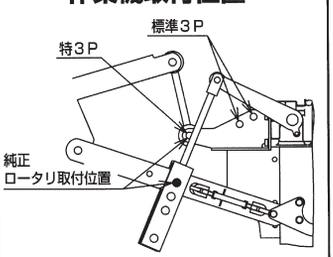
⚠ 警 告

転倒による死傷事故をふせぐために
けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

⚠ 警 告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

作業機取付位置



1AGAZAAAP079A

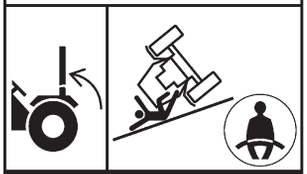
(4) 品番　95270000250

⚠ 警 告

枯草・小枝などがボンネット内に入り込んだり、触媒や排気管に触れて発火するおそれがあります。
作業後・高圧洗浄後などは、排気管周辺に燃えやすいものが無いか十分注意すること。

(1) 品番　95410000390

⚠ 警　告

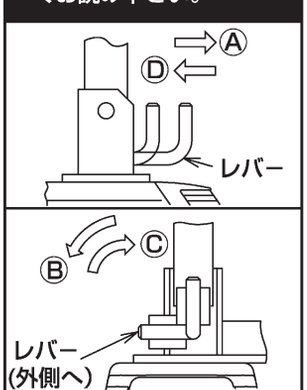


転倒、転落による死傷事故軽減のために：
- 納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。
- 安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。
- 安全フレームを折りたたんだ状態では、シートベルトを着用しないこと。

⚠ 警　告

安全フレームを折りたたんだり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1.エンジンを止める
2.作業機をおろす
3.駐車ブレーキをかける

レバーの操作方法
- 安全フレームを折りたたむ時は、Ⓐ Ⓑ の順にレバーを倒して下さい。(左右とも外側へ)
- 立てる時は、Ⓒ Ⓓ の順にレバーを操作し、レバーを確実に前方へ押し込んで下さい。
- 詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい。



1AGAZAAAP021A
1AGAZAAAP194A

(2) 品番　95410000470



1AGAZAAAP027A

(3) 品番　95410000460



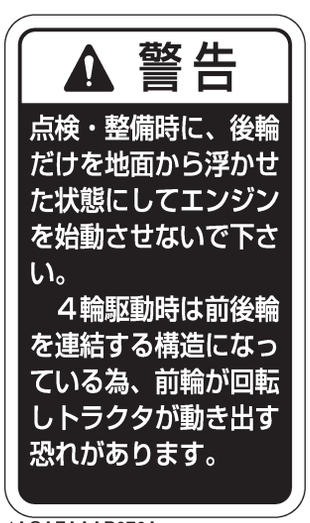
1AGAZAAAP026A

(4) 品番　95410000490
［グライドシフト(T)仕様］

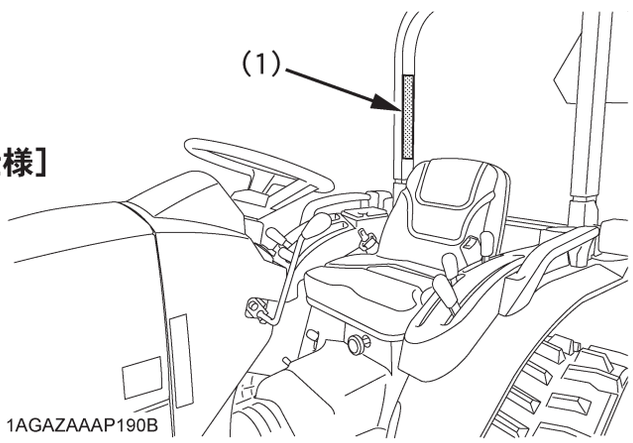


1AGAZAAAP029A

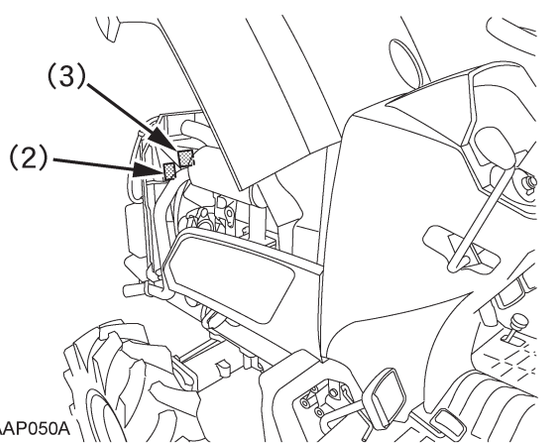
(5) 品番　95340006120



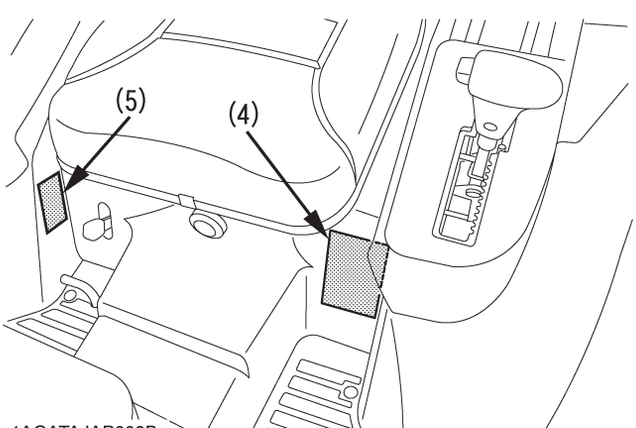
1AGAZAAAP076A



1AGAZAAAP190B

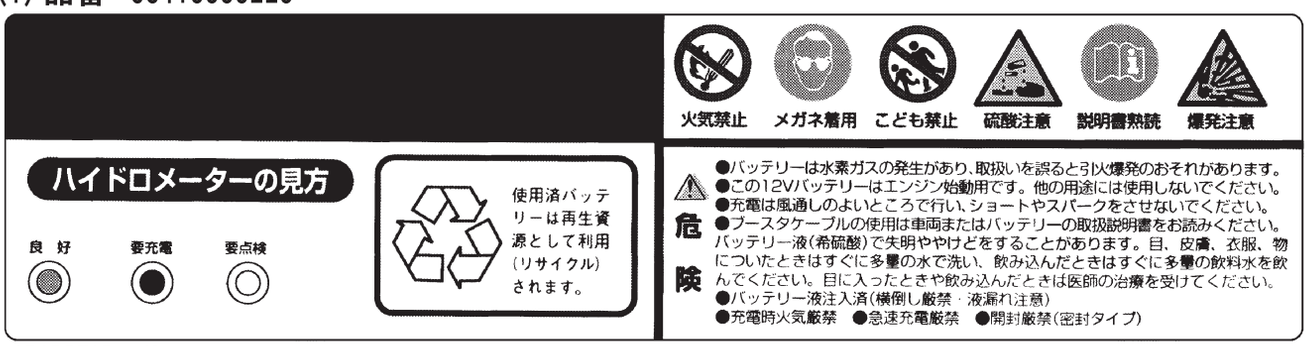


1AGAZAAAP050A



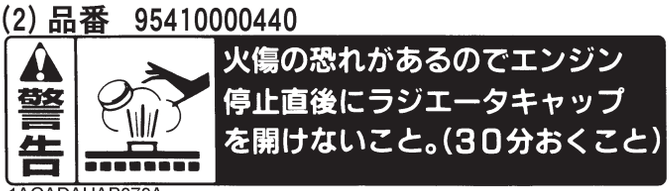
1AGATAJAP008B

(1) 品番　95410000220



1ARADBEAP375K

(2) 品番　95410000440

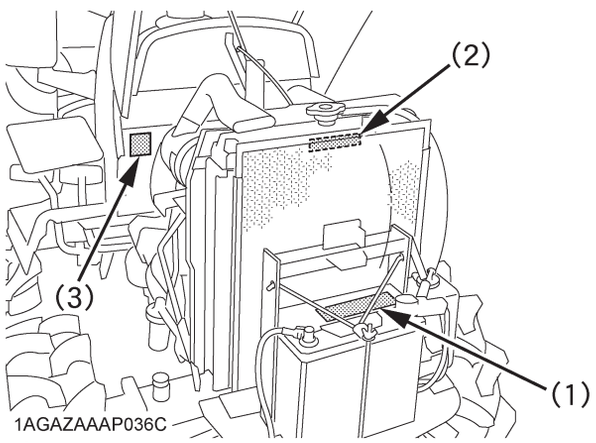


1AGADAUAP070A

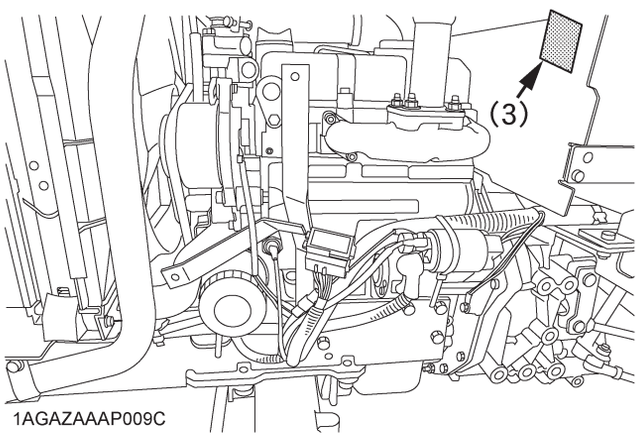
(3) 品番　95410000450



1AGAZAAAP025A



1AGAZAAAP036C
1AGAZAAAP195A



1AGAZAAAP009C

安全ラベルの手入れ

1. ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
   もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
4. 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
5. ラベルが貼付けられている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証／小型特殊自動車としての取扱い

サービスと保証

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

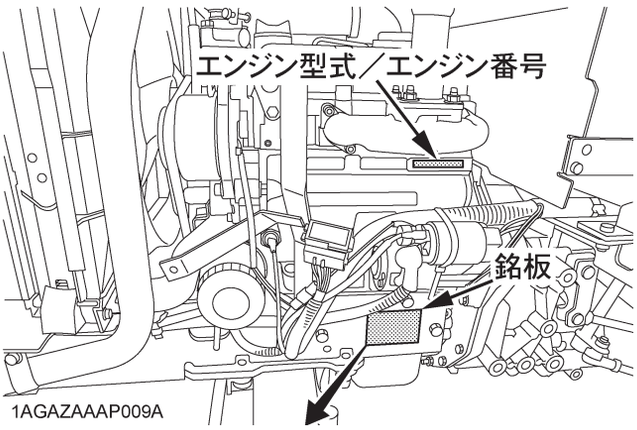
■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している
1．型式名
2．製造（車台）番号
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

型式名（商品名）	農機型式名	安全性検査合格番号	安全フレーム検査合格型式名	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号	公道走行（トラクタ単体時）に必要な免許
GSK21J	クボタ NB21-PC	NARO 19/013	クボタ SF-NB23	クボタ DC	農 3387 改造型	小型特殊自動車免許
GSK21JT	クボタ NB21F-PC	NARO 19/012				
GSK23J	クボタ NB23-PC	NARO 19/009		クボタ DD	農 3388 改造型	
GSK23JT	クボタ NB23F-PC	NARO 19/008				



1AGAZAAAP009A

農業機械の種類	農用トラクター(乗用型)
型 式 名	クボタ
販売型式名	
区 分	
車両型式名	
製造(車台)番号	
製造会社	株式会社クボタ

三菱マヒンドラ農機株式会社

1AGBBAAAP186B

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

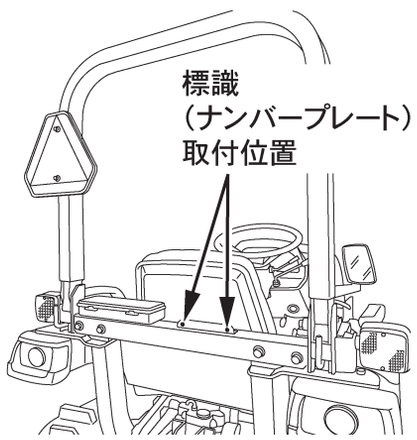
小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバープレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識（ナンバープレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

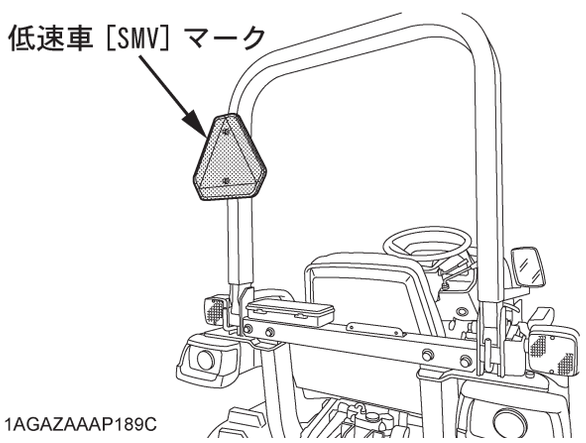
1. 小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバープレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバープレート）は，車体の取付け位置に取付けてください。



1AGAZAAAP189B

■ 低速車［SMV］マーク

公道走行時は後続車に低速農耕車が走行している事を知らせる**低速車［SMV］マーク**を取付けてください。



1AGAZAAAP189C

■ 運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車を運転できる運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊ エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

■ 公道走行時の注意

- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では，**【道路運送車両法の保安基準】**を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと，トラクタとの組み合わせごとに，**【保安基準】**を満たしていることの確認が必要です。
- 農耕トラクタに関わる**【道路運送車両法の保安基準】**の運用見直しにより，直装型の作業機については，条件を満たせば装着した状態で公道を走行することができるようになりました。
- 作業灯は**【道路運送車両法の保安基準】**第 42 条（灯火の色等の制限）において，**【走行中に使用しない灯火】**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。
- 主要諸元表に記載以外の輪距では公道走行しないでください。

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
（**[トラクタの簡単な手入れと処置]**の章を参照。）

警　告

＊ 運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば調整または交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろし駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをするおそれがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
1. エンジン停止後 30 分経過してから開ける。
2. 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊ 点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定オイルを使用してください。

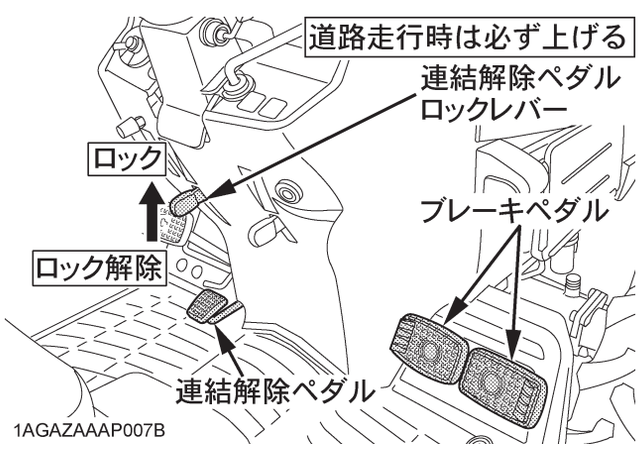
エンジンの始動と停止

警　告

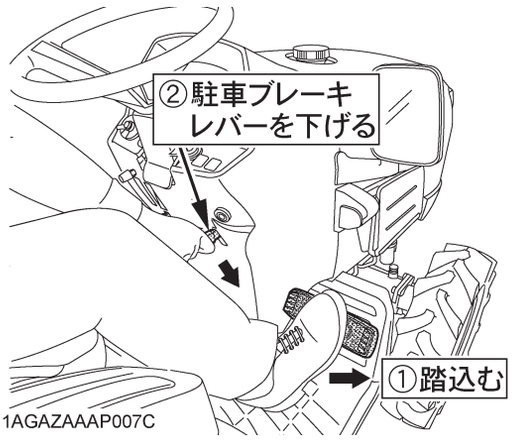
- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みください。**
- **トラクタに貼ってある⚠安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）やPTO変速レバーが［中立］(N) かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。**
- **トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

■始動のしかた

1. **シートに座ってください。**
2. **連結解除ペダルロックレバーを［上げ］，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。**

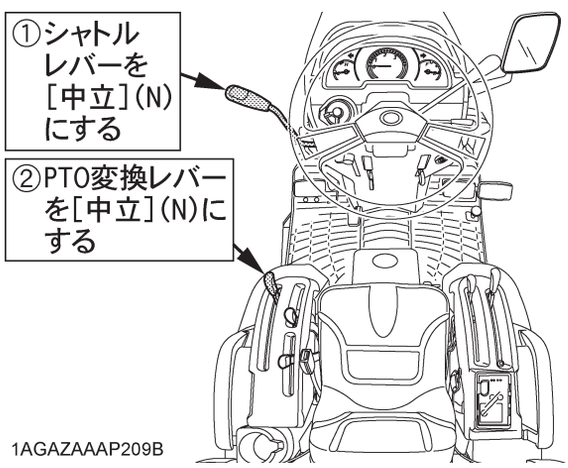


3. **駐車ブレーキをかけます。**
   左右連結したブレーキペダルを踏み込み，駐車ブレーキレバーを**［下げ］**たまま足をはなすと駐車ブレーキが掛かります。

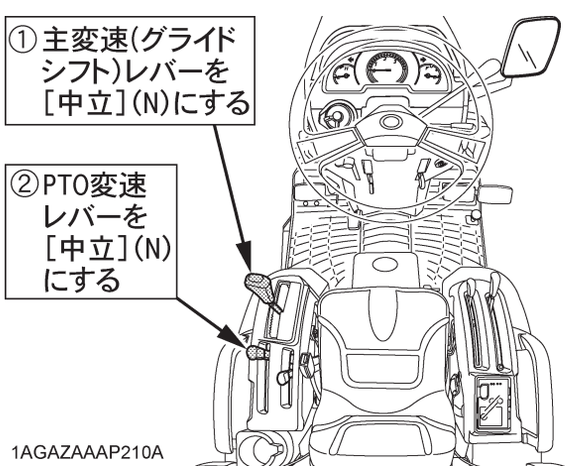


4. **各変速レバーを［中立］(N) にします。**

［マニュアルシフト仕様］



［グライドシフト（T）仕様］



補　足

［マニュアルシフト仕様］

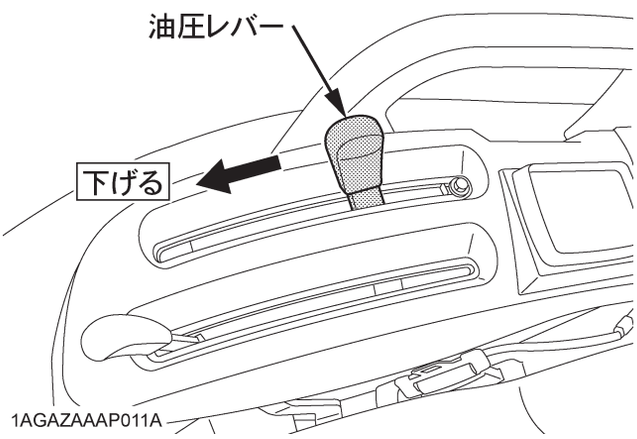
＊ シャトルレバー及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

［グライドシフト（T）仕様］

＊ 主変速（グライドシフト）レバー及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは作動しません。

5. キースイッチにキーを差込み［入］位置にします。

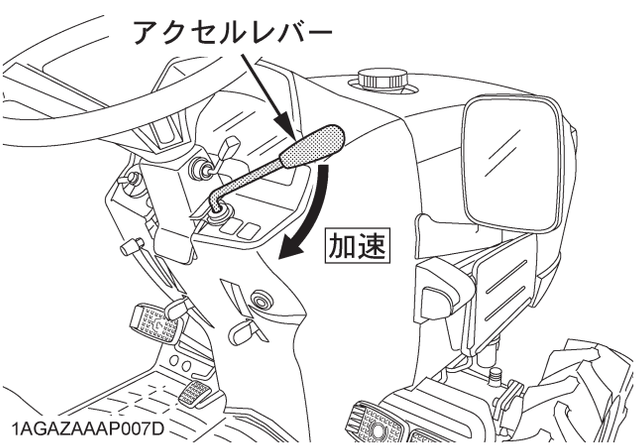
6. 油圧レバーを［前方に倒し］作業機を下げます。



補　足

＊ 油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）

7. アクセルレバーを［中程］まで引きます。



8. クラッチペダルを［踏込み］ます。

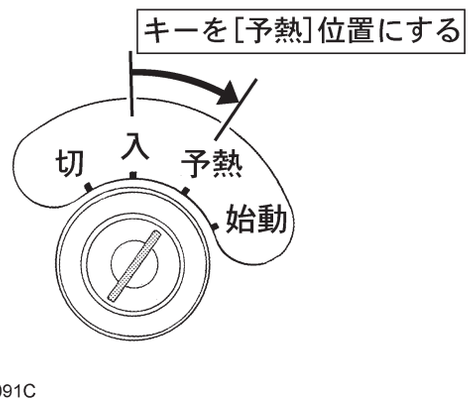
9. キーを［予熱］位置に回します。

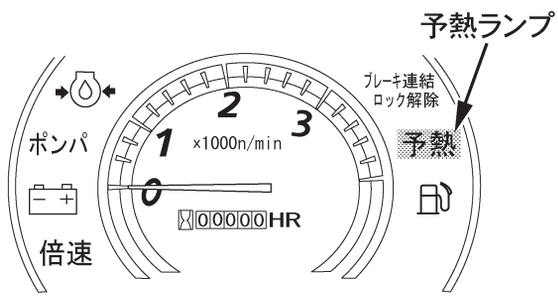
予熱時間は，下表を参考に行なってください。エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気　温	予熱時間
0 ℃以上	2 ～ 3 秒
0 ～ - 5 ℃	5 秒
- 5 ～ -15 ℃	10 秒

補　足

＊ 予熱中のみ，予熱ランプが点灯します。





10. キーを［始動］位置に回します。

補　足

＊ シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）と PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊ セルモータは，大電流を消費しますので，10 秒以上の連続使用は避けてください。
10 秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30 秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

11. エンジンが始動したら，キーから手をはなします。

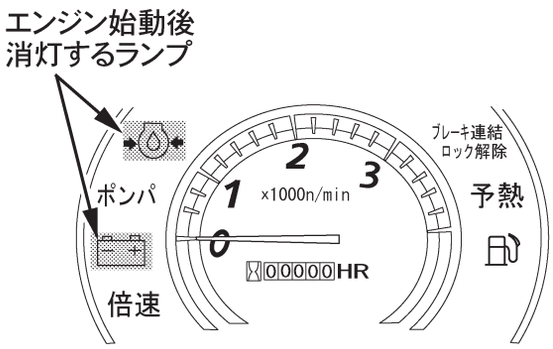
自動的に**［入］**にもどります。

重　要

＊ エンジン回転中は，キーを始動位置にしないでください。セルモータの故障原因になります。

12. イージーチェッカランプが［消灯］したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

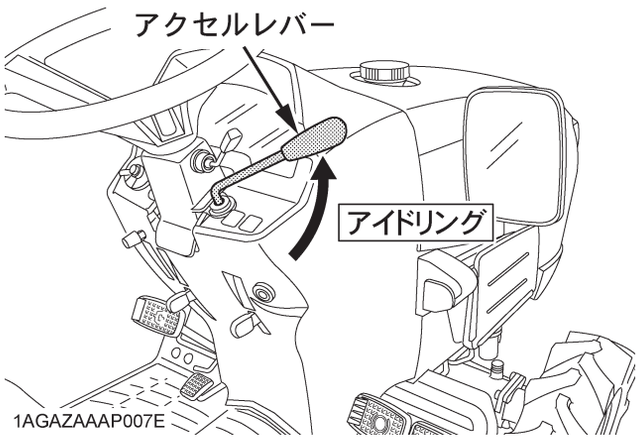


1AGAZAAAP005C

13. エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま５分程度暖機運転します。

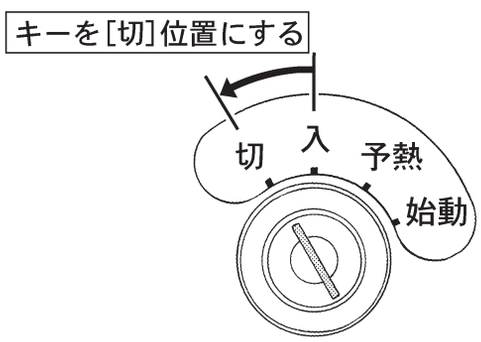
■停止のしかた

1. アクセルレバーをいっぱい前へ［押し］てアイドリング状態にします。



1AGAZAAAP007E

2. キースイッチのキーを［切］の位置にすると，エンジンは停止します。



1AGAAAPAP091B

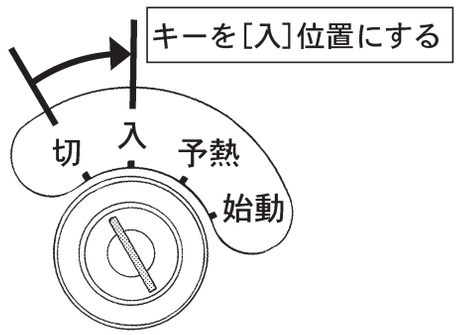
3. キーは必ず［抜き］ます。

重　要

＊ キースイッチの切り忘れによるバッテリあがり防止のため，必ずキーを抜いてください。

■キースイッチ

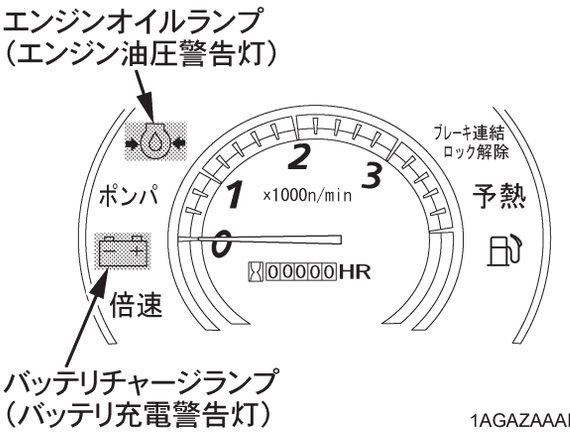
切 …… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入 …… エンジン回転中の位置。
予熱 …… 燃焼室内を予熱する位置。
始動 …… エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**[入]**に戻ります。



1AGAAAPAP091A

◆ イージーチェッカ

キースイッチを**[入]**位置にすると，エンジンオイルランプ（エンジン油圧警告灯），バッテリチャージランプ（バッテリ充電警告灯）が点灯します。



1AGAZAAAP005D

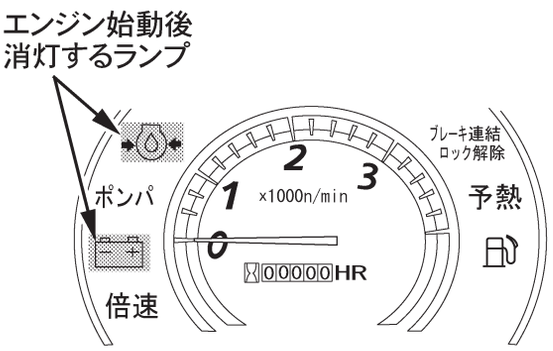
補　足

＊ 各レバーやスイッチの位置により，上記以外のランプも点灯又は点滅する場合があります。

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

バッテリチャージランプ
（バッテリ充電警告灯）
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**[入]**にすると点灯し，始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。

エンジンオイルランプ
（エンジン油圧警告灯）
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**[入]**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，点検してください。



1AGAZAAAP005C

■寒冷時の暖機運転

警　告

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆ グライドシフト（T）仕様

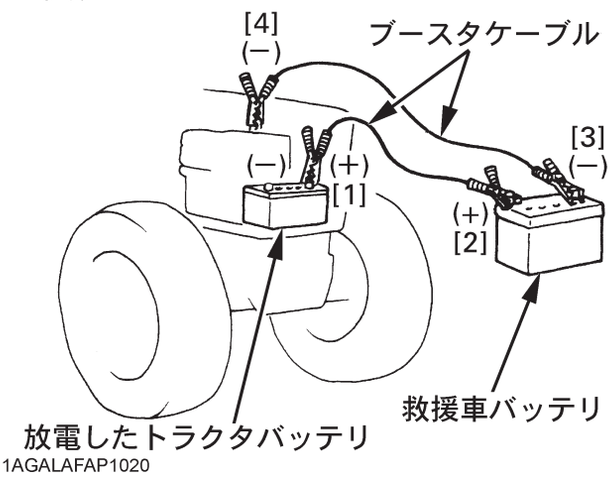
ミッションやステアリングを油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10 分間以上

■バッテリあがりの処置

ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

1. ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊ バッテリの（＋）端子同士を接続します。
＊ マイナスケーブルの他端【４】の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
（マイナスケーブルの他端【４】を直接バッテリの（－）端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。）



2. 救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
3. トラクタのエンジンを始動します。
（**【運転のしかた】**の章の**【エンジンの始動と停止】**の項を参照）
4. ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重　要

＊ 救援車は必ず 12V バッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。
＊ ケーブル接続の際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタや救援車の電子機器類が破損する場合があります。

■ならし運転（最初の約 50 時間）

この期間中は，特に次のことを厳守してください。

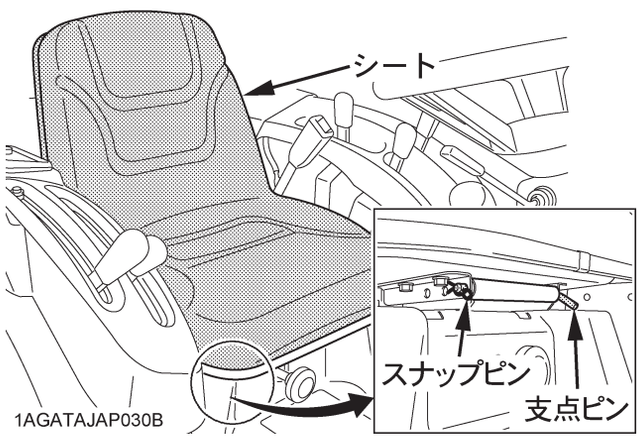
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしてください。
3. 運転は，エンジンがじゅうぶん暖まってから行なってください。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行してください。
5. 50 時間使用後，**［定期点検箇所一覧表］**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席周りの調節

■シート

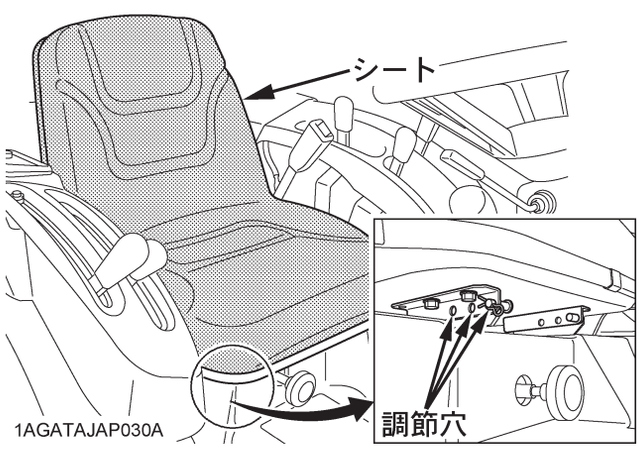
[GSK23]

1. シート下のスナップピンと支点ピンを外し，ピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。調整後は確実にスナップピンを差し込んでください。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



[GSK21]

1. シート下のスナップピンを外し，ピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。調整後は確実にスナップピンを差し込んでください。



■安全フレームとシートベルトについて

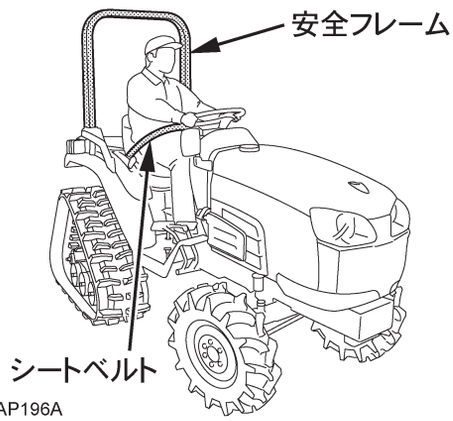
警　告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

- **＊ トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。**
- **＊ 納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。**
- **＊ 安全フレームの改造を絶対にしないでください。また，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。**
- **＊ 安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。**
- **＊ 安全フレームが確実に固定されているか確認してください。**
- **＊ 安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。**
  また折りたたんだり，立てたりするときは，トラクタの後方の安定した足場に立ち，両手でゆっくりと注意しながら行なってください。
- **＊ シートベルトは作業者の身体に合わせ長さを調節してください。**

補　足

＊ 安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



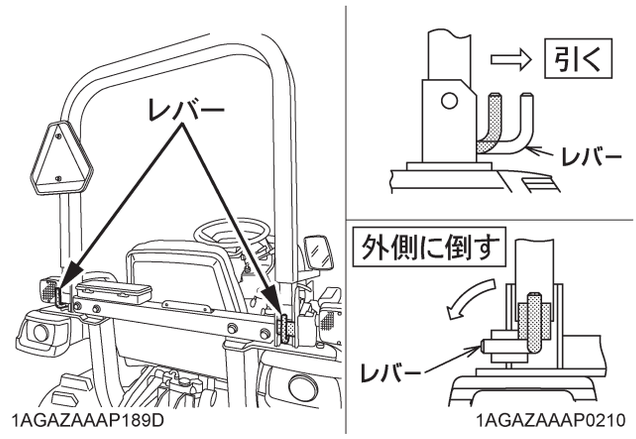
1AGAZAAAP196A

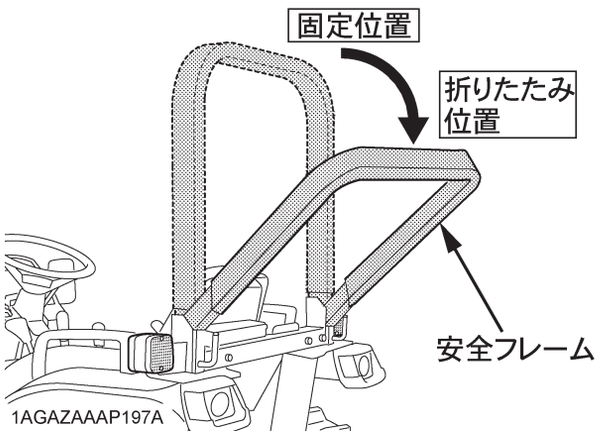
◆ 折りたたみ方法

1. レバーを後方へ引き，そのまま外側に倒します。(左右共)
2. 次に，安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

補　足

＊ 安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。





◆ 起こす方法

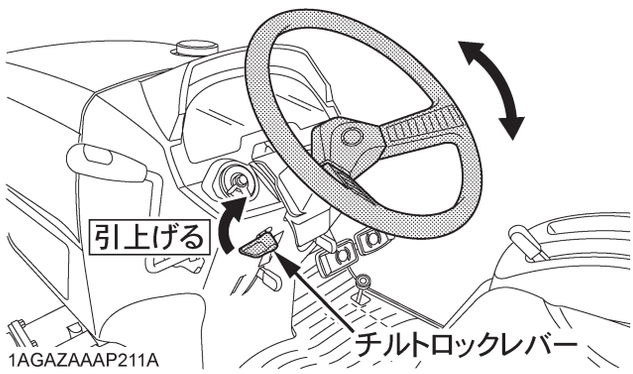
1. 安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。
2. レバーを立てて，そのまま前方へ確実に押し込みます（左右共)。
3. 安全フレームにガタがないか確認してください。

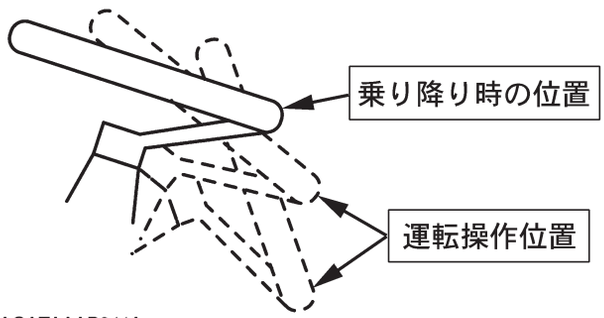
■チルトステアリングハンドル

警　告

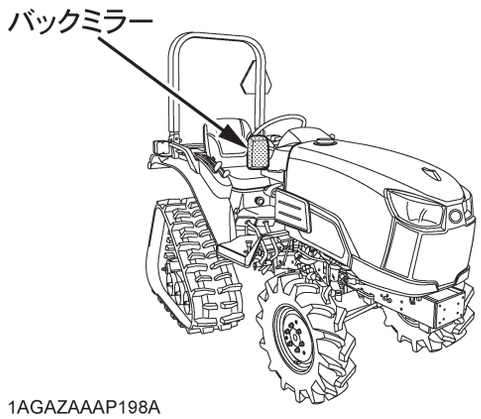
＊ 走行中の調節はしないでください。
＊ 調節後，ハンドルがロックされていることを確認してください。

チルトステアリングの操作はチルトロックレバーを引き上げて，適当な位置でレバーをはなして位置を決めてください。





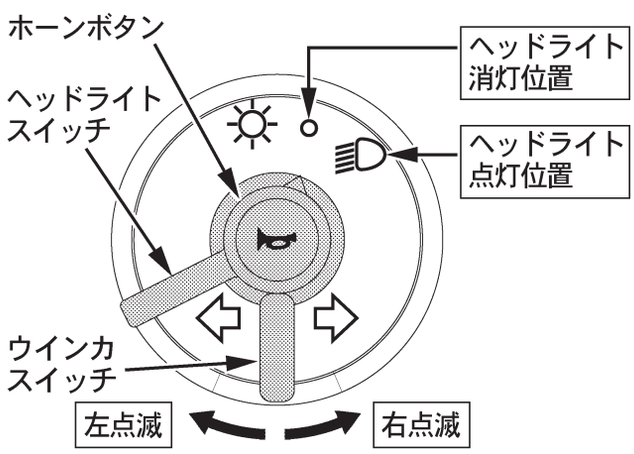
■バックミラー
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



1AGAZAAAP198A

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ



1AGAUAAAP063A

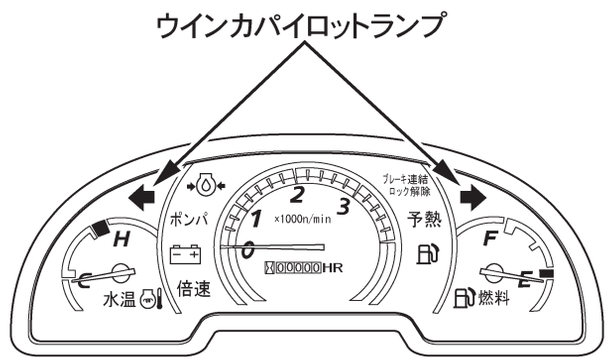
◆ ヘッドライトスイッチ
O ･･･ヘッドライト消灯位置

･･･ヘッドライト点灯位置

警 告

＊ 作業灯は［道路運送車両法の保安基準］第42条（灯火の色等の制限）において，［走行中に使用しない灯火］とされ，点灯したまま公道走行すると他の交通車両の妨害となることから公道走行中の点灯は禁止されております。

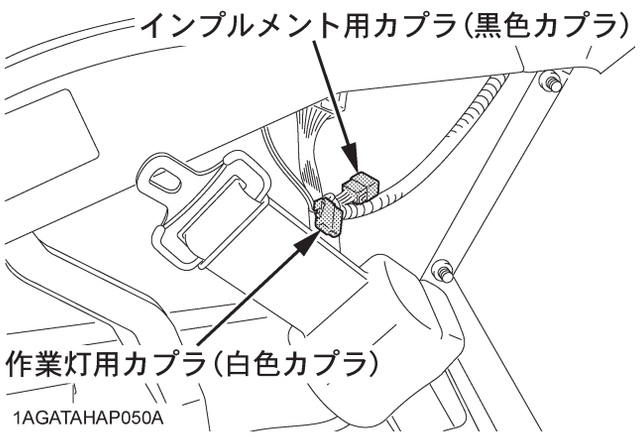
◆ ウインカスイッチ
1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



1AGAZAAAP005F

◆ ホーンボタン
ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

■外部電源取出端子
作業灯，インプルメント用電源を使用するときは，シート後部にカプラがあります。



1AGATAHAP050A

走行装置の取扱い

■発進・走行

警　告

＊ トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
また，安全キャブや安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊ 急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊ 坂を下りるとき，クラッチを切ったり変速を［中立］にして惰性で走行しないでください。
＊ 負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
周囲の状況をよくみて，安全であることを確認してからシャトルレバーを後進位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況によく注意して運転してください。
＊ 運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

［マニュアルシフト仕様］

1. 駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
3. クラッチペダルを踏込みます。
4. 作業に応じ前輪駆動および倍速ターンを切換えます。
5. 走行速度を選択します。
6. エンジンを加速します。
7. 駐車ブレーキを解除します。
8. クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

［グライドシフト（T）仕様］

1. 駐車ブレーキを確認し，エンジンを始動します。
（**［運転のしかた］**の章の**［エンジンの始動と停止］**の項を参照）
2. 油圧レバーを［後方に引き］作業機を上げます。
（**［作業のしかた］**の章の**［作業機昇降装置］**の項を参照）
3. クラッチペダルを踏込みます。
4. 作業に応じ前輪駆動および倍速ターンを切換えます。
5. 副変速レバーを**［低］・［中］**又は**［高］**に入れます。
6. エンジンを加速します。
7. 駐車ブレーキを解除します。
8. グライドシフトレバーをゆっくり操作し，発進します。

■停車・駐車

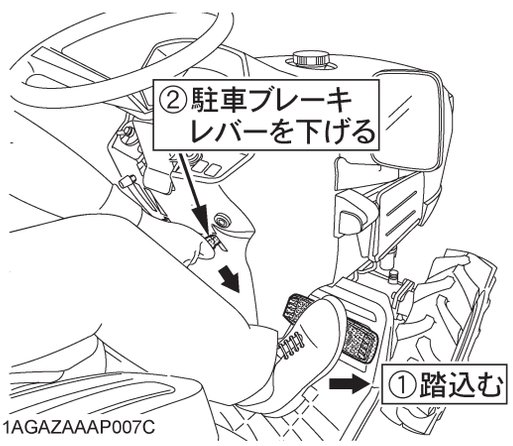
警　告

＊ グライドシフト（T）仕様は油圧ミッションのため，変速ギヤを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さないよう，必ず駐車ブレーキをかけてください。

警　告

＊ 駐車するときは，平たんでトラクタが安定する場所を選び，シャトルレバーもしくはグライドシフトレバー（主変速）と PTO レバーを［中立］(N)，作業機を［下げ］，駐車ブレーキを［掛け］，エンジンを［停止］してキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊ 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊ トラクタから降りるときは，ロータリなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2. クラッチ及びブレーキペダルを**［踏込み］**ます。
3. **［マニュアルシフト仕様］**
   完全に停止してからシャトル及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)**にします。
   ［グライドシフト（T）仕様］
   完全に停止してから，主変速及び PTO 変速レバーを**［中立］(N)**にします。
4. 作業機を取付けている場合は，油圧（ポジションコントロール）レバーをゆっくり**［前方に倒し］**作業機を下げます。
5. 駐車ブレーキを確実に**［掛け］**てください。



6. キースイッチを**［切］**にして，エンジンを停止します。

■ブレーキペダル

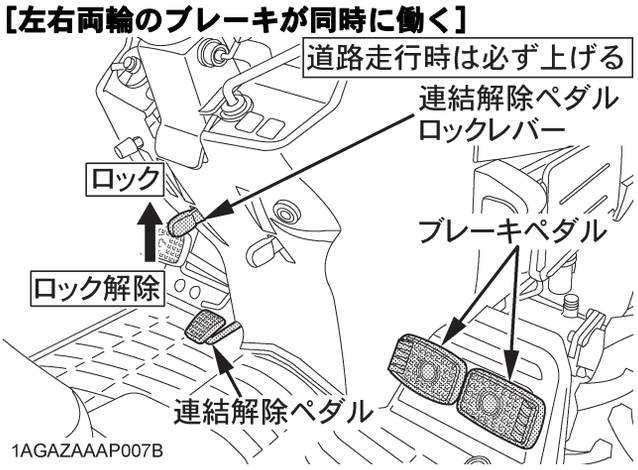
警　告

＊ 道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，連結解除ペダルロックレバーを［上げ］，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

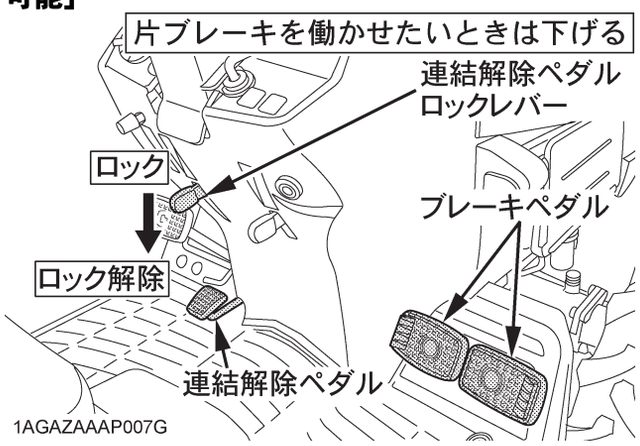
ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置です。
本機の場合，一般車両と異なり，ブレーキペダルは左右それぞれ独立しています。連結解除ペダルを踏み込まないときは，左右のブレーキペダルは連結されており，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結解除ペダルロックレバーを下げて，連結解除ペダルを解除位置まで踏込んだときのみ，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
ただしこれは農作業時に作業に応じて安全にじゅうぶん注意して行なってください。

連結解除ペダルロックレバーを上げた状態
…… 道路走行時。
連結解除ペダルロックレバーを下げた状態
…… 農作業時。

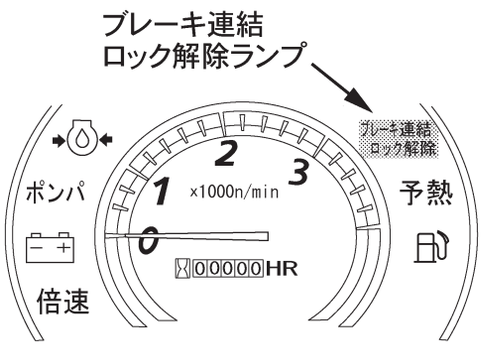
［左右両輪のブレーキが同時に働く］



［連結解除ペダルを踏込めば，片ブレーキ操作が可能］



◆ ブレーキ連結ロック解除ランプ
連結解除ペダルロックレバーを下げると**連結ロック解除ランプ**が点灯します。
道路走行時などでは連結解除ペダルロックレバーを上げて，ブレーキ連結ロック解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。



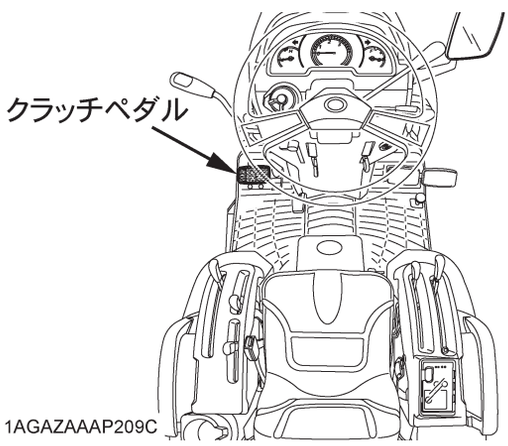
1AGAZAAAP005G

■クラッチペダル

警　告

＊ 急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。
ゆっくり行なってください。

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む …… クラッチが切れる。
ペダルから足を離す …… クラッチがつながる。



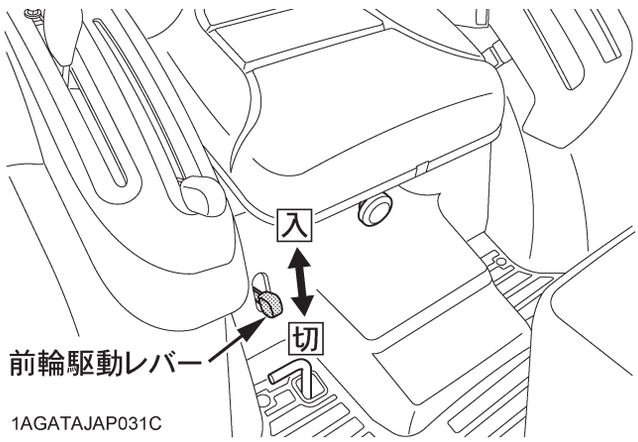
補　足

＊ 下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。

- 主変速レバー **［マニュアルシフト仕様］**
- シャトルレバー **［マニュアルシフト仕様］**
- 副変速レバー
- PTO 変速レバー
- 前輪駆動レバー

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。
前輪駆動 **［入］** …… ４輪が駆動される。
前輪駆動 **［切］** …… 前輪駆動が切れる。



重　要

＊ 前輪駆動レバーは，**［入］**か **［切］**の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆前輪駆動の使い方

警　告

＊ 前輪駆動を入れたままで，ほ場以外を走行すると危険です。走行前に必ず前輪駆動を［切］にしてください。

前輪駆動は，次のような場合にお使いください。

1. 一般的な耕うん作業を行なう場合。
2. 傾斜地，湿田などけん引力を必要とする場合。
3. 砂地で作業をする場合。
4. かたいほ場で，耕うん時の飛出しを防止する場合。

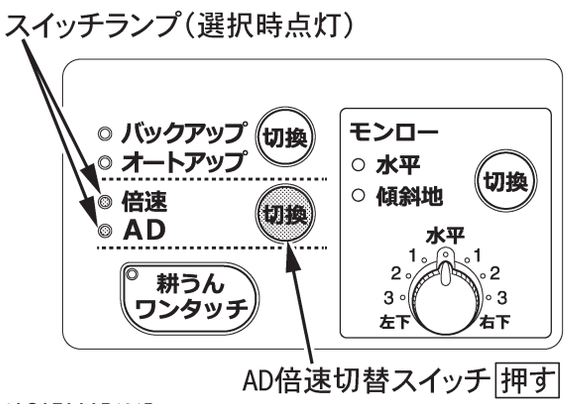
■ AD 倍速切替スイッチ

スイッチを押すごとに
[切⇒ AD 倍速⇒倍速⇒切]
の順に切換わります。
選択状態はモニタランプで表示されます。
なおスイッチは，クラッチ操作や走行・停止中に関係なく操作できます。

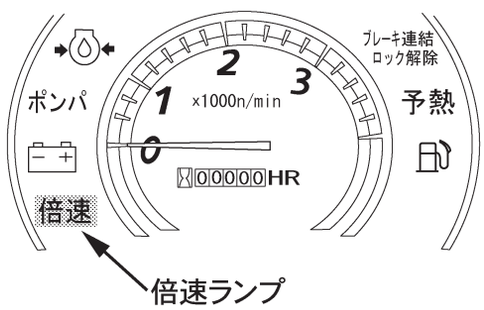
	スイッチランプ
倍速	倍速ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動します。
AD 倍速	AD ランプと倍速ランプが点灯し，旋回時に倍速ターンが作動すると同時に，AD（オートディスクブレーキ）も作動します。
切	ランプが消灯し，AD 倍速 / 倍速が切になります。

補　足

＊ メータパネル内の倍速ランプは倍速モードおよび AD 倍速モードで点灯し，**［切］**の状態で消灯します。



1AGAZAAAP191B



1AGAZAAAP005H

補　足

＊ 倍速やAD倍速は危険防止のため副変速レバーを**［高］**にすると作動しません。
＊ 倍速は前輪駆動レバーを**［切］**にすると作動しません。
＊ AD 倍速は前輪駆動レバーの位置にかかわらず選択されていると作動します。

◆ 倍速ターン／ AD 倍速ターン

警　告

＊ 倍速や AD 倍速に入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に AD 倍速スイッチでモードを［切］に切換えてください。
＊ 倍速や AD 倍速は，畑，水田などの作業機の作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターン

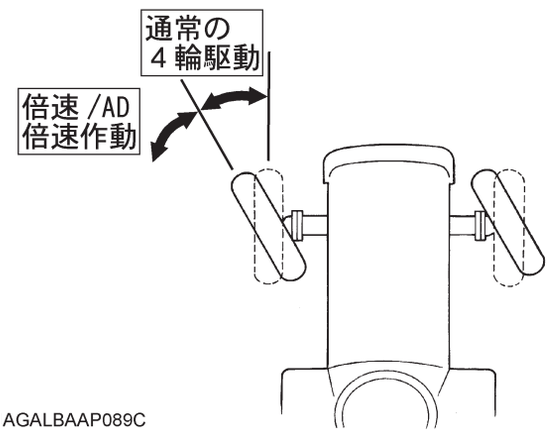
倍速の作動は次のようになっています。
[倍速] モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切っていくと，前輪の切れ角が，直進状態からある一定の角度になるまでは，通常の４輪駆動の回転数で前輪が駆動されます。更にステアリングハンドルを切ると，倍速が作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。

AD 倍速ターン

隣接耕うん作業をする場合に，枕地で軽く片ブレーキを踏み，旋回半径を小さくする操作が行なわれますが，AD 倍速はこの操作を自動的に行なうものです。

AD 倍速の作動は次のようになっています。

［AD 倍速］モードで旋回動作に入り，ステアリングハンドルを切って前輪の切れ角がある一定の角度以上になると，AD が作動し，内側後輪に軽くブレーキがかかるとともに，倍速が作動し，前輪の回転数がそれまでの約２倍の回転数で駆動され，小さくスムーズな旋回が行なえます。



1AGALBAAP089C

重　要

＊ トレーラけん引作業などの速度の速い作業には，使用しないでください。
＊ フロントローダを装着した場合は，使用しないでください。

補　足

＊ 軟弱なほ場では倍速を切ってください。
＊ 片ブレーキをさらに効かせたいときは，旋回内側のブレーキペダルを踏込んでください。

■ワンタッチ耕うんスイッチ

一般的なほ場で耕うん作業を行なう場合には，ワンタッチ耕うんスイッチを１回押すだけで，トラクタの自動装置はすべて標準的な状態に設定され，スイッチ**［入］**ランプが点灯します。

作業終了後，もう一度ワンタッチ耕うんスイッチを押すと，自動装置は**［切］**の状態になります。

（**［作業のしかた］**の章の**［モンローマチックの取扱い］**の**［ワンタッチ耕うんスイッチ］**の項を参照）

■各変速レバーの取扱い

下記レバーを組合わせて各作業に適した速度にします。

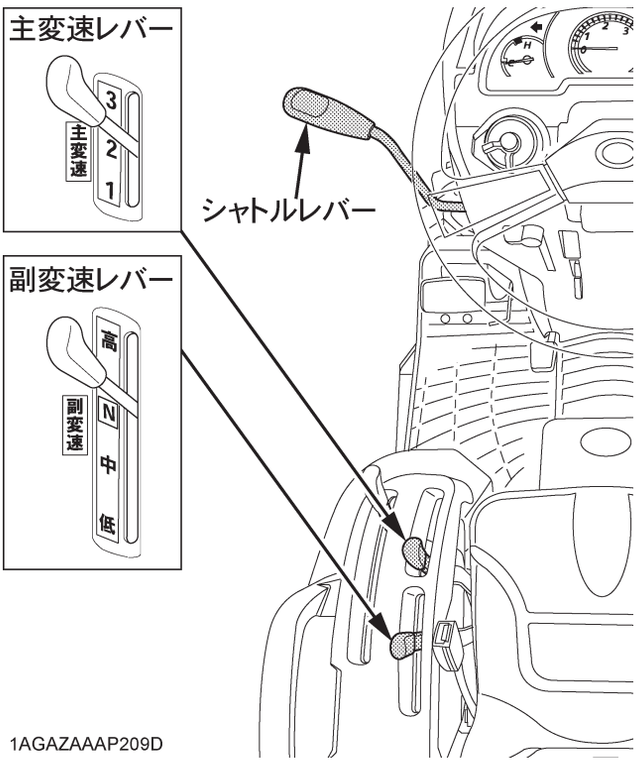
- 主変速レバー（グライドシフトレバー）
- 副変速レバー
- シャトルレバー

各作業に適した速度（目安）

作業名	速度　km/h
あぜ塗り・トレンチャ	～ 0.5
ロータリ	0.5 ～ 2.5
代かき・スキ	2.5 ～ 7.0
走行	7.0 ～

（**［付表］**の章の**［走行速度表］**の項を参照）

■マニュアルシフト仕様



３本のレバー操作を組合せることにより，前進９段・後進９段の車速が得られます。

重　要

＊ 操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。
＊ 各変速レバーは各変速位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆ シャトルレバー

警　告

＊ 急発進を避けるため，エンジン回転を下げてからシャトルレバーを操作してください。
＊ ［前進］←→［後進］のシフト操作は，いったん［中立］位置にして，トラクタの停止を確認してから操作してください。
＊ 後進は前進とほぼ同じ速度が出ます。
後進する場合は，周囲の状況が安全であることを確認してからシャトルレバーを［後進］位置に入れて，安全な速度で後進してください。
また後進中は，特に周囲の状況をよく注意して運転してください。

レバーを持ち上げ，前に押して**［前進］**，手前（後）に引いて**［後進］**です。

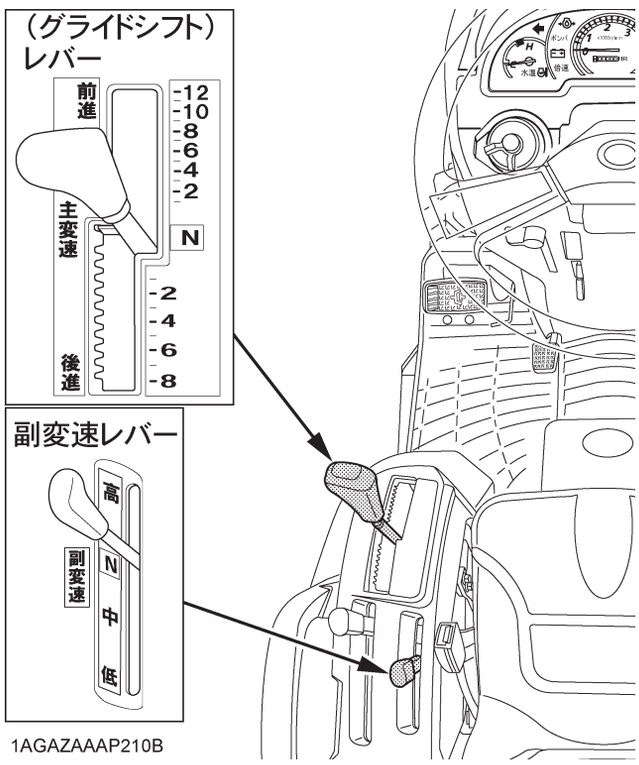
◆ 主変速レバー

レバー１本で３段の車速が選択できます。

◆ 副変速レバー

レバー１本で**［低速・中速・高速］**が選択できます。トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

■グライドシフト（T）仕様



重　要

＊ グライドシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。

◆ 副変速レバー

レバー１本で**[低速・中速・高速]**が選択できます。トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速（グライドシフト）レバーを**[中立]（N）**の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。
＊ 副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから行なってください。
＊ 副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。その時はグライドシフトレバーを少し動かしてから**[中立]（N）**に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

◆ 主変速（グライドシフト）レバー

注　意

＊ 安全のため，主変速（グライドシフト）レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを［中立］(N) の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

レバーを前に押して**[前進]**，手前（後）に引いて**[後進]**です。発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに（ノークラッチ），変速することができます。トラクタを効率よく性能を維持して使っていただくために，作業はできるだけエンジン 1500 回転／分以上で行ないましょう。

補　足

＊ 前後進とも，主変速レバーを右に倒しながら前後に操作することで**[中立]（N）**位置から無段階に加速・減速ができます。速度の固定は，レバーの爪をガイドの左側の溝に合わせることで前進 12 段，後進８段の選択ができます。
トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆ アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

 ····· レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

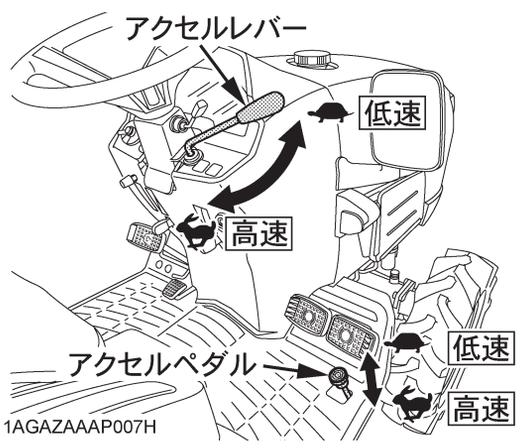
 ····· レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆ アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

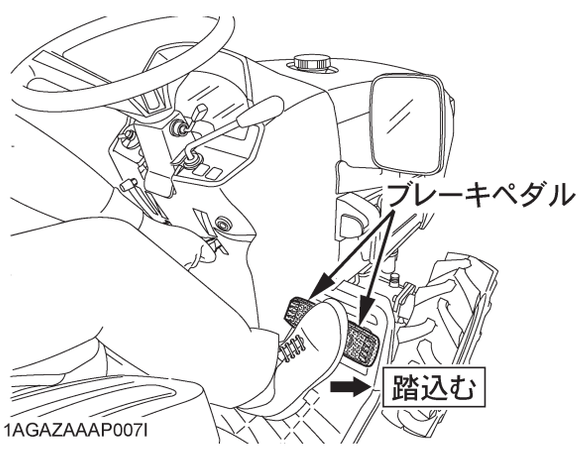
ペダルを踏込む····· エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す··· アクセルレバーで設定したエンジン回転まで下がる。



■駐車ブレーキの解除のしかた

連結解除ペダルを踏込まないでブレーキペダルを**［踏込む］**と駐車ブレーキレバーが解除されます。



運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

次の場合は，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音がした。
3. 排気色が急に黒くなった。

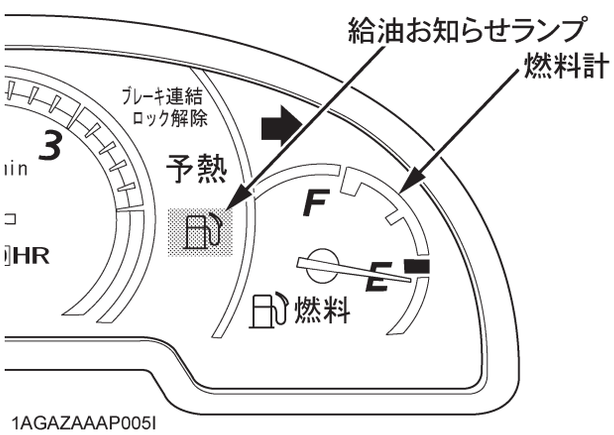
運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■燃料計

指針が**［E］**に近づいたら早めに燃料を補給してください。

「空」にすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。

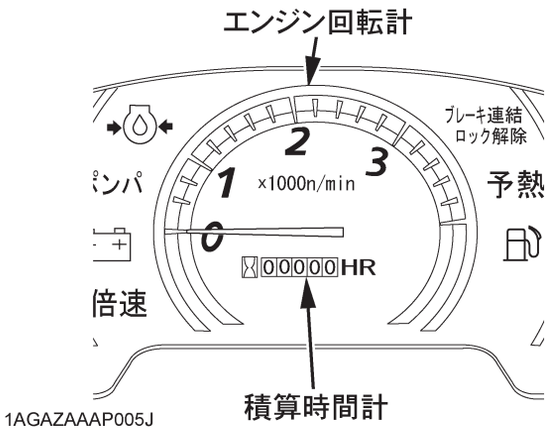
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）



◆ 給油お知らせランプ

燃料の残量が少なくなると点灯します。作業内容によって作業時間は異なります。（点灯後の作業時間：約 1 時間）

■トラクタメータ



1AGAZAAAP005J

◆ 積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は１ /10 時間（６倍すると**［分］**単位）を示します。

◆ エンジン回転計

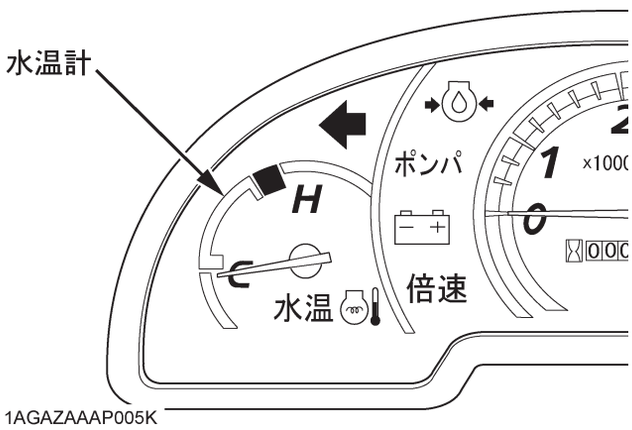
１分間のエンジン回転速度を示します。

■水温計

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**［H］**（レッドゾーン）を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



1AGAZAAAP005K

◆ オーバヒートしたときの処置

オーバヒート（水温計の針が**［H］**にあるとき）したときは，

1. 作業を中止し，
2. エンジンを約５分間アイドリング回転してから，
3. エンジンを停止し，停止後 30 分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。
   (1) リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量（不足），及び水もれがないか。
   (2) 防虫網及びラジエータフィンに，泥やゴミが付着していないか。
   (3) ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊ リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記**［オーバヒートしたときの処置］**を行なってください。

状況に応じた操作

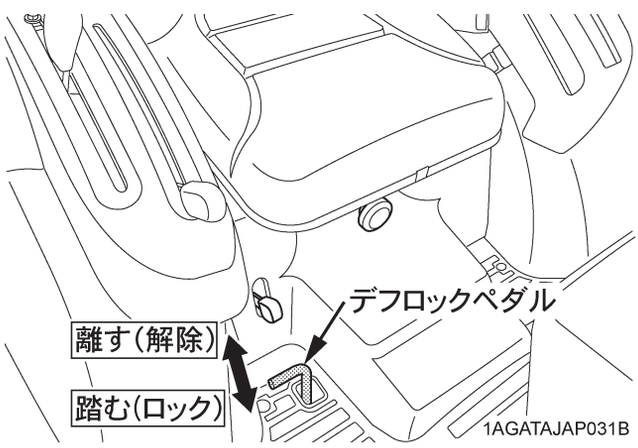
■デフロックの使い方

◆ デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏込む …… ロックされる。

ペダルから足を離す … 自動的に外れる。



1AGATAJAP031B

◆デフロックの使い方

警　告

＊ デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。

＊ 道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊ デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊ 抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊ 使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

■旋回のしかた

警　告

＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと旋回してください。

■坂道での運転

警　告

＊ 必ず連結解除ペダルロックレバーを［ロック］位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。
＊ 坂道では変速を［中立］にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊ 急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。

警　告

＊ グライドシフト（T）仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

■ほ場への出入り時の注意

警　告

＊ 必ず連結解除ペダルロックレバーを［ロック］位置にするとともに，デフロックの解除を確認してください。
＊ ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。
あゆみ板などを利用してください。
＊ ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊ グライドシフト（T）仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速（グライドシフト）レバーで減速してください

警　告

＊ 倍速や AD 倍速は［切］にしてください。

1. 作業機を地面近くまで下げて進むと，前輪が浮き上がりにくくなります。
   常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。

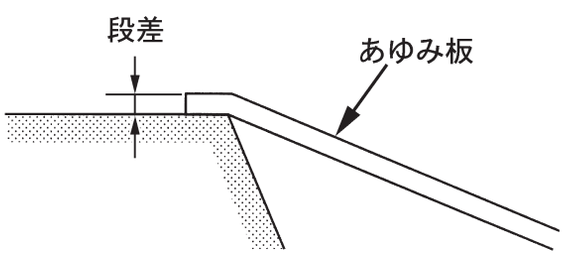
補　足

＊ 作業機の種類によっては，地面に接触すると破損する恐れがありますので注意してください。

2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

警　告

＊ クローラの片側だけが段差に引っかかり乗りあがらない状態になった場合，いったん車両を元に戻し，あゆみ板をかけ直してはじめからやり直してください。

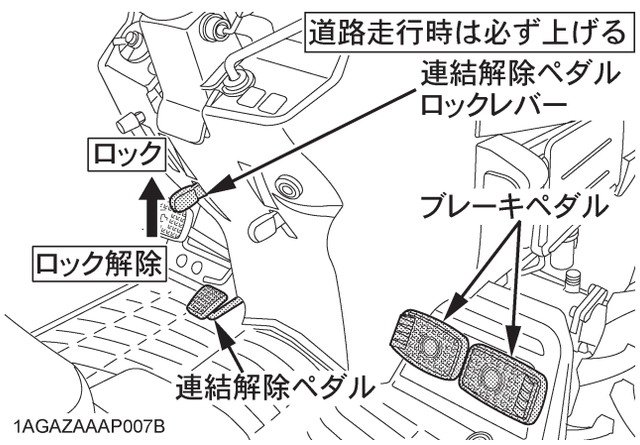


1AGACBUAP002A

■道路走行中の注意

警　告

＊ 道路を走行するときは，連結解除ペダルロックレバーを［上げ］，連結解除ペダルが踏めないことを確認してください。
連結を解除してブレーキを踏むと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



1AGAZAAAP007B

警　告

＊ 公道を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊ 運転者のほかは乗せないようにしてください。
転落事故の原因になります。
＊ 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊ インプルメントやアタッチメントを装着した状態では，[道路運送車両法の保安基準]を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと，トラクタとの組み合わせごとに，[保安基準]を満たしていることの確認が必要です。
＊ 作業機を装着して道路走行する場合には，他の車・電柱又はガードレールなどに作業機を引掛けて，事故の原因になるので，注意してください。
＊ 公道走行時にはモンロー切替スイッチを必ず［切］にして走行してください。
＊ 作業灯は［道路運送車両法の保安基準］第42条（灯火の色等の制限）において，[走行中に使用しない灯火]とされ，点灯したまま公道走行すると他の交通車両の妨害となることから公道走行中の点灯は禁止されております。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。
3. 公道走行中は後続車に低速農耕車が走行していることを知らせる低速車［SMV］マークを取付けてください。

■トラックへの積み・降ろし

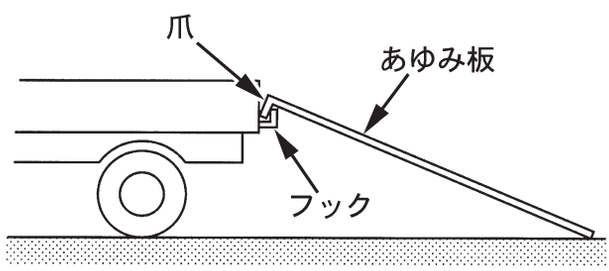
警　告

＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ 積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。
＊ 道路交通法規定により，トラック運搬時は地上高3.8m以下で運行してください。

万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

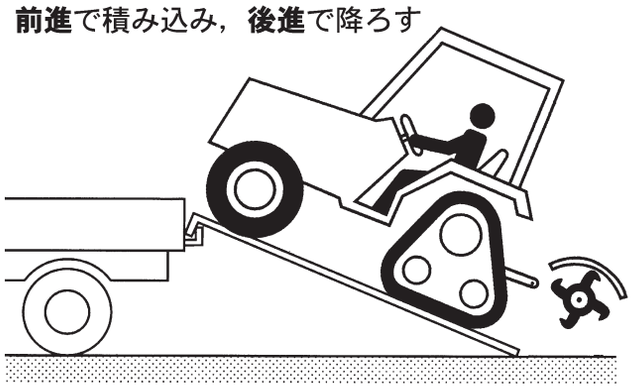
警　告

＊ トラックは荷台後部にあゆみ板の爪を掛けるフックが付いたものを使用してください。
＊ トラックへの積み・降ろしは，必ず連結解除ペダルロックレバーを［ロック］位置にし，[前進]で積み込み，[後進]で降ろしてください。前進で降りると，クローラがあゆみ板の段差ですべり，前輪が浮いて車体が旋回し，転倒事故につながるおそれがあります。



1AGACBUAP003A

前進で積み込み，**後進**で降ろす



1AGACBUAP004H

■パワーステアリングの取扱い

警　告

＊ パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作が大変軽くなりますので，走行は慎重に行なってください。

重　要

＊ パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。
＊ ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。
＊ ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音（リリーフ音）が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。（短い時間ではかまいません。）また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。
＊ 不必要なハンドルのスエ切り（走行しないでハンドルを切る）は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。
＊ 冬期は暖機運転をじゅうぶん行なってから使用してください。

■パワクロの特別な運転のしかた

パワクロトラクタの特別な運転のしかたを記載しています。これ以外の取扱い操作はタイヤ仕様のトラクタと同じです。

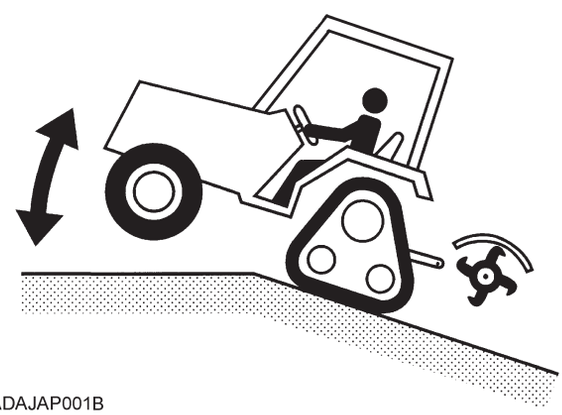
◆ 運転操作

警　告

＊ 凹凸やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

警　告

＊ クローラ部が凸部を乗越えるときは，急に姿勢が変わりますので十分注意してください。



1AGADAJAP001B

1. ほ場での旋回は速度を下げ，ハンドルとブレーキ（片ブレーキ）を併用してください。片側クローラをロックしての急旋回は，ほ場を荒らしますので，切返しでの旋回をお奨めします。

補　足

＊ パワクロは直進性に優れる分，旋回半径は大きくなります。ほ場での作業中は，必要に応じ旋回する側のブレーキを操作すれば，小さい旋回半径で旋回できます。

重　要

＊ クローラの構造上，左右に大きな段差のある状態で作業を行なうと，クローラが外れる場合があります。プラウ作業などで片側のクローラを溝に落としての作業は行なわないでください。
＊ あぜごえはあぜに対して垂直方向に走行し，途中で旋回しないでください。ゴムクローラが外れるおそれがあります。
＊ 道路走行でカーブを曲がったり，右左折する場合は速度を落してください。
クローラは直進性が優れるために，曲がりきれなくなる場合があります。
＊ 標準パワクロ（W 仕様 ）にて，うねや排水溝があるほ場を耕うんする場合は，うねの上を走行しながら耕うんしてください。溝を走行すると，クローラを傷める場合があります。

補　足

＊ 長距離の移動の際には，前輪タイヤ及びゴムクローラの早期摩耗防止のためにトラックやトレーラに積んで運搬することをお奨めします。
＊ クローラ部分に土がたまらないよう，定期的に清掃してください。
固まった土が遊輪，転輪のシールをいためる可能性があります。

警　告

＊ あゆみ板は左右の先端をそろえ，前後にずれないように確実に固定してください。
＊ あゆみ板とあゆみ板をかけた面との段差が大きい場合，運転には特に注意してください。
＊ 途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて低速で運転してください。
＊ あゆみ板は，十分な強度・幅・長さ（傾斜が 15 度以下になる長さ：トラックの荷台高さ，あるいはほ場乗入れ部高さの 4 倍以上）のあるすべり止め及び爪付きのものを使用し，パワクロの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。

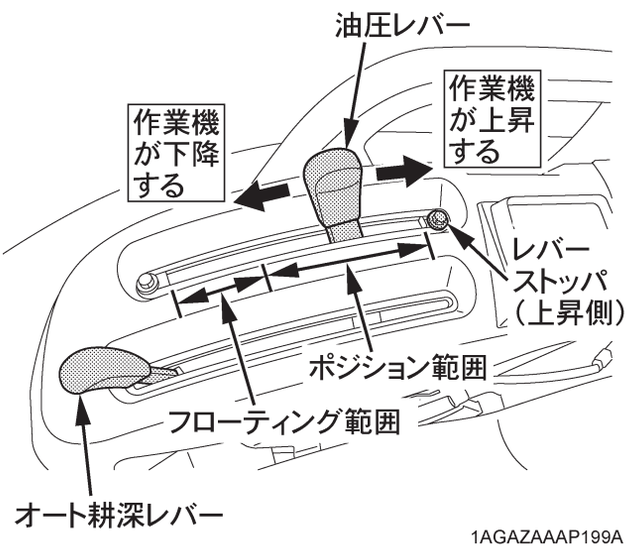
作業のしかた

作業機昇降装置

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧（ポジションコントロール）レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置です。



1AGAZAAAP199A

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。

補　足

＊ オート耕深レバーの取扱いは，**［メカオートの取扱い］**の章を参照。

重　要

＊ レバーガイド上昇側の端部にあるレバーストッパは動かさないでください。動かすと油圧レバーによる正常な昇降ができなくなります。

■ポンパレバー

警　告

＊ ほ場内作業以外では，ポンパを使用しないでください。
＊ ポンパアップ状態で道路走行しないでください。ほ場外（移動など）では油圧レバーを使用してください。

レバーのワンタッチ操作で作業機を上下させる装置です。ほ場内での旋回操作が便利になります。

レバー上げる（**ポンパ**ランプ点灯）	…… 作業機上昇
レバー下げる（**ポンパ**ランプ消灯）	…… 作業機下降

重　要

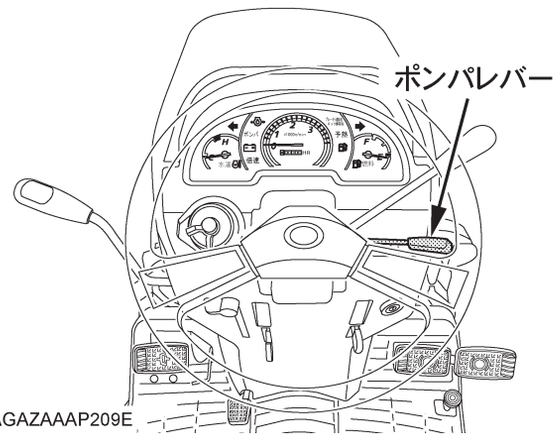
＊ 新しい作業機を装着したときは，ポンパレバーではなく油圧レバーを使って作業機を上げて，作業機がトラクタに当たらないことを確認してください。
＊ ポンパによる上昇操作では，上昇高さ規制ができません。作業機を上昇させたときに，トラクタと十分な隙間が確保できない作業機を使用する場合には，ポンパを使用しないでください。

補　足

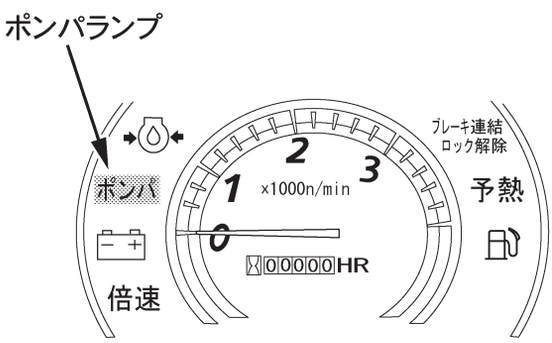
＊ ポンパレバーはスイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。

◆ ポンパの上手な使い方

ポンパレバーを解除したときの下降位置は油圧レバーで設定した位置になります。
例えば代かきハローなど，作業機の位置を固定して昇降させる場合，油圧レバー位置をセットしたまま，ポンパレバーにより昇降させることができます。



1AGAZAAAP209E



1AGAZAAAP005L

補　足

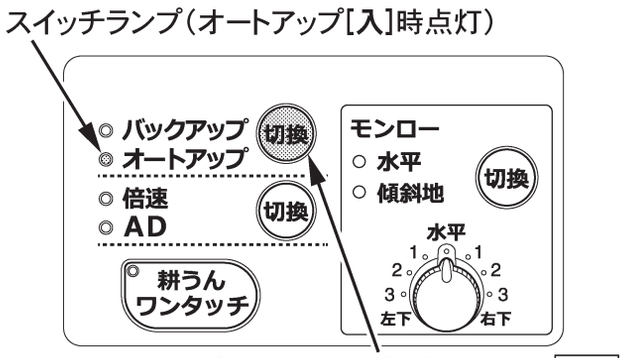
＊ ポンパランプが点滅している場合，油圧レバーを最上昇位置にするか，ポンパレバーを上げ側に操作しポンパランプの**［点滅を解除］**してから使用してください。

■バックアップ／オートアップ切替スイッチ

スイッチを押すごとに
［切⇒バックアップ／オートアップ⇒バックアップのみ⇒オートアップのみ⇒切］
の順に切換わります。
選択状態はスイッチランプで表示されます。
なおスイッチは，クラッチ操作や走行・停止中に関係なく操作できます。

◆ オートアップの使い方

1. バックアップ／オートアップ切替スイッチを押し，オートアップを**［入］**にします。
2. 隣接耕うん作業での旋回時，ステアリングハンドルを回すと，作業機が自動で上昇し，ほ場内での旋回操作が簡単にできます。
（上昇時ブザー音が１回鳴ります。）
3. ポンパレバーで作業機を下げるには：
ポンパレバーを**［下げ］**方向に操作します。
油圧レバーで作業機を下げるには：
油圧レバーをいったん最上位置に上げた後，油圧レバーを**［下げ］**方向に操作します。



1AGAZAAAP191C

補　足

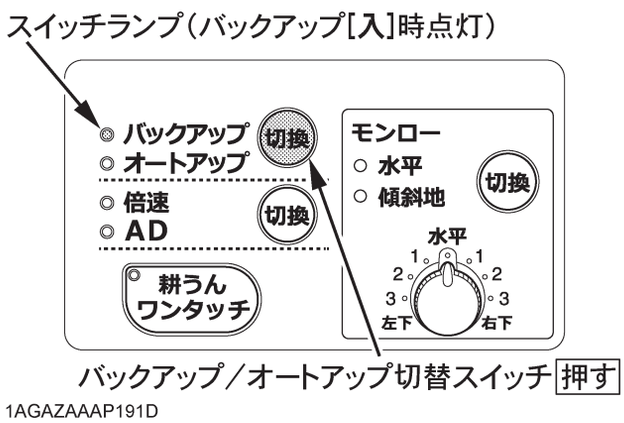
＊ オートアップが点灯中でもシャトルレバーが**［中立］**，**［後進］**及び PTO 変速レバーが**［中立］**の場合，オートアップは作動しません。
＊ 作業機を上げたくない作業で上がってしまうことがある場合，オートアップを**［切］**にしてください。

◆ バックアップの使い方

注　意

＊ スイッチの操作はエンジンを始動した後に行なってください。エンジン始動によりバッテリ電圧が一瞬下がりますので，スイッチの操作が無効になる場合があります。

1. バックアップ／オートアップ切替スイッチを押し，**［入］**にします。
2. シャトルレバー**［マニュアルシフト仕様］**，又は主変速レバー**［グライドシフト（T）仕様］**を**［後進］**に入れると，ポンパランプが点灯し，作業機が自動で上昇します。
3. ポンパレバーで作業機を下げるには：
   ポンパレバーを**［下げ］**方向に操作します。
   油圧レバーで作業機を下げるには：
   油圧レバーをいったん最上位置に上げた後，油圧レバーを**［下げ］**方向に操作します。



1AGAZAAAP191D

補　足

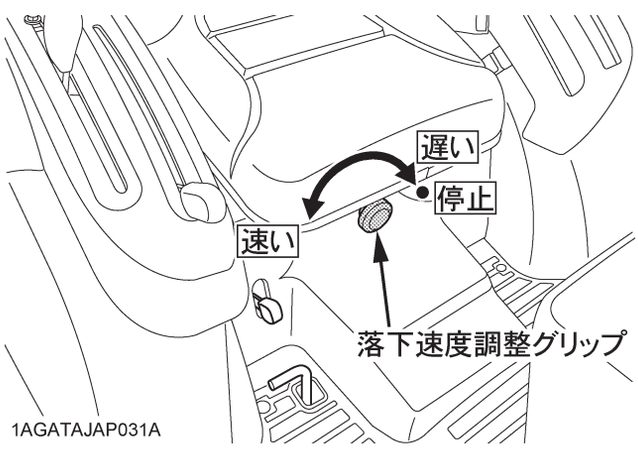
＊ バックアップを**［入］**にしておくと，後進時，作業機が自動的に上昇し，（うっかりバック）からの作業機の損傷を防ぎます。

■作業機落下速度の調整

警　告

＊ ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロック（停止）してください。
＊ 落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを［前方に倒して］，作業機が落下しないことを必ず確認してください。
＊ 確認後，再度油圧レバーを上げておいてください。
＊ ロックするとともに適切なジャッキ又はブロックで歯止めをし，落下防止を行なってください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



1AGATAJAP031A

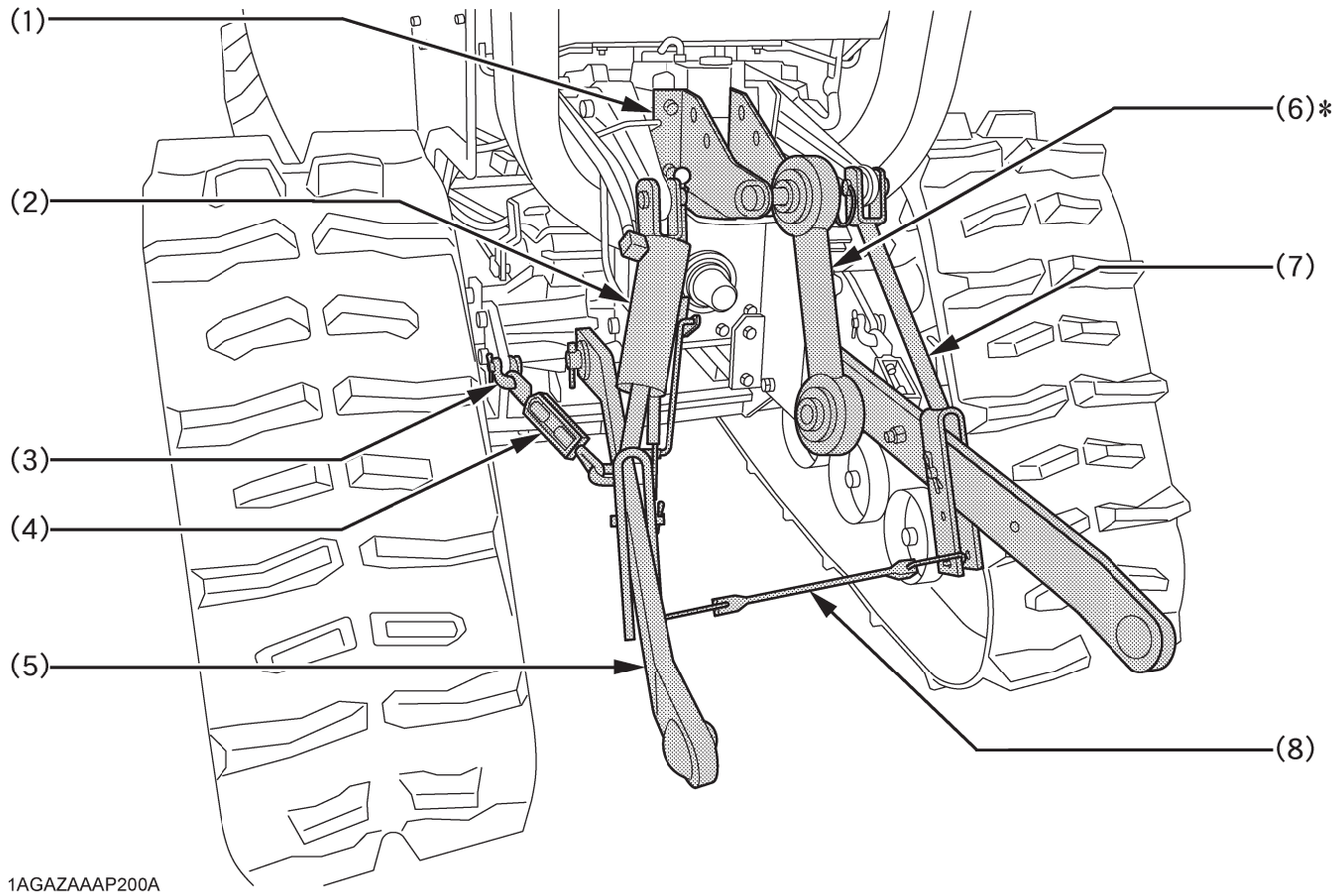
［速い］方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が速くなります。
［遅い］方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**［停止］**方向に一杯まで回すと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

重　要

＊ グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますので無理に回さないでください。

三点リンク



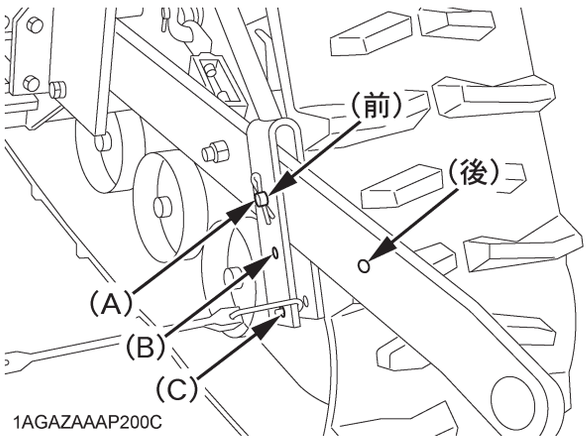
(1) トップリンクブラケット
(2) リフトシリンダ（リフトロッド左）
(3) チェックチェーン
(4) ターンバックル
(5) ロアーリンク
(6) トップリンク
(7) リフトロッド（右）
(8) 振止めゴム

＊ トップリンクはロータリ側の部品です。
1. 三点リンクは，JIS 0 形です。

1. インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 特殊三点リンクロータリを使うときは，**（A）**と**（前）**の取付け穴を使ってください。
2. 一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。



2. 作業機の着脱

警　告

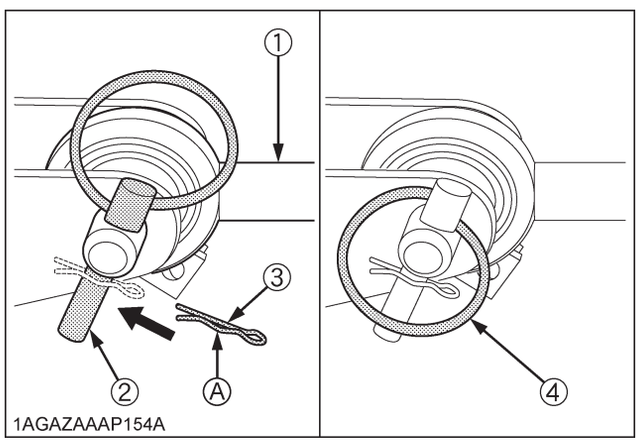
＊ 作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどの PTO 作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊ 駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊ 作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊ 作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンク

1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

重　要

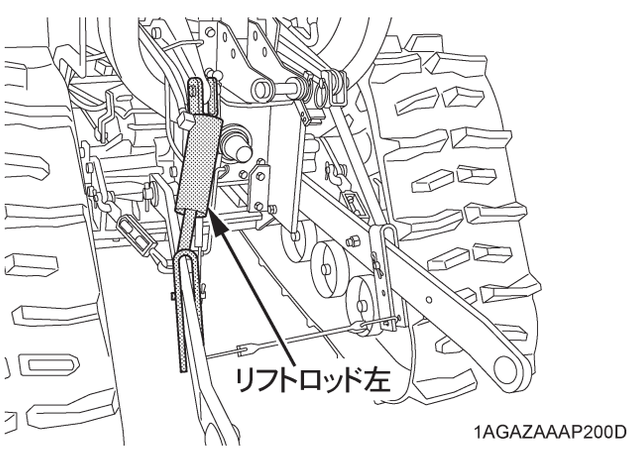
＊ トップリンクを取り付ける際は，抜け止めにセットピンを入れ，スナップピンの曲線部を外側の向きにしてセットピンの穴に取付けた後，リングを倒し，トップリンクが外れないようにしてください。



①トップリンク
②セットピン
③スナップピン
④リング
Ⓐ 曲線部

■リフトロッドの調整

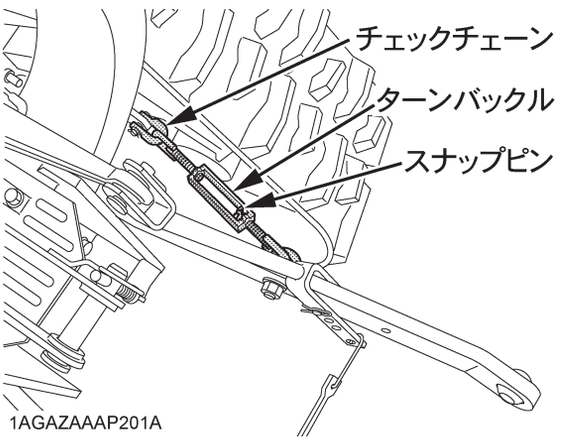
リフトロッド左を操作して，作業機の傾きを調整してください。
（調整方法は**［モンローマチックの取扱い］**の項を参照）



■チェックチェーン

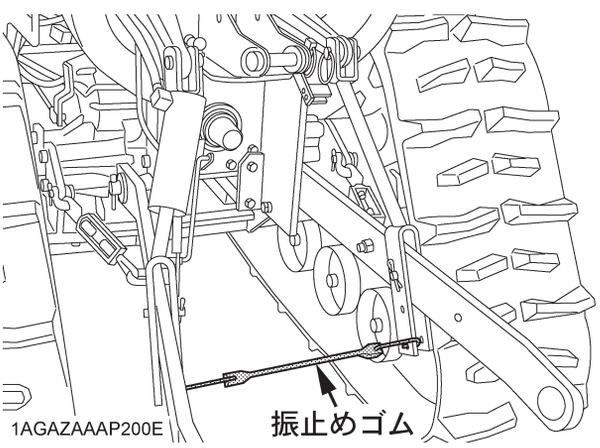
ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

作業機	チェーンの張り具合
ロータリ， 代かきハロー	作業機が横方向に１～２ cm 動く程度
プラウ， ハロー， サブソイラ， ディガー	ゆるめる 作業機が横方向に５～６ cm 動く程度（ロアーリンク，リフトロッドなどがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モアー， ヘイレーキ， テッダ， リッジャ， カルチベータ	軽く締める



■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪にあたらないように，左右振止めをしてください。



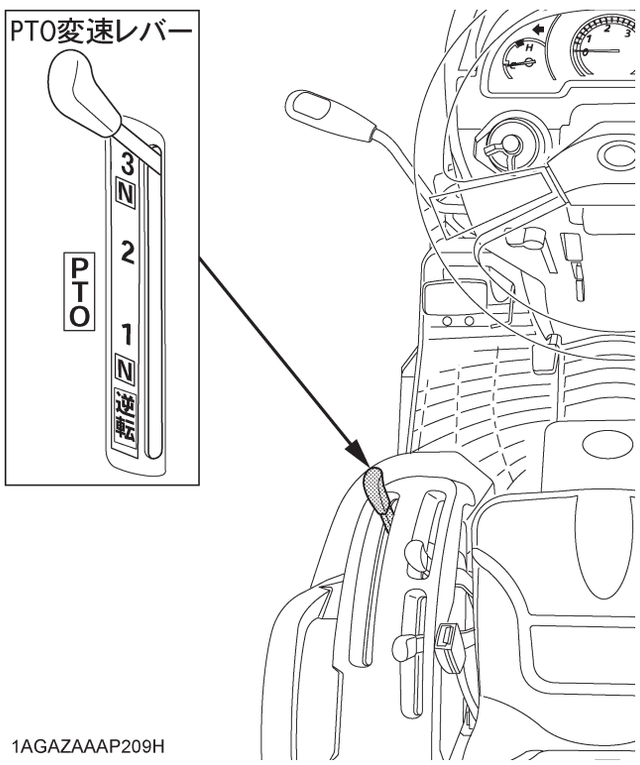
PTO

■ PTO 変速レバー

警　告

＊ 作業機に指定された PTO 回転速度を厳守してください。低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO 軸（動力取出し軸）の回転速度を，正転３段階，逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。



◆ PTO［逆転］使用時の注意点

1. 使用できる作業機

＊ メーカ指定のロータリに限ります。

重　要

＊ メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業

＊ 軟弱地での土寄せ作業
＊ 草やワラなどの巻きつきをほぐすとき

補　足

＊ 土寄せ作業は，エンジン回転数 1500rpm 位で作業すると，泥飛びも少なく効果があります。

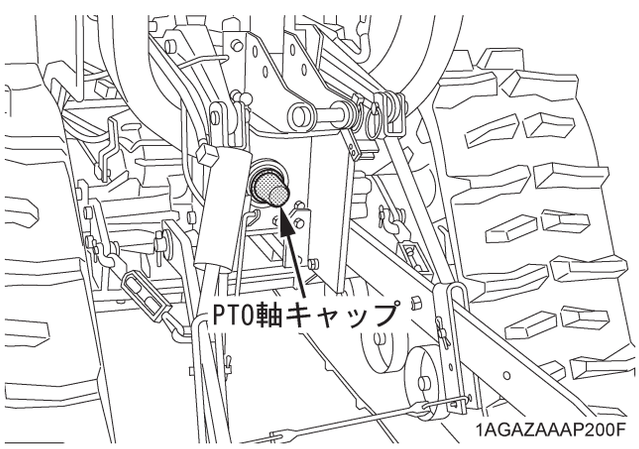
3. 使用できない作業

＊ 逆転耕うん作業
＊ 未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
＊ ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

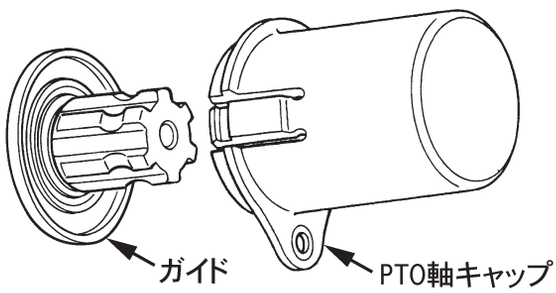
■ PTO 軸キャップ

警　告

＊ PTO 軸を使わないときは，PTO 軸にグリースを塗布した後，PTO 軸キャップを取付けておいてください。
そうしないと，巻込まれによる死傷事故を引起すおそれがあります。
＊ PTO 軸キャップを使用しないときは，PTO 軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。



◆ PTO キャップの取付け方



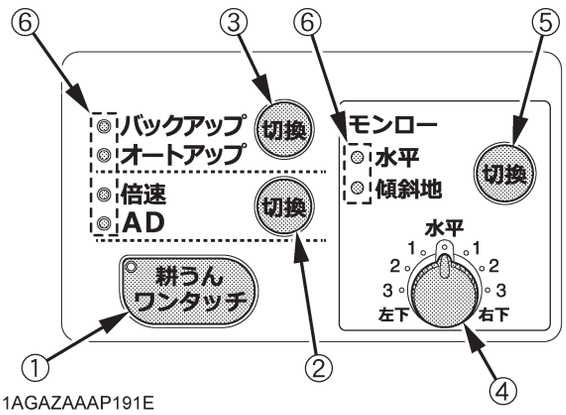
1AGATAAAP050A

1. PTO 軸キャップをガイドにはめ込みます。

モンローマチックの取扱い

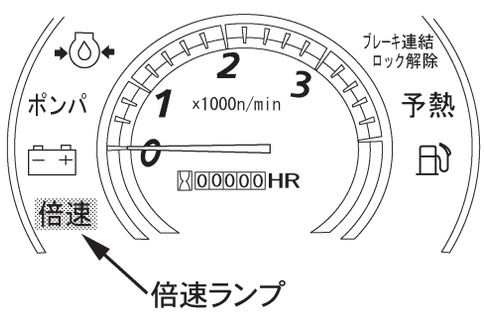
■各部の名称

各操作スイッチには，スイッチ上部を指先で軽く押すごとにモードが切り換わるタッチ式スイッチを用いています。また，スイッチでの選択状態を，各スイッチランプで表示します。



1AGAZAAAP191E

①ワンタッチ耕うんスイッチ
② AD 倍速切替スイッチ
③バックアップ／オートアップ切替スイッチ
④角度調節ダイヤル
⑤モンロー切替スイッチ
⑥スイッチランプ



1AGAZAAAP005H

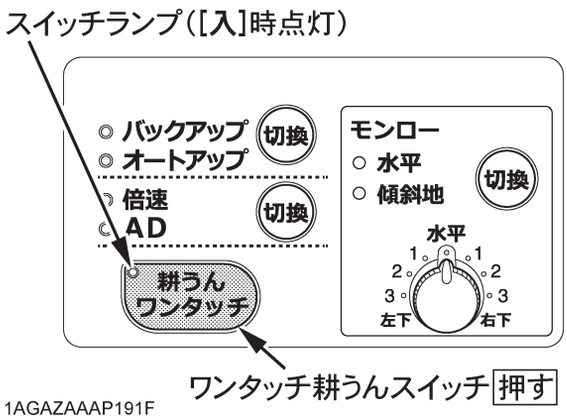
■ワンタッチ耕うんスイッチ

一般的なほ場で耕うん作業を行なう場合には，ワンタッチ耕うんスイッチを 1 回押すだけで，トラクタの自動装置はすべて標準的な状態 ※**［バックアップ］［オートアップ］［AD 倍速］がすべて［入］，［モンロー］**は**［水平］**に設定され，スイッチ**［入］**ランプが点灯します。

※**［ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法］**により変更できます。

作業終了後，もう一度ワンタッチ耕うんスイッチを押すと，自動装置はすべて**［切］**の状態になります。

また，作業により**［バックアップ・オートアップ・AD 倍速・モンロー］**の入・切などを個々に設定変更することもできます。（詳細は各スイッチの取扱いの項を参照）



1AGAZAAAP191F

◆ ワンタッチ耕うんモードの任意変更

作業に応じ各操作スイッチで各自動装置の設定が変更できます。(設定を変更した場合は，ワンタッチ耕うんスイッチのランプは消灯します。)
初期設定状態に戻すには，ワンタッチ耕うんスイッチを押してランプを点灯させた後，再度スイッチを押すと，自動装置はすべて**【切】**になります。

	操作スイッチ	操作方法
片ブレーキをかけたくない。倍速を効かせたくない。	AD 倍速切替スイッチ	希望の状態に切換える。
モンローを使用しない。	モンロー切替スイッチ	**【切】**にする。
傾斜地モンローを使用する。	モンロー切替スイッチ	**【傾斜地】**に切換える。
オートアップ不要の時。	バックアップ／オートアップ切替スイッチ	**【切】**にする。
バックアップ不要の時。	バックアップ／オートアップ切替スイッチ	**【切】**にする。

補　足

＊ 作業後または作業中にエンジンを停止した場合には，停止前の状態を記憶しています。
＊ モンローマチック，オートアップ，バックアップ，および AD 倍速，倍速については，それぞれ**【モンロー切替スイッチ・バックアップ／オートアップ切替スイッチ・AD 倍速切替スイッチ】**の項を参照してください。

◆ ワンタッチ耕うんモードの設定変更方法

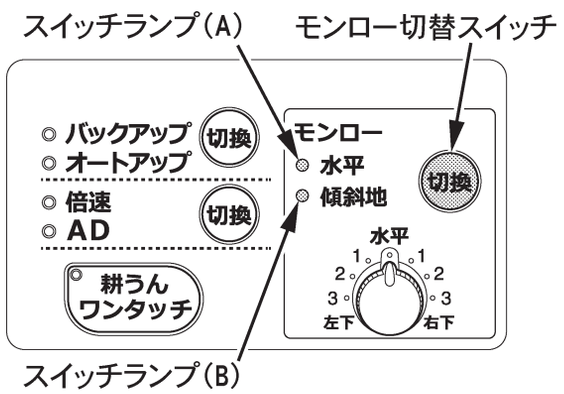
よく使用する設定をワンタッチ耕うんモードとして記憶させることができます。
1. ワンタッチ耕うんスイッチを押し，ワンタッチ耕うんスイッチのランプを**【点灯】**状態にします。
2. ワンタッチ耕うんモードの設定を変更します。(例えばバックアップが不要な場合はバックアップ／オートアップ切替スイッチを押して**【切】**にします。)
3. ワンタッチ耕うんスイッチを５秒間長押しします。
   ５秒後「ピ」とブザー音が作動すれば設定が記憶されます。
4. ワンタッチ耕うんモードの設定を工場出荷設定に戻したい場合は，ワンタッチ耕うんスイッチを 10 秒間長押しします。
   ５秒後に「ピ」とブザー音が作動し，10 秒後に２回目の「ピ」とブザー音が発生すれば，工場出荷の設定に戻ります。

■モンロー切替スイッチ

警　告

＊ 走行時は必ず［切］にして走行してください。
また，落下速度調整グリップを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

スイッチを押すごとに**【水平➡傾斜地➡切（手動)】**の順に切換わります。
下記作業に応じ，いずれかを選択してください。
水平選択時 …… スイッチランプ (A) 点灯
傾斜地選択時 …… スイッチランプ (B) 点灯
切(手動)選択時 … スイッチランプ (A・B) 消灯



1AGAZAAAP191G

◆ 水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または水平面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1. 角度調節ダイヤルが**【水平】**位置の場合
(作業機は常に水平に保たれます。)
＊ 水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
＊ 整地板・代かきロータリなどによる均平作業
＊ 畑での畝立て，畝崩し作業その他
2. 角度調節ダイヤルが**【水平】**位置以外の場合
(作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。)

補　足

＊ モンロー切替スイッチが**【水平】**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

◆ 傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊ 適応作業:傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業(マルチ・リッジャ等)

補　足

＊ モンロー切替スイッチが**【傾斜地】**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。
＊ **【傾斜地】**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は，**【切】**（手動）で使用してください。

◆ 切（手動）

モンローマチックの自動制御が解除され，**位置制御**になります。

＊ 適応作業：メロンなどの高畝作り・作業機の脱着

補　足

＊ モンロー切替スイッチが**【切】**（手動）では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。

＊ **位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。
モンロー切替スイッチを**【切】**（手動）にすると，リフトシリンダの長さを角度調節ダイヤルで設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。

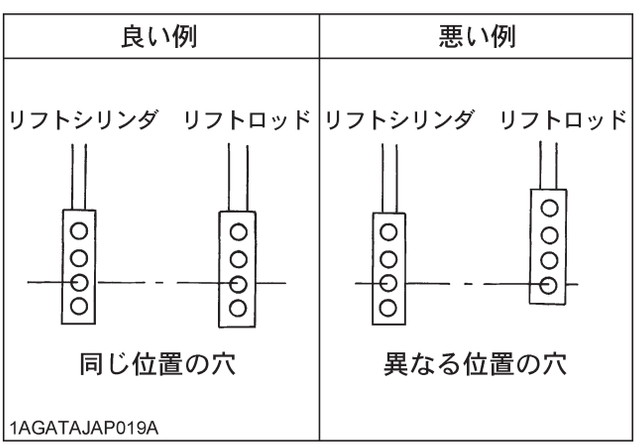
重　要

＊ モンローマチックが不要の場合（フロントローダ作業などの場合）には，**【切】**で作業してください。

＊ **【手動】**で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。

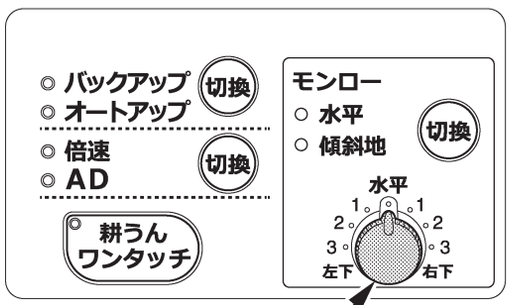
＊ チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンはロータリが横方向に１～２㎝動く程度に調整してください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。



■角度調節ダイヤル

モンロー切替スイッチが**【水平】**及び**【切】**の場合，作業機の姿勢を調節するときに角度調節ダイヤルを使用します。



【水平選択時】

1. ダイヤルを**【水平】**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**【左下】**方向に回すと，作業機は水平に対し左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**【右下】**方向に回すと，作業機は水平に対し右下りに保持されます。

【手動選択時】

1. ダイヤルを**【水平】**位置にすると，作業機は本機と平行に保持されます。
2. ダイヤルを**【左下】**方向に回すと，作業機は本機に対し左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**【右下】**方向に回すと，作業機は本機に対し右下りに保持されます。

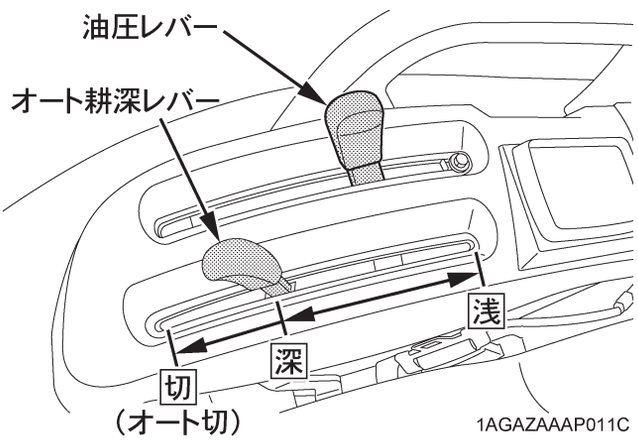
メカオートの取扱い

後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
なお，オート耕うんの仕上りは装着している作業機の調整によっても大きく変わります。トラクタと作業機の正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■オート耕深レバー

このレバーでオート耕うんの**［切］**及び**［入］**（耕うん深さの自動設定）が行なえます。

1. オート耕深レバーを**［浅］**方向にすると，ロータリの耕深が浅く保持されます。
2. オート耕深レバーを**［深］**方向にすると，ロータリの耕深が深く保持されます。
3. オート耕深レバーを**［切］**位置にすると，オートが切となります。
4. 作業中，油圧レバーは一番下にしておいてください。
5. ロータリの上げ下げは，外側の油圧レバー，もしくはポンパレバー（ほ場内作業時のみ）で行なってください



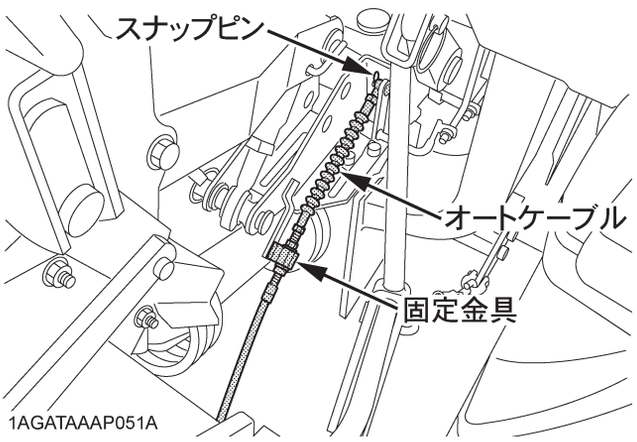
補　足

＊ 目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊ 畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態（オート耕深レバーを**［切］**位置）にしてください。
＊ オート耕深レバーを**［切］**位置にせず，ロータリカバーを持上げたままオート耕深レバーを**［浅］**方向にすると，油圧系統の故障原因となります。

■ロータリ着脱時の注意

ロータリの着脱時には，（３点リンク，ジョイントと共に）オートケーブルの着脱が必要です。

1. オート耕深レバーを下げ**［切］**位置にします。
2. スナップピンを外し，オートケーブルの先端をピンから外します。
3. オートケーブルを，固定金具から外します。



補　足

＊ 外したスナップピン・ケーブルは，紛失したり傷めたりしないよう大切に保管してください。

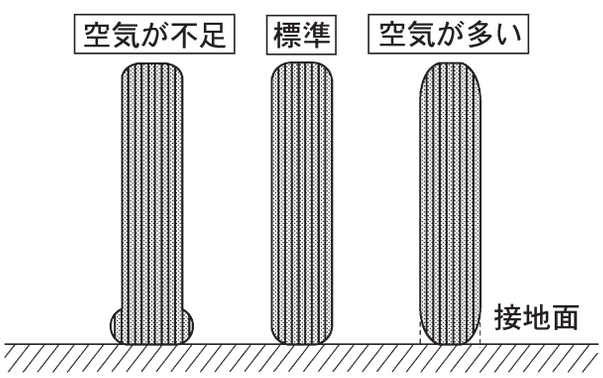
タイヤ

■タイヤの空気圧

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安は次のとおりです。



1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

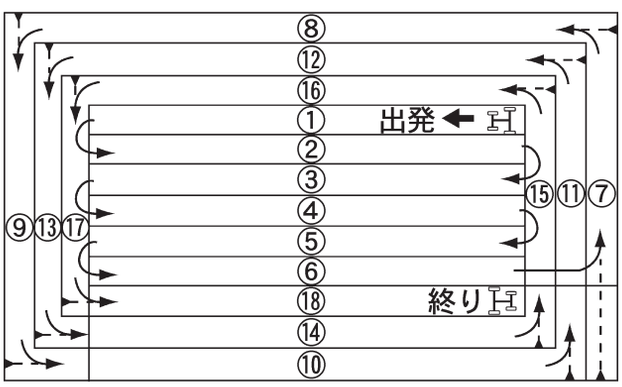
	タイヤ	空気圧 kPa（kgf/cm²）
前輪	4.00-18	240（2.4）
	5-12	220（2.2）
	6-12，7-16	200（2.0）
	6.00-12	180（1.8）
	5.00-12	120（1.2）

一般的な耕うん要領

■隣接耕うんのしかた

作業条件により，車速及びPTO回転速度を決めて耕うんを始めます。

1. 図の長方形部分１枚が，直進１回で耕うんされる耕作地を示しています。
2. 図のような順序をとるのは，１度耕うんしたところを後輪タイヤで押えないための最善の方法です。
3. 従って出発点は，トラクタが最後に外に出る場所によって決まります。
4. 直進が終って，次の直進に移るまでは，ロータリを上げて旋回します。
5. サイドドライブロータリは，サイドフレーム側があぜ際になるようにして，あぜ際耕うんを行ないます。



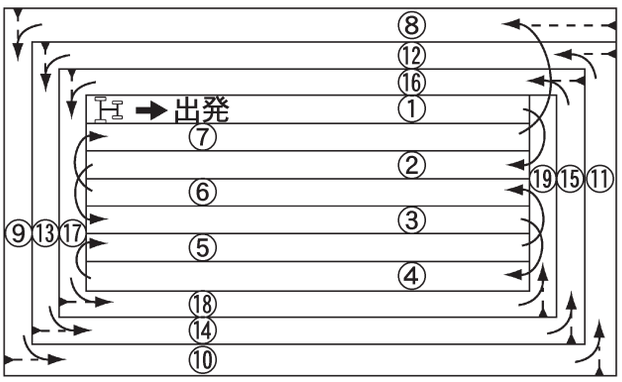
1AGACCBAP037A

補　足

＊ 小回りの難しい場所では，一うねおき耕うんで作業してください。

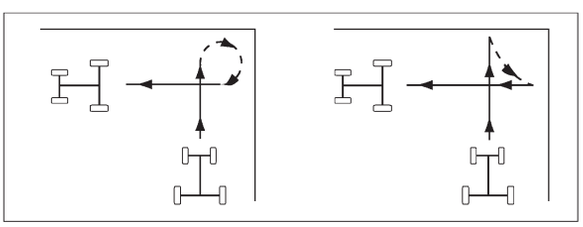
■一うねおき耕うんのしかた

一うねおき耕うんは，小回りの難しい場所に用いる方法で，その他は隣接耕うんと同じです。



1AGACCBAP038A

■トラクタの方向転換のしかた



1AGACCBAP036A

トラクタの簡単な手入れと処置

警　告

給油及び点検整備するときは
1. **トラクタを平たんな広い場所に置き**
2. **作業機を降ろし**
3. **駐車ブレーキをかけ**
4. **エンジンを止め**
5. **キーを抜き，安全を確認してから行なってください。**

そうしないと死傷事故を引起すおそれがあります。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
- **＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。**
- **＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。**
- **＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），尿素水（AdBlue），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

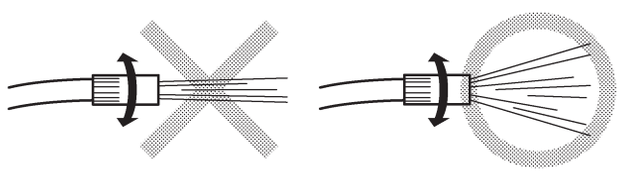
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. **電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

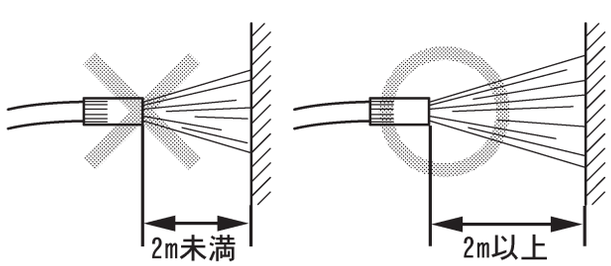
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

定期点検箇所一覧表

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。
＊ バッテリ電解液は年間使用時間が 100 時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。
〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

No.	時期			アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	エンジンオイル	年間使用時間が 100 時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	63
		年間使用時間が 100 時間以内の場合	交換	◎														１年ごと	63
2	エンジンオイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	67
3	ミッションオイル		交換	◎					○						○			300 時間ごと	70
4	油圧オイルフィルタ		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	68
5	油圧ミッションオイルフィルタ **[T 仕様]**		交換	◎			○				○				○			200 時間ごと	69
6	前車軸ケースオイル		交換						○						○			300 時間ごと	71
7	グリースの注入		－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	59
8	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	60
9	倍速ターン 高速けん制装置の点検		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	61
10	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	61
11	ワイヤハーネス， バッテリコード		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	52
12	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	61
13	燃料ホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	62
			交換															２年ごと	73
14	AD ブレーキホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50 時間ごと	62
			交換															２年ごと	73
15	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	64
16	エアクリーナエレメント シングルエレメント		清掃		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	65
			交換															１年又は ６回清掃ごと	71
17	ファンベルト		調節		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	66
18	クラッチペダル		調節	◎	○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	66

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以後	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
19	ブレーキペダル	調節		○		○		○		○		○		○		○	100 時間ごと	67
20	トーイン・タイロッド	点検				○				○				○			200 時間ごと	69
21	ラジエータホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	68
		交換															2 年ごと	73
22	燃料フィルタ	交換								○							400 時間ごと	71
23	吸気ホース	点検				○				○				○			200 時間ごと	68
		交換															2 年ごと	73
24	エンジンバルブクリアランス	調節															800 時間ごと	71
25	ラジエータ	洗浄															2 年ごと	73
26	冷却水	交換															2 年ごと	72
27	モンローシリンダホース	交換															2 年ごと	73
28	燃料系統の空気抜き	−															必要に応じて	73
29	ヒューズ類	交換															必要に応じて	73
30	ランプ類	交換															必要に応じて	74

No.	時期		アワーメータ表示時間														それ以降	参照ページ
	項目		50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700		
1	揺動軸部のグリース注入	－	30 時間ごと															58
2	転輪・遊輪のグリース注入	－	30 時間ごと															58
3	クローラガイド	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	69
4	転輪・遊輪	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	69
5	スプロケット	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	69
6	ゴムクローラ	点検	◎			○				○				○			200 時間ごと	69

＊ 日常点検と併せて，3 ～ 6 項目について上記時間でディーラ点検をお願いします。必要に応じて部品交換をお願いします。
＊ 専門的な技術や工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■トラクタの給油（水）

給油（水）項目		容　量（L）	備　考
燃料		27	ディーゼル軽油
冷却水（ラジエータ）		3.1	清水（不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。）
冷却水（リザーブタンク）		0.6	
エンジンオイル		3.1 （オイルゲージ上限全量，フィルタ部も含む。）	指定オイル （ディーゼルエンジン用） D10W-30
ミッションオイル	下記以外	16	指定オイルスーパー UDT-2
	[T 仕様]	16.5	
前車軸ケース	下記以外	2.9	
	[W 仕様]	3.3	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル ・クラッチロッド ・揺動軸，転輪・遊輪		少　量	極圧（万能）グリース
グリースの塗布 ・関節球 ・チェックチェーン		塗　布	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下記の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル

エンジンオイル	指定オイル（ディーゼルエンジン用） D10W-30

■ミッションオイル

ミッションオイル 前車軸ケースオイル ステアリングギヤーボックスオイル	指定オイルスーパー UDT-2

■グリース

極圧（万能）グリース	指定グリース No.2 ★入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 ・ENEOS： エピノックグリース AP2 ・コスモ石油ルブリカンツ： ダイナマックス No.2 ・出光興産： ダフニーエポネックス SR2
ホーン接点用グリース	協同油脂 マルテンプ PS2

ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方

警　告

＊ エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊ マフラが熱いときはさわらないでください。ヤケドすることがあります。

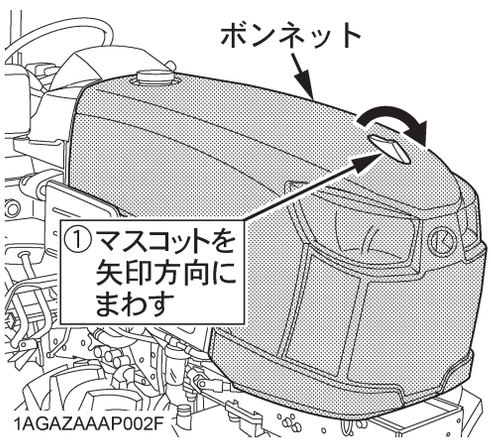
■ボンネットの開閉

警　告

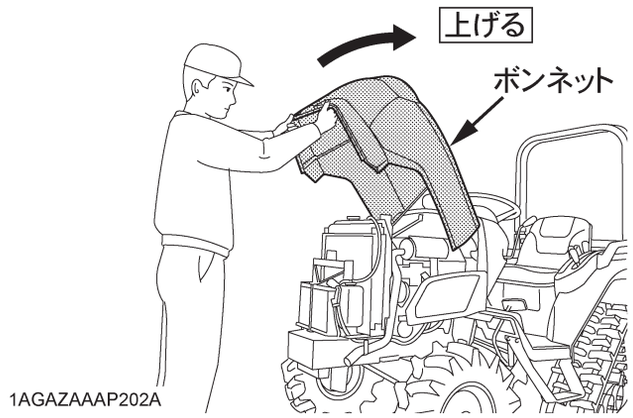
＊ ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が［ロック］されたか確認してから作業をしてください。

◆ ボンネットの開け方

1. ボンネットのマスコットを矢印方向にまわし，ロックを解除します。

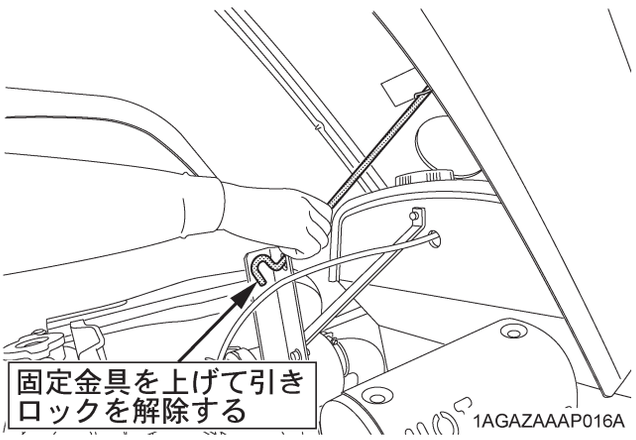


2. ボンネット下側を持上げます。
ボンネットは上部まで上げて，少し下げると自動的にロックされます。

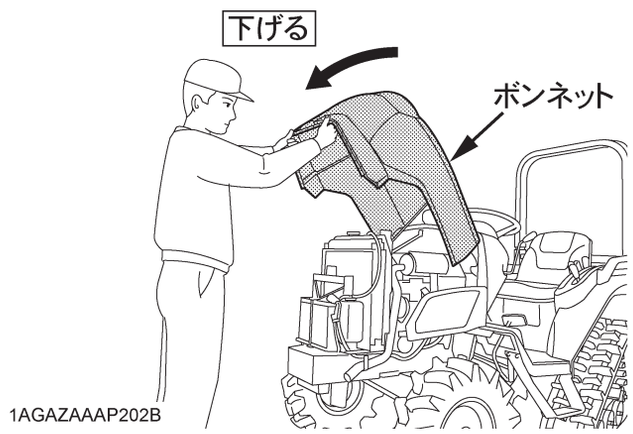


◆ ボンネットの閉め方

1. ボンネットを少し上げます。
2. ボンネットを少し上げた状態で固定金具を上げて引き，ロックを解除します。



3. ボンネットを閉め，両手で上から押さえてロックします。

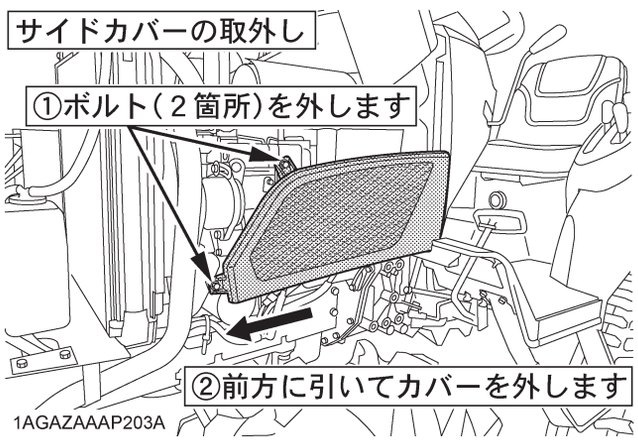


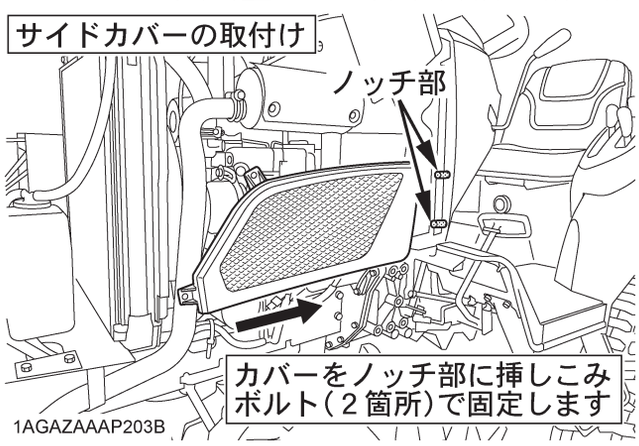
■サイドカバーの取り外し

警　告

＊ サイドカバーを外したまま使用すると傷害事故のおそれがあるので，必ずカバーを取付けて使用してください。

1. ボルト（２箇所）を外します。
2. 前方に引いてカバーを外してください。
3. 組付け時，外した順と逆に
   (1) カバーをノッチ部に挿しこみます。
   (2) ボルト（２箇所）を取付けます。





日常点検

警　告

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ トラクタは常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が噴出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部がじゅうぶんに冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

■前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

■トラクタの周りを歩いて

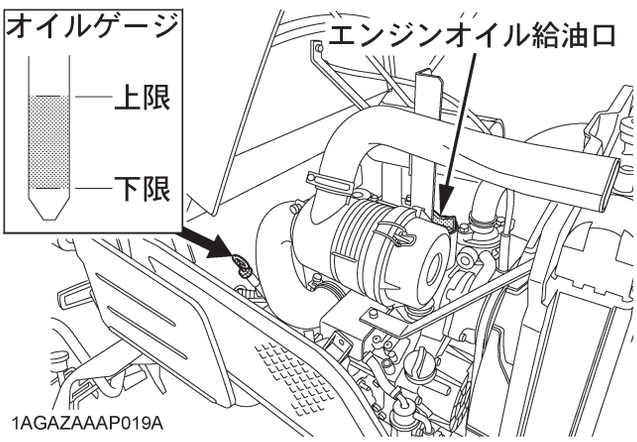
1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

■エンジンオイルの量及び汚れ

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。



重　要

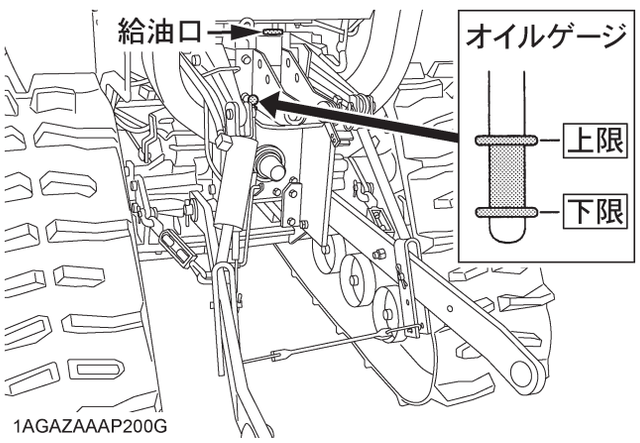
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■ミッションオイルの量及び汚れ

警　告

＊ 点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

1. オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**［下限と上限の間］**にオイルがあるかを調べます。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。
2. **［下限］**以下の場合は補給してください。ただし，**［上限］**以上には入れないでください。

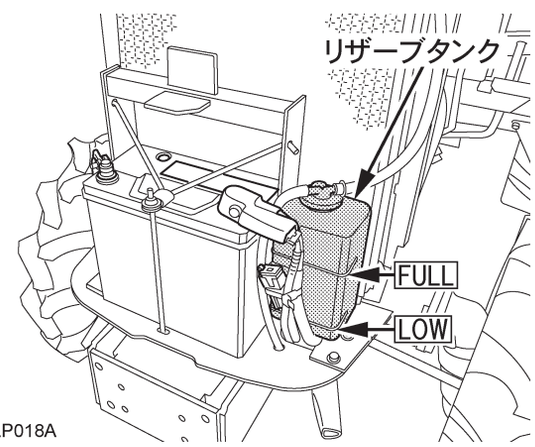


■冷却水の量

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**［FULL から LOW の範囲］**であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合は，FULL のレベルまで補給してください。FULL 以上は入れないでください。



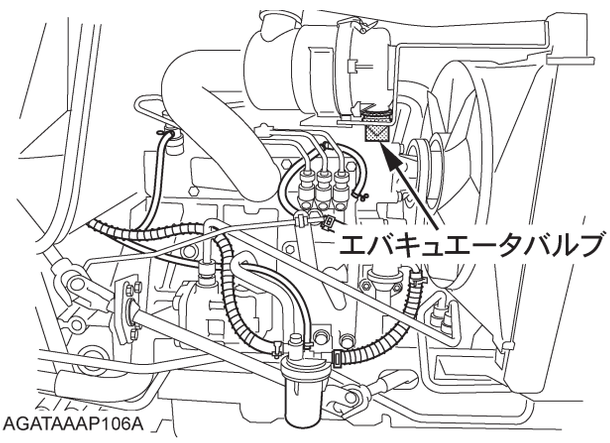
1AGAZAAAP018A

補　足

＊ ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■エバキュエータバルブの清掃

エバキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



1AGATAAAP106A

■ワイヤハーネス，バッテリ（+）コードの点検・交換

警　告

＊ 配線の端子や接続部のゆるみ及び配線の損傷は，電気部品の性能を損なうだけでなく，ショート（短絡）・漏電の原因となり，火災事故になるおそれがあり大変危険です。傷んだ配線は，早めに交換・修理してください。
ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金などで代用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ また，本機の配線は，防水性などじゅうぶん考慮して配線してありますのでむやみに修理して使用せず，購入先に点検・整備を依頼してください。
＊ バッテリ及び電気配線の周辺部は，マフラやエンジン周辺部と同様，ワラくず・ごみ・燃料の付着があると火災の原因になるので，毎日作業前に清掃してください。

下記項目を点検してください。
1. 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは，購入先に点検・整備を依頼してください。
2. 配線のクランプのゆるみが無いこと。配線がクランプより外れているときは，所定のクランプに配線をセットしてください。
3. ターミナル（端子），カプラ（ソケット）の接続部のゆるみがないこと。
4. 各スイッチ，メータが確実に作動すること。

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

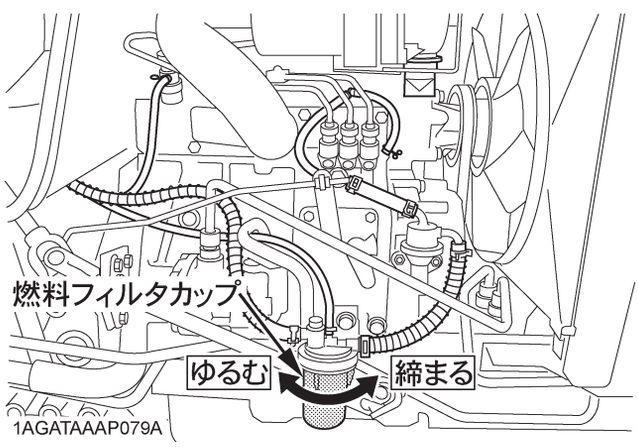
燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら，カップを**［ゆるむ］**方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ フィルタを外したときは，必ず空気抜きを行なってください。
（**［必要に応じた点検・整備］**の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。
しかし，燃料が満タンに近い場合は，燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流しますので，燃料が半分以下のときに実施してください。

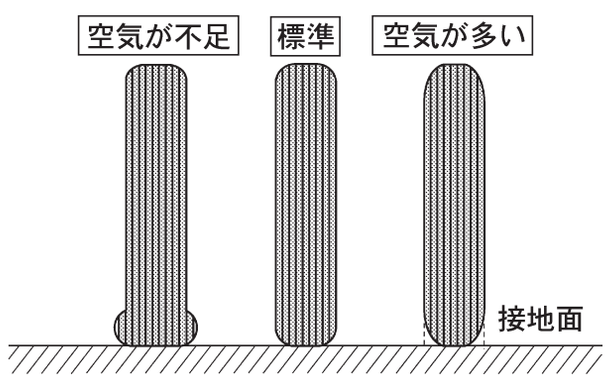


■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安はつぎのとおりです。



1AGAAAPAP007A

◆ 標準空気圧

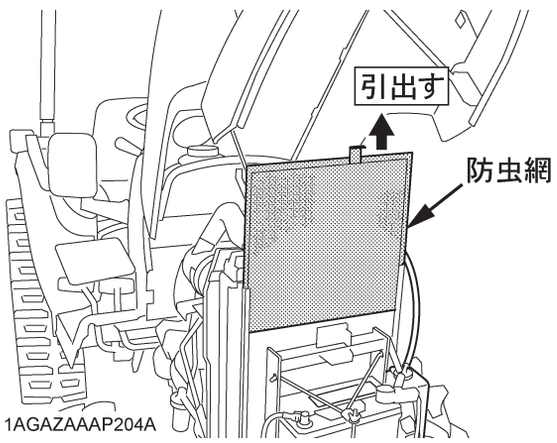
	タイヤ	空気圧 kPa（kgf/cm²）
前輪	4.00-18	240（2.4）
	5-12	220（2.2）
	6-12，7-16	200（2.0）
	6.00-12	180（1.8）
	5.00-12	120（1.2）

■防虫網の清掃

警　告

＊ エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがあります。防虫網を引出し清掃してください。



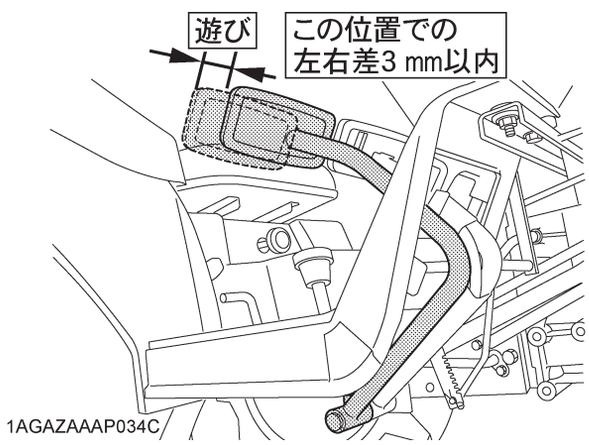
1AGAZAAAP204A

■ブレーキペダルの遊び・点検

警　告

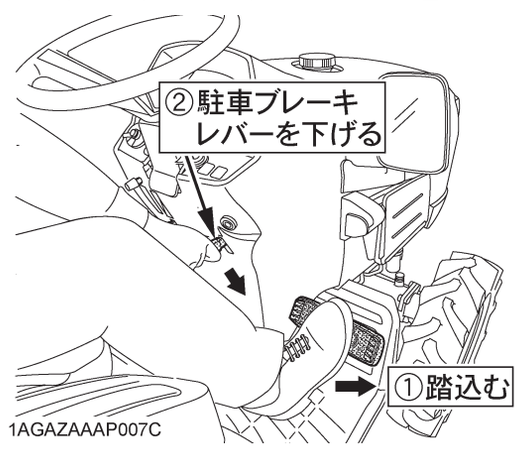
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

ペダルを踏んで遊び量が**［20 ～ 30 mm］**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**［3 mm 以内］**かどうかを調べます。
（調整のしかたは**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照）



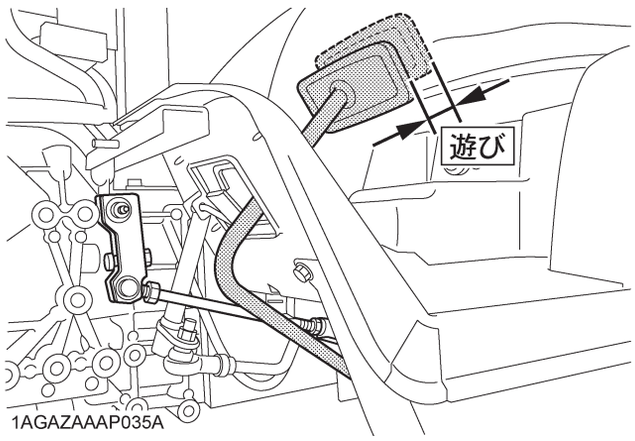
■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**［下げ］**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。外すときは，ペダルを踏込めば外れます。



■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルを踏んで遊び量が**［10 ～ 17mm］**かどうかを調べます。
（調整のしかたは**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［ブレーキペダルの点検・調整］**の項を参照）



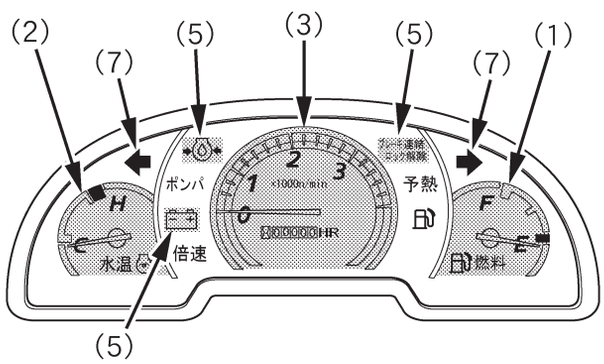
重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

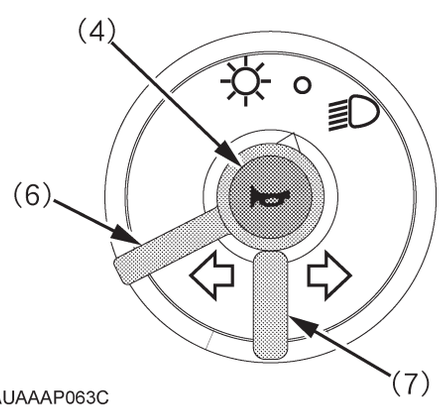
■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

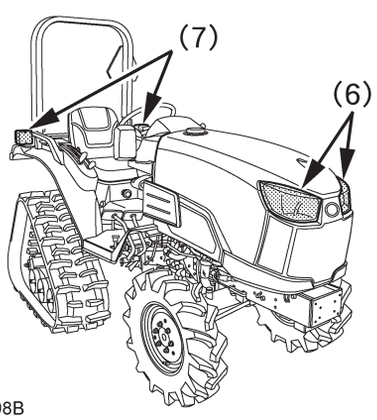
1. 燃料計
2. 水温計
3. エンジン回転計
4. ホーン
5. イージーチェッカ
6. ヘッドライト
7. ウインカ



1AGAZAAAP005N



1AGAUAAAP063C



1AGAZAAAP198B

■燃料の補給

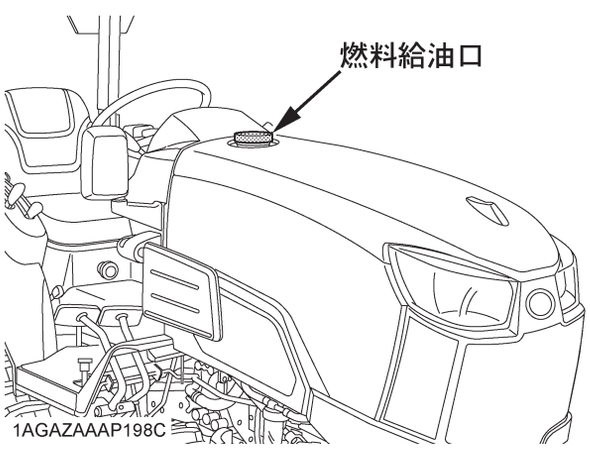
警　告

＊ 燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊ 火気厳禁。

燃料には，**［ディーゼル軽油］**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１　号	-2.5
２　号	-7.5
３　号	-20 以下
特３号	-30 以下

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



1AGAZAAAP198C

重　要

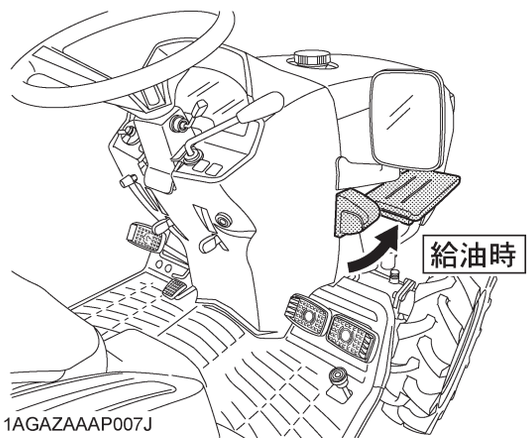
＊ 燃料中にごみや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，給油時はこし網を外さないでください。
＊ 燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。
＊ 燃料キャップが締まっているか確認してください。

■カンタン給油台

警　告

＊ 上に乗らないこと。（積載可能重量 20kg）
＊ 走行する時は折りたたんで確実に固定してください。
＊ 燃料補給時の給油用タンクをのせる以外の目的で使用しないでください。

給油台を使用すると，給油が楽に行なえます。



1. 給油台を 90° 回転させて固定します。
2. 燃料キャップは，ステーの部分に置くことができます。
3. 収納時は前方へ引き，下側へ 90° 回転させて確実に固定してください。

■満タンお知らせブザー

燃料給油の際，満量に近づくとブザーが作動し作業者に知らせます。

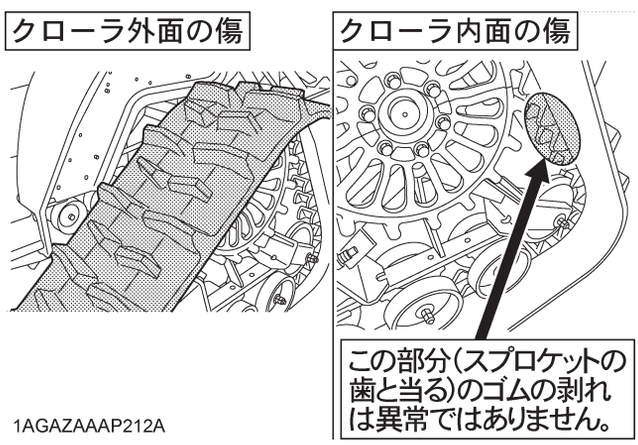
1. キースイッチを**【入】**にします。
（エンジンは始動しないでください。）
2. 燃料を給油します。
3. 燃料給油を検知して「ピ … ピ …」と電子メータパネルから断続音が作動します。
4. 燃料が満タンに近づくにつれ，断続音の間隔が短くなり，満タンになると「ピー」という連続音に変わるので給油を停止してください。

補　足

＊ 満タンでのブザー作動は満量に対し余裕を見ていますので，連続音作動のとき完全な満タンにはなりません。
＊ 給油中はキースイッチを**【切】**にしないでください。一度**【切】**にすると，再び**【入】**にしても，ブザーが鳴らないことがあります。
＊ 燃料計の指針が**【F】**付近を示している状態で給油した場合，ブザーが鳴らないことがあります。

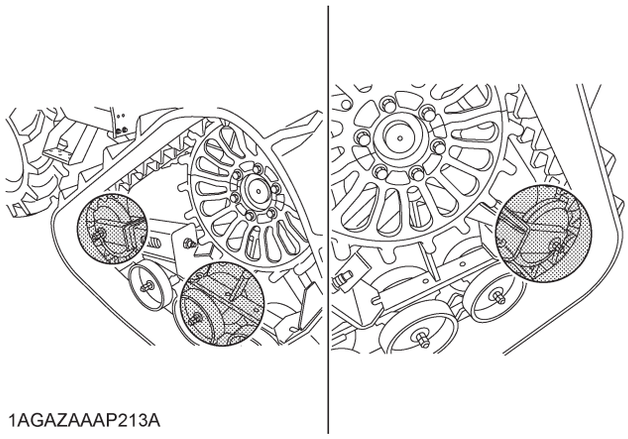
パワクロの日常点検

1. ゴムクローラの張りと亀裂，損傷が無いかを点検し，大きな亀裂や損傷がある場合は交換を行なってください。



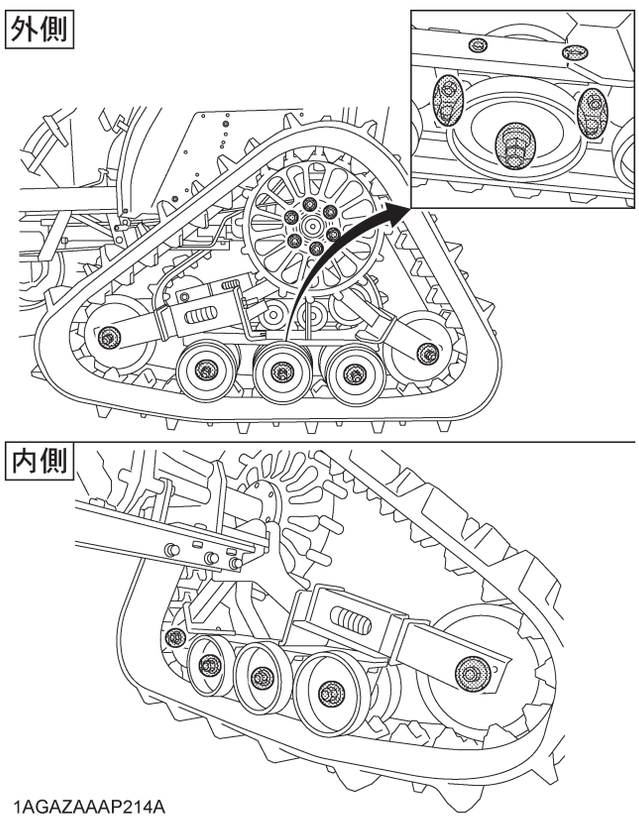
2. スプロケットの摩耗を点検し，摩耗量が大きい場合は，交換を行なってください。

3. 可動部分，ゴムクローラ，転輪，遊輪やスプロケットへの石等のはさみ込みや草の巻付き，泥詰まりが無いかを確認し，はさまっている場合は取除いてください。



1AGAZAAAP213A

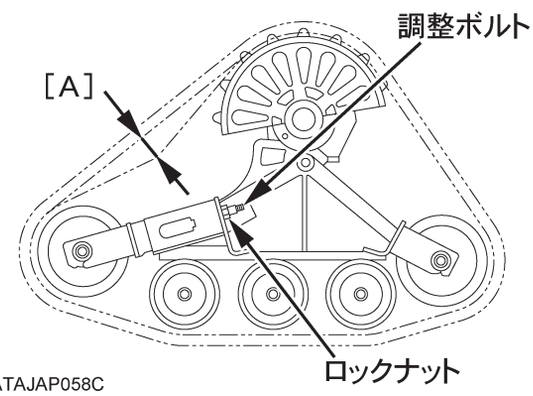
4. 各部のボルト，ナットのゆるみが無いか点検してください。



1AGAZAAAP214A

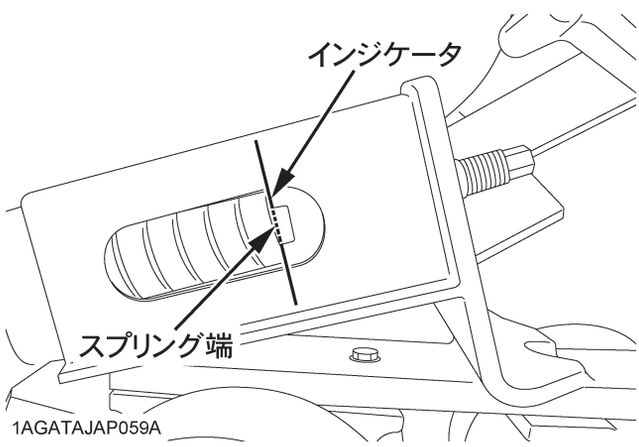
■ゴムクローラの張り調整

1. ゴムクローラがゆるんだままで使用すると，走行中にクローラが外れるおそれがありますので，定期的に点検を行なってください。
2. ゴムクローラの張りの調整は，［A］部のたわみが 196 ～ 245N（20 ～ 25kgf）の荷重で 10 ～ 15㎜ になるように，調整ボルトにて行なってください。調整後は確実にロックナットで固定してください。



1AGATAJAP058C

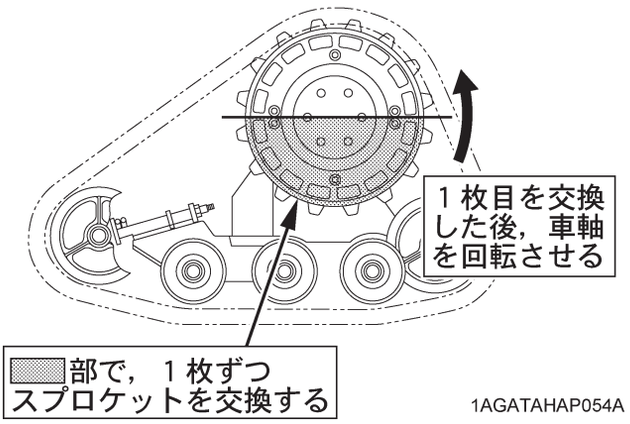
上記ゴムクローラの張り調整は，調整ボルトを回してスプリング端がインジケータに一致するように調整してください。調整後は確実にロックナットで固定してください。



1AGATAJAP059A

■スプロケットの交換

スプロケットは２分割で構成されています。

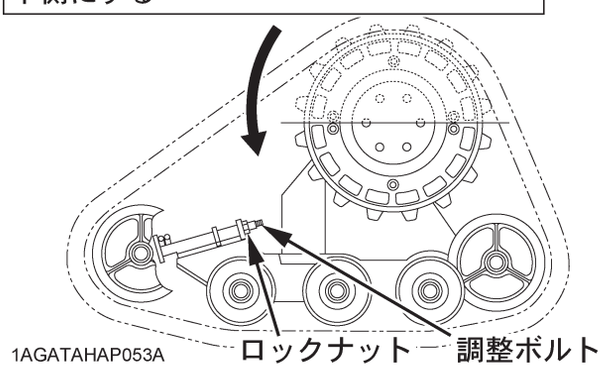


1. まず部で示した下側のスプロケットを新しいスプロケットに交換します。
2. 次に車軸をゆっくり回転させ，下側に来た２枚目のスプロケットを新しいものに交換します。
3. ２枚のスプロケットを交換した後，ゴムクローラの張り調整を行なってください。

■ゴムクローラの交換

1. ロックナットをゆるめ，次に調整ボルトを回転させ，クローラの張りをゆるめます。
2. **［スプロケットの交換］**の部で示した下側のスプロケットを外します。
3. ２枚目のスプロケットを外さず残したまま下図に示す位置まで車軸をゆっくり回転させ，古いゴムクローラを外します。

車軸を回転させ，残したスプロケットを下側にする



4. 新しいゴムクローラにつけ換えた後，車軸を回転させ，スプロケットにゴムクローラを掛けます。
5. 外しておいたスプロケットを取り付けた後，最後にゴムクローラの張り調整を行なってください。

30 時間ごとの点検・整備

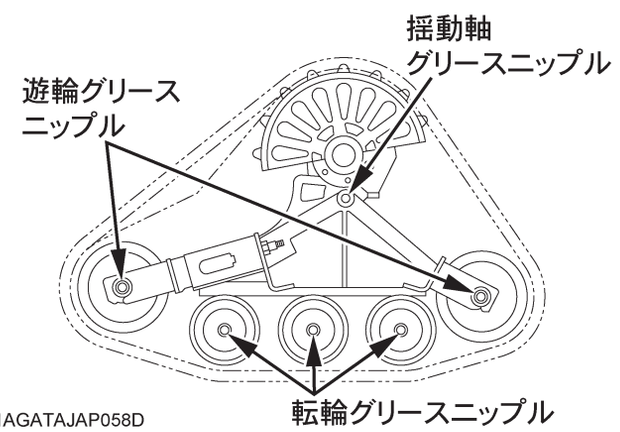
■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，指定または推奨グリースを使用してください。

揺動軸・遊輪・転輪にグリースアップをしてください。

補　足

＊ 遊輪・転輪は，フクロナットを外してグリースアップをしてください。
＊ グリース注入時は各軸端部からグリースが出てくるまで注入してください。



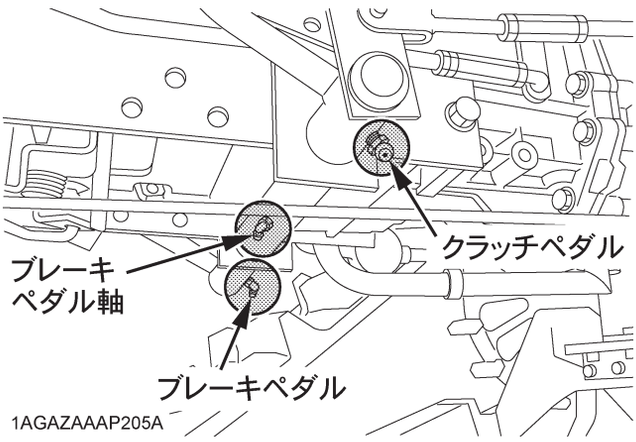
重　要

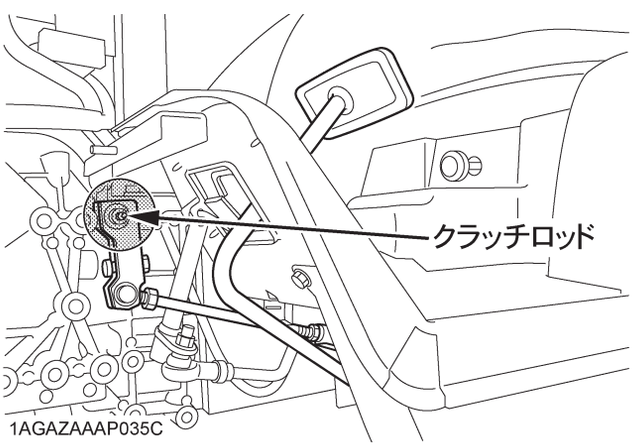
＊ パワクロのグリース注入はシーズン終了後の長期保管前にも実施してください。

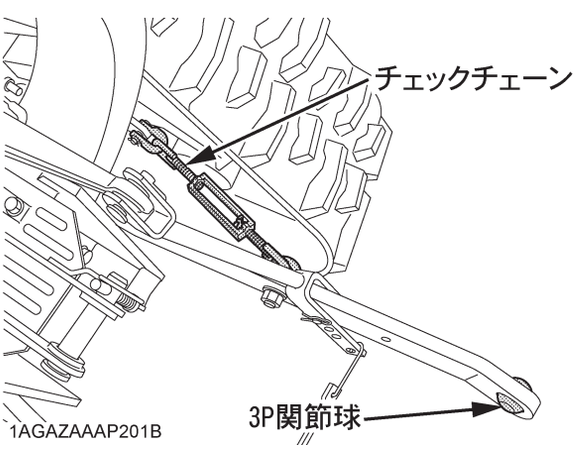
50 時間ごとの点検・整備

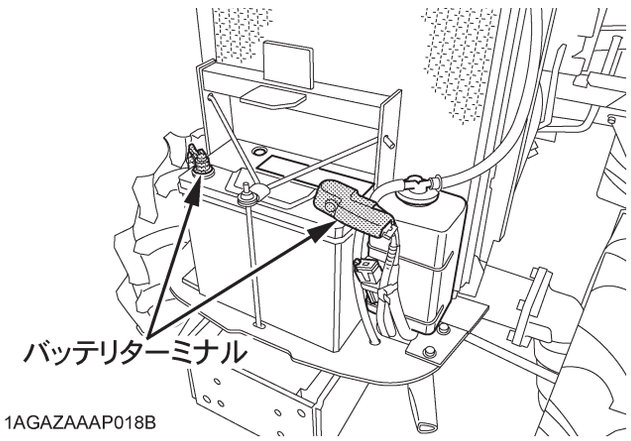
■グリースの注入

代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，指定または推奨グリースを使用してください。









■エンジン始動システムの点検

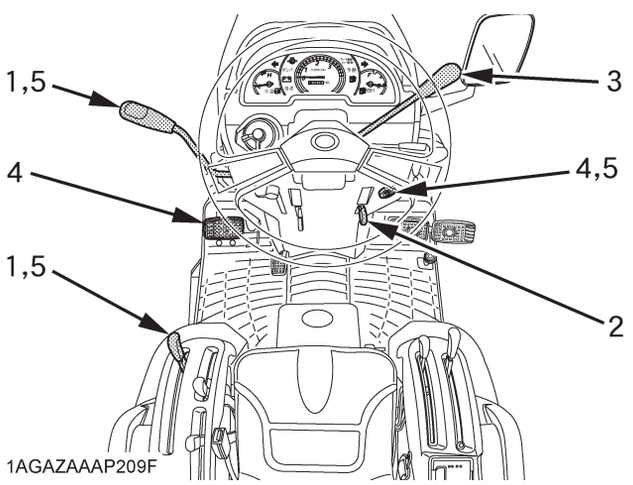
警　告

＊ 点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊ 装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆ 点検

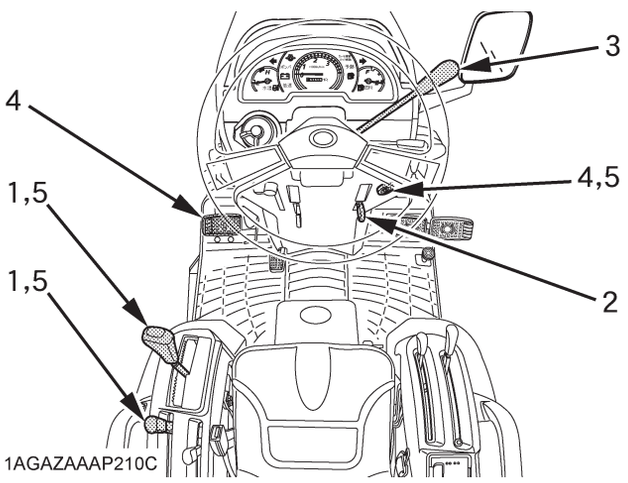
[マニュアルシフト仕様]

1. 運転席に座り，シャトルレバー，PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，シャトルレバー又は PTO 変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



[グライドシフト（T）仕様]

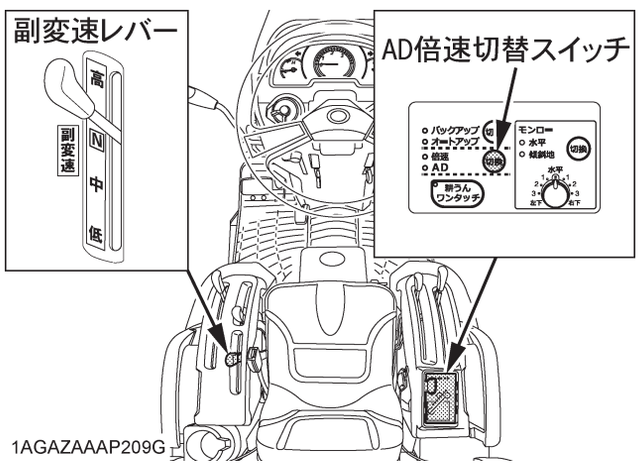
1. 運転席に座り，主変速レバー，PTO 変速レバーを**［中立］(N)** にします。
2. 駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
3. アクセルレバーを**［最低速］**位置にします。
4. クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回れば正常です。
5. 次に，主変速レバー又は PTO 変速レバーをいずれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時**［始動］**位置に回します。
   このとき，エンジンが回らなければ正常です。
6. もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。



■倍速ターン高速けん制装置の点検

警　告

＊ 装置に異常があれば必ず購入先に相談し，整備をした後，ご使用ください。



1AGAZAAAP209G

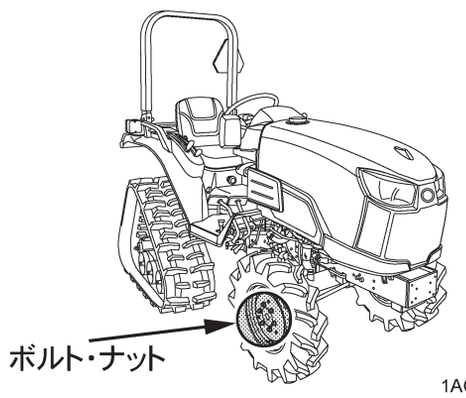
◆ 点検手順

1. 運転席に座り，前輪を直進状態にして副変速レバーを**【低】**又は**【中】**，AD 倍速切替スイッチを押し，倍速を**【入】**にします。
2. 副変速レバーを**【高】**に入れます。
   このとき，けん制装置がはたらき，倍速は**【入】**（キースイッチ**【入】**のときは，倍速ランプも点灯）のまま，倍速ターンは作動しません。
3. この状態で実際に旋回し，倍速ターンが作動しなければ正常です。
   旋回は，平たんな広い場所で，エンジン回転を低くし安全確認を行なってから実施してください。
4. 前輪を直進状態にし，副変速レバーを**【低】**又は**【中】**に入れると，けん制装置が自動復帰します。
   この状態で旋回し，倍速ターンが作動すれば正常です。

■タイヤ取付けボルトの点検

警　告

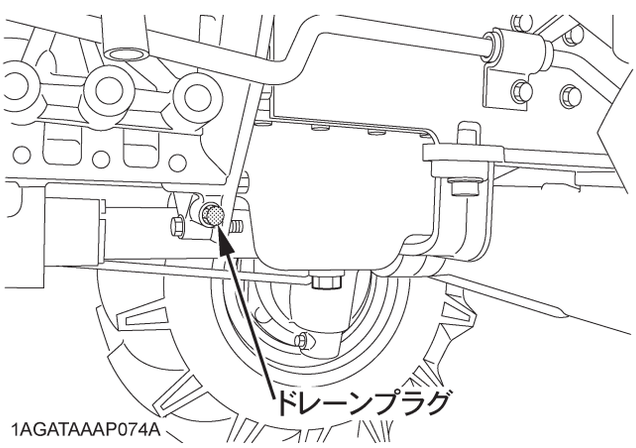
＊ タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。ゆるんだまま走行すると，死傷事故を引起こすおそれがあります。



1AGAZAAAP198D

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は 50 時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の浸入がないことを確認してください。もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



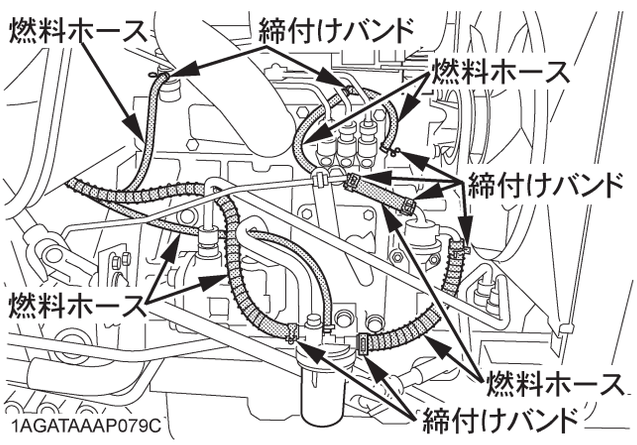
1AGATAAAP074A

■燃料ホースの点検

警　告

＊ ホース類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。
ホース類や締付けバンドがゆるんだり，いたんでいないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



重　要

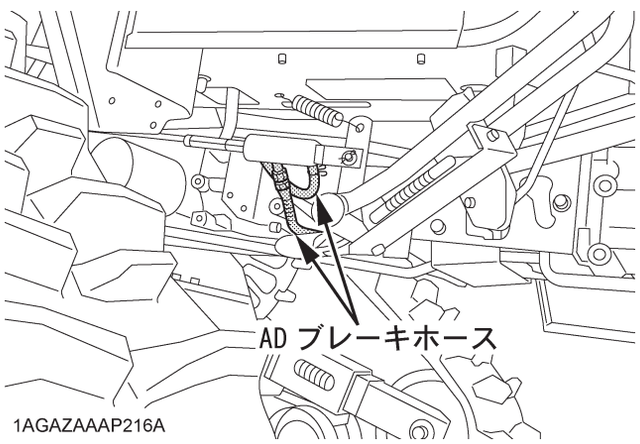
＊ 交換時にホースや噴射ポンプなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

■ AD ブレーキホースの点検

警　告

＊ ホースのいたみは，必ず点検しましょう。ホースが破損し AD ブレーキ操作ができなくなり，死傷事故を引起こすおそれがあります。

ホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。
ホースがいたんでいないか常に注意してください。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



重　要

＊ 交換時にホースなどにごみが入らないように注意してください。ごみが入ると作動不良の原因になります。

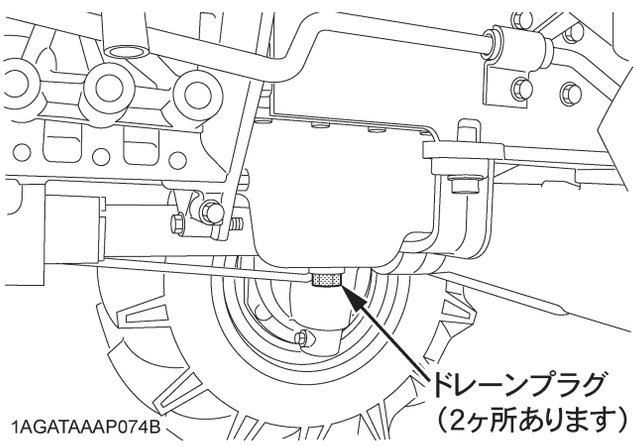
100 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

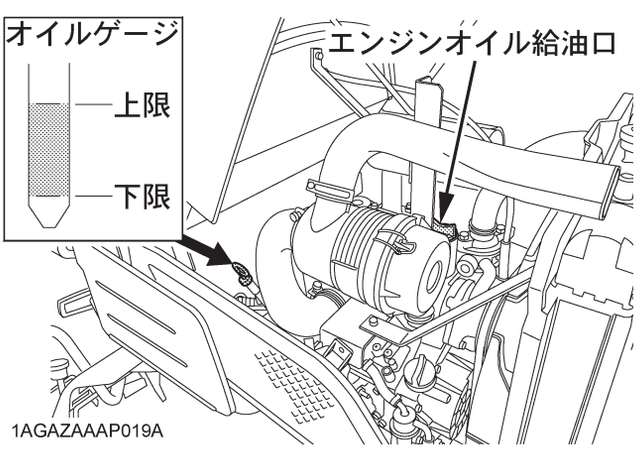
警　告

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このとき，必ずオイルパン等で受けてください。



2. ドレーンプラグを締めます。
3. エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



エンジンオイル規定量（オイルゲージ上限全量，フィルタ部も含む。）	3.1L

重　要

＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度 No. の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。注ぎ足し使用は絶対しないでください。
＊ 点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。
＊ オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約５分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水が不要なタイプ（密閉型）と補水が必要なタイプ（開放型）の２種類があります。バッテリのタイプに合わせて以下の事を守ってください。
[開放型]
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因になることがあります。すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

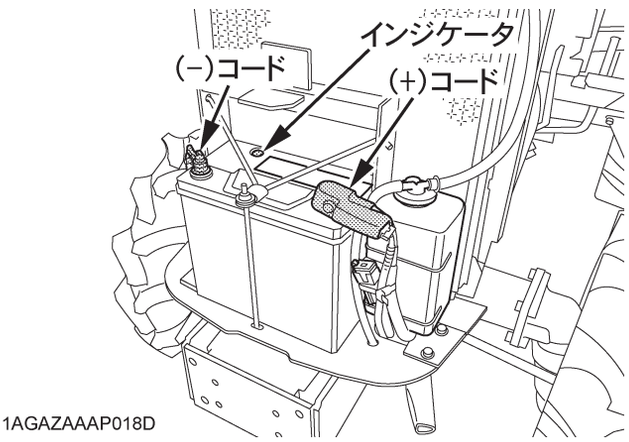
[開放型と密閉型共通]
＊ バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。状況により医師の診断を受けてください。
＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

警　告

＊ バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを［切］位置にしておいてください。
＊ バッテリを取外すときは，短絡（ショート）事故を防ぐため，最初にバッテリ（−）コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ（−）コードを接続してください。

◆ バッテリ液の点検

バッテリは MF（メンテナンスフリー）バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが上面にインジケータがあり，その表示状態により補充電又は，交換してください。



1AGAZAAAP018D

◆ インジケータの見方

インジケータ表示状態	緑	電解液比重，電解液量共に良好です。
	黒	要充電です。 ６～７ A の普通充電電流で補充充電を行なってください。
	白	交換が必要です。

◆ バッテリの取付け，取外し

警　告

＊ バッテリを取外すときは，バッテリ（−）コードを最初に外し，次に（+）コードを外してください。
＊ 取付けるときは，必ず（+）側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊ バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊ 新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式（55B24L）のバッテリを使用してください。
＊ バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの（＋），（－）のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆ 補充電のしかた

危　険

＊ バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷のほかに配線などをいためることがあります。なお急速充電は行なわないでください。
2. バッテリコードを接続するときは，（＋）と（－）をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）に，バッテリの（－）を充電器の（－）にそれぞれ接続して，急速充電ではなく普通充電で行なってください。コードの接続をまちがえないように注意してください。

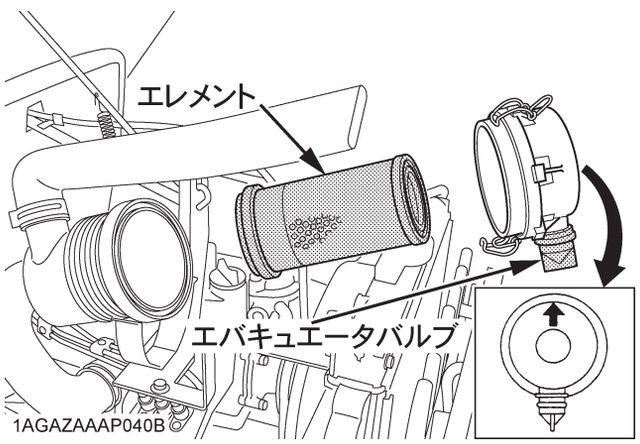
■エアクリーナエレメントの清掃

◆ エレメントの清掃

乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。（エアーの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm², 30 psi）を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。）

◆ エレメントの交換

エレメントの交換は１年間使用後，又は６回掃除ごとに交換が必要です。



重　要

＊ エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊ 乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ 清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ ダストカップの（⬆ マーク）を必ず上向きになるように取付けてください。

◆ エバキュエータバルブの清掃

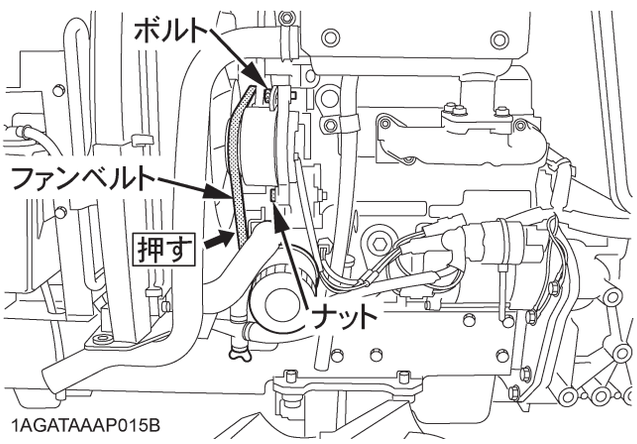
エバキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で 約 98N(10 kgf) の力で抑えて, 約 7 mm たわむ程度

◆ 調整方法

1. ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
2. 調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



重　要

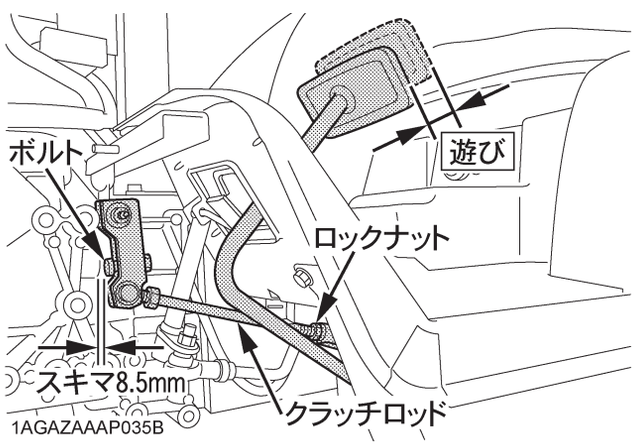
＊ ベルトの張りがゆるいと，オーバーヒートや充電不足の原因になります。
＊ き裂やはがれがあれば交換してください。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで 10 ～ 17mm

◆ 調整方法

1. ロックナットをゆるめクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。
2. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
3. 調整後クラッチペダルを解放し，スキマを点検します。
   もし調整が必要なときは，ボルトで調整します。



重　要

＊ クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，スリップを起こし損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

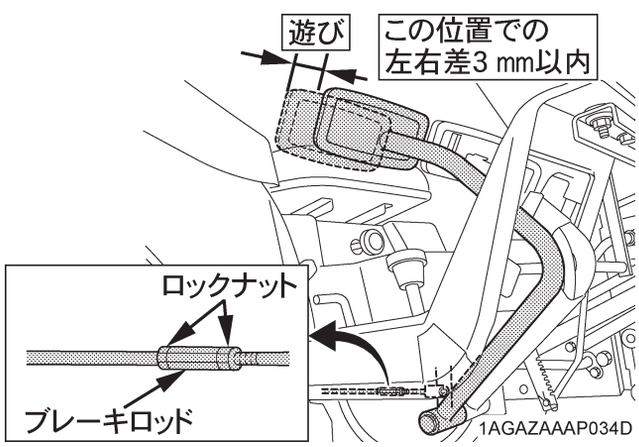
警　告

＊ 点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。
＊ ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
＊ 調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず［3 mm 以内］にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると，死傷事故を引起こすおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで 20 ～ 30 mm

◆ 調整方法

1. 駐車ブレーキを解除します。
2. ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。
3. 調整後はロックナットを確実に締付けておいてください。
4. 駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。



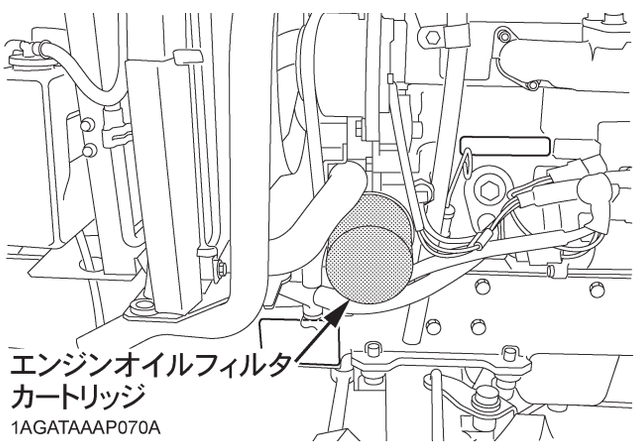
200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. フィルタレンチでフィルタを取外します。このとき，ワイヤハーネスにオイルがかからないようにしてください。
2. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
3. エンジンオイルを規定量まで補給します。
4. 約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油もれがないか確認してからエンジンを止めます。
5. 再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。



補　足

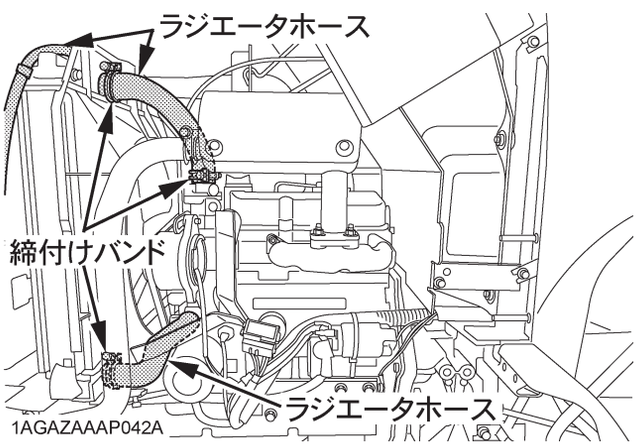
＊ オイルフィルタは，カートリッジタイプです。このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。

■ラジエータホースの点検

警　告

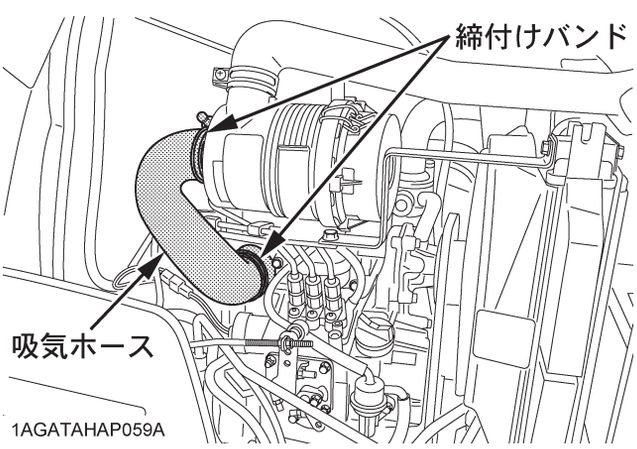
＊ ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又はいたんだときには新品と交換する必要があります。
交換する場合は，購入先で交換及び点検をしてもらってください。



■吸気ホースの点検

吸気ホースに傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。

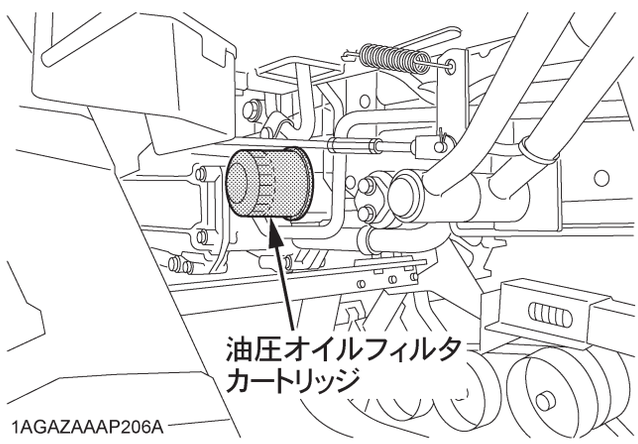


■油圧オイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。



1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   （ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**［300 時間ごとの点検・整備］**の**［ミッションオイルの交換］**の項を参照）

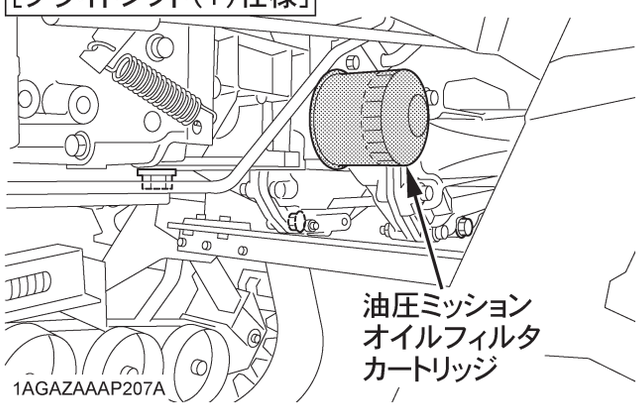
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換

警　告

＊ 交換するときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。

[グライドシフト(T)仕様]



1. ミッションオイルを抜きます。
2. フィルタレンチでフィルタを取外します。
3. 新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
4. ミッションオイルを規定量まで補給します。
5. 約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
6. 再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
   (ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**[300 時間ごとの点検・整備]**の**[ミッションオイルの交換]**の項を参照)

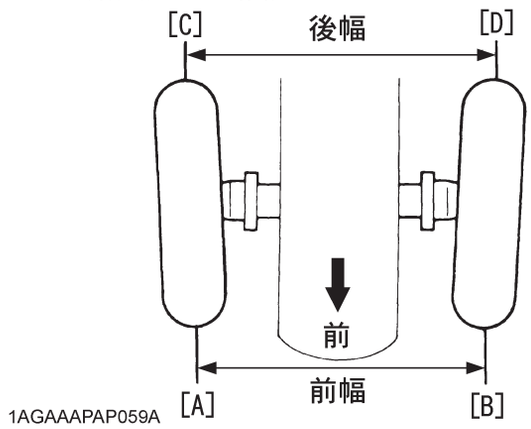
■トーイン調整・タイロッドの点検

警　告

＊ トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆ 点検

前輪の前幅 (A)(B) と後幅 (C)(D) を測り，(C)(D)-(A)(B)=0 ～ 20 mm になっているかを調べます。この数字から外れている場合は修理を必要としますので購入先にご相談ください。



補　足

＊ トーインの点検時，タイロッドエンド（間接球）やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。
＊ 標準空気圧で，トーインの点検を行なってください。

■パワクロの点検項目

◆ クローラガイドの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

◆ 転輪・遊輪の点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

◆ スプロケットの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

◆ ゴムクローラの点検

購入先で点検及び交換をしてもらってください。

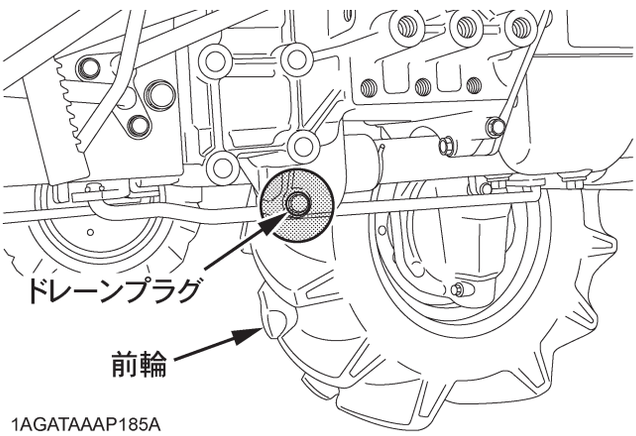
300 時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

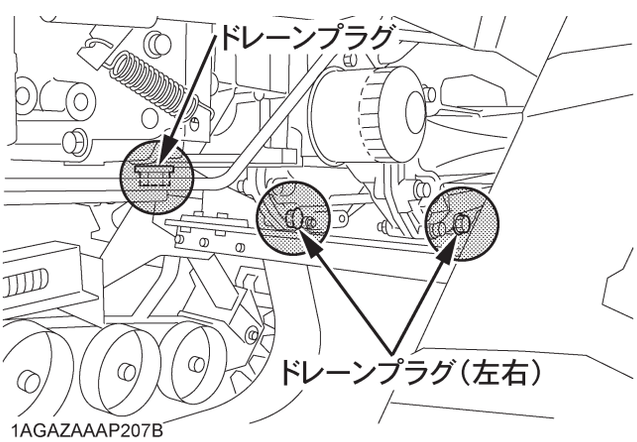
警　告

＊ 交換をするときは，必ずエンジンを止めてじゅうぶん冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

1. ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。



1AGATAAAP185A

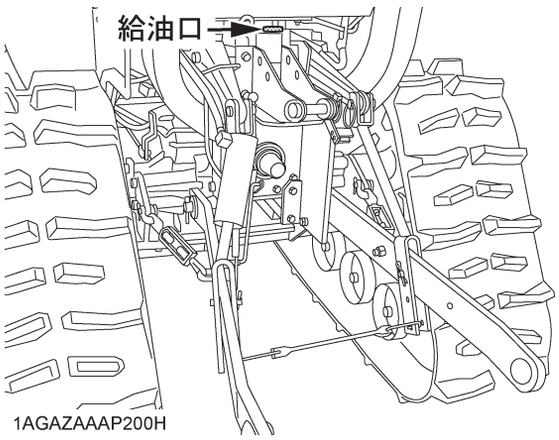


1AGAZAAAP207B

補　足

＊ 給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

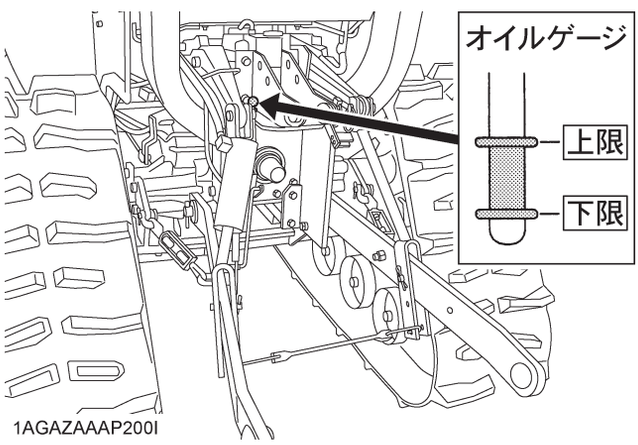
2. ドレーンプラグを締めます。
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。



1AGAZAAAP200H

ミッションオイル規定量	下記以外	16 L
	[T 仕様]	16.5 L

4. 約５分間運転し，ドレーンプラグ締付け部より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。
5. 一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。作業機（ロータリ）付の場合は，作業機（ロータリ）を下げて確認してください。



1AGAZAAAP200I

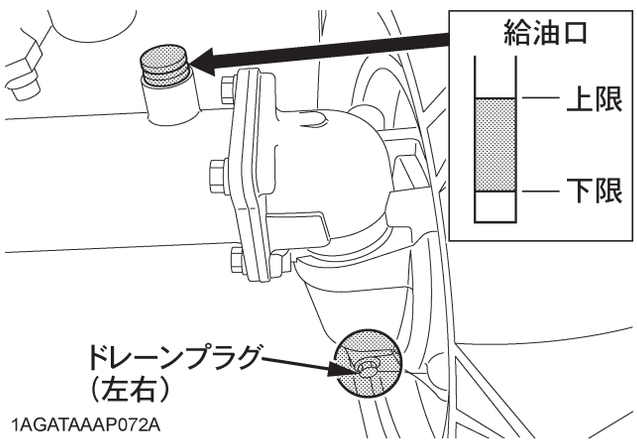
■前車軸ケースオイルの交換

1. ドレーンプラグ（左右とも）と給油プラグを外してオイルを抜きます。
2. ドレーンプラグを締めます。(左右とも)
3. 給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

重　要

＊ オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約 10 分後, 給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

4. 給油プラグを確実に差込んでください。



400 時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタエレメントの清掃・交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき, 燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は, 燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。

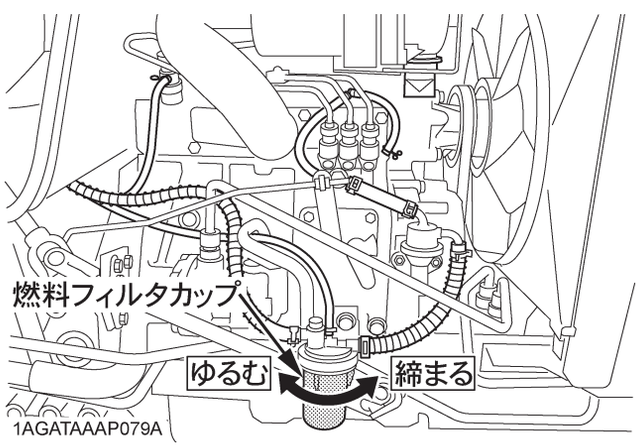
1. カップを**［ゆるむ］**方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
2. 新しいフィルタエレメントと交換します。

重　要

＊ 組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊ エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。(**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照)

補　足

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。



800 時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で点検及び調整をしてもらってください。

1 年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は 1 年間使用後, 又は 6 回掃除ごとに交換が必要です。
(**［100 時間ごとの点検・整備］**の**［エアクリーナエレメントの清掃］**の項を参照。)

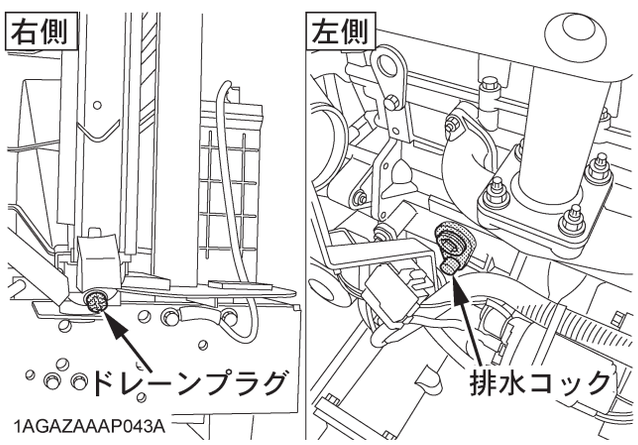
2年ごとの点検・整備

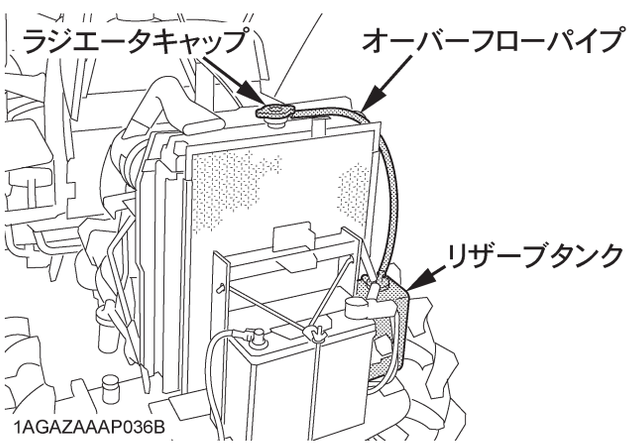
■冷却水の交換

警　告

＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

1. ラジエータ下側のドレーンプラグ（右側）を外し，排水コック（左側）を開いて冷却水を全部出します。
2. リザーブタンクの排水は，ラジエータキャップのオーバフローパイプを外し排水します。





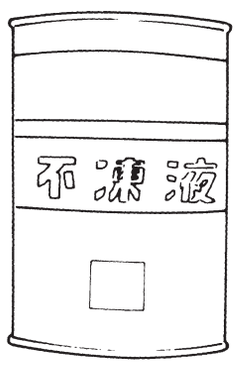
3. 水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックとドレーンプラグを締めオーバフローパイプを取付けます。
4. ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆ 不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が０℃以下になるようなときは，必ず不凍液（ロングライフクーラント）を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。

（工場出荷時は，不凍液（ロングライフクーラント）が入っています。）



重　要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を 50％入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。
＊ 不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

不凍液の保証不凍結温度

原液混合比％	保証不凍結温度
10	-4
15	-5
20	-8
25	-11.5
30	-15
35	-20
40	-25
45	-30
50	-35
55	-40

■ラジエータの洗浄
洗浄には，ラジエータ洗浄剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。
＊ ２年使用ごと
＊ 不凍液を混入するとき
＊ 不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。

■ラジエータホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■燃料ホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■吸気ホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

■ AD ブレーキホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

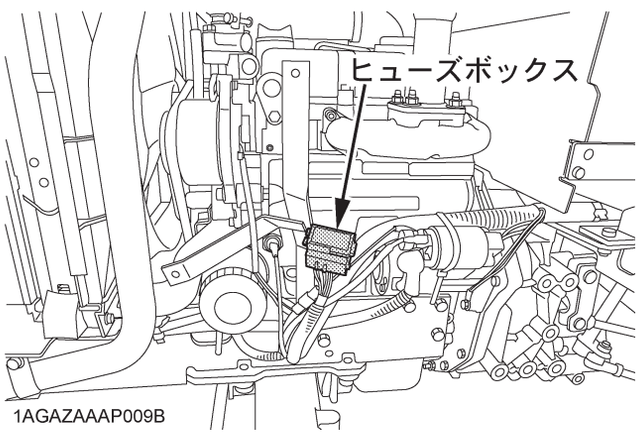
■モンローシリンダホースの交換
購入先で点検及び交換をしてもらってください。

必要に応じた点検・整備

■燃料の空気抜きのしかた
燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。
- 燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- 燃料切れが起きたとき
- トラクタを長時間使用しなかったとき

1. タンクに燃料を満たす。
2. エンジンを始動し，約 1 分間運転後停止する。

■ヒューズの交換



1. ヒューズボックスのふたを外す。
2. ヒューズを外す。
3. 切れたものと同容量のヒューズと交換する。

重　要

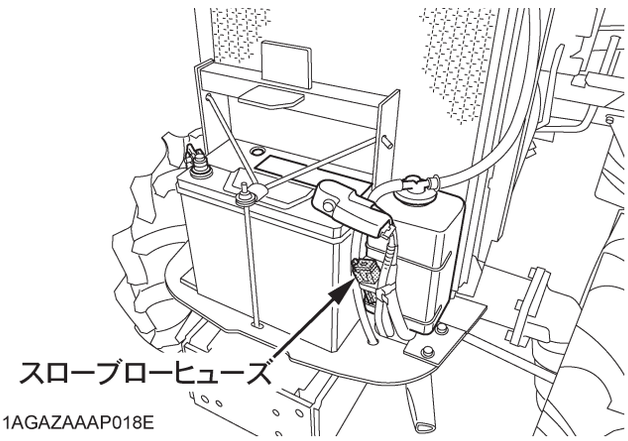
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊ トラクタに作業灯などを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。



■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプはレンズを外し，バルブを交換します。

格納

■長期格納時の手入れ

警　告

＊ 長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ［切］に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊ シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。
＊ バッテリの取付けの際には，（＋）と（－）をよく確認し，絶対に逆に接続しないでください。逆に接続すると，トラクタの電子機器類が破損する場合があります。

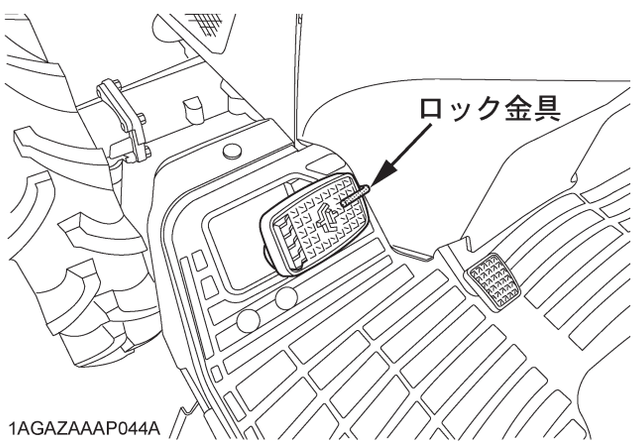
トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. エンジンオイルを交換し，2000rpm 以上で 10 ～ 15 分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
   その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3. 定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4. 車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5. 周囲の安全を確認した後エンジンを始動させ，各油圧シリンダの防錆運転を１～２カ月ごとに行なってください。
   (1) ステアリングハンドルを左右のストロークエンドに達するまで１～２回まわす。
   (2) 油圧（ポジション）レバーで三点リンク（作業機）を最上昇位置まで１～２回上下させる。
   (3) 角度調整ダイヤルで，リフトシリンダ（右）を１～２回全ストローク伸縮させる。（作業機が装着されているときは作業機を上げてから行なってください。）
6. 冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
7. クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

8. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
9. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
10. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側（－側）を外してください。
11. ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
12. 後輪の前後に車止めをしておいてください。
13. 各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
14. 格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
15. 格納場所は，周囲にわらなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。
16. 燃料は満タンにしてください。空にしておくと水滴ができ，燃料系統の故障の原因になります。

◆ クラッチ［切］保持（ロック）の方法

クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具を引上げ，ステップに引掛けると保持（ロック）できます。



◆ クラッチ［切］解除の方法

(1) クラッチペダルをいっぱい踏込むとロック金具がステップから外れます。
(2) 外れたロック金具は確実にペダル軸に押込みガタつかないように固定してください。

重　要

＊ クラッチペダルをロックせずに長期保管した場合，クラッチ板のさび付きにより，クラッチが切れなくなるだけでなくクラッチが損傷する場合があります。（**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［洗車時の注意］**の項を参照）
＊ 洗車するときは，以下の点に注意して行なってください。
(1) エンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
(2) 灯火類は消灯した状態で行なってください。もし点灯した灯火類に直接水がかかるとランプのバルブが切れるおそれがあります。
＊ 格納時は，必ず**［切］**の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

■エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系統に，空気や水が混入している。	● ホース・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修しておく。 ● 空気抜きをする。 （**［トラクタの簡単な手入れと処置］**の章の**［燃料の空気抜きのしかた］**の項を参照）
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い	● ラジエータに熱湯をそそぐ。 ● 気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期は 10W-30 を使用）
	4. バッテリがあがり気味のため	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料の流れ不足	● 燃料フィルタの清掃をする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
突然停止した場合	1. 燃料不足	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	2. 燃料が流れない	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。
	2. エンジンオイルの入り過ぎ	● 正規のオイル量にする。
	3. エアクリーナの目詰まり	● エレメントを清掃する。
水温計が H 付近を示すとき	1. 冷却水が 125 ℃付近になったため。	● 冷却水の量（不足）及び水もれの点検 ● ファンベルトの張り（ゆるみ）の点検 ● ラジエータの防虫網にごみの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	1. 前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	● 負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	2. ノズル不良	● ノズルを点検する。
	3. 燃料不良	● 良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式			GSK21J	GSK21JT
クローラタイプ			W 仕様	
			ハイラグ	
機体寸法	全長（mm）		2370	
	全幅（mm）		1260（クローラ部）	
	全高（mm）		1970	
	軸距（mm）		1350	
	輪距	前輪（mm）	950	
		後輪（mm）	930	
	最低地上高（mm）		370	
質量（kg）			900	915
エンジン	型式名		D1105	
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル（E-TVCS）	
	総排気量（L{cc}）		1.123{1123}	
	出力／回転速度 kW(PS) ／ rpm		15.4(21.0) ／ 2600	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		27	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ		55B24L-MF	
タイヤ	前輪		7-16	
	後輪		クローラ	
ゴムクローラサイズ			330×34×84（幅 × ラグ数 × ラグピッチ）	
車体	クラッチ形式		乾式単板	
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）	
	かじ取り方式		パワーステアリング（インテグラル式）	
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用（**【T 仕様】**油圧無段変速併用）	
変速段数			前進 9 段，後進 9 段 （**【T 仕様】**前後進無段）	
走行速度（km/h）		前進	0.58 ～ 13.20 （**【T 仕様】**0 ～ 12.38）	
		後進	0.58 ～ 13.20 （**【T 仕様】**0 ～ 11.76）	
最小旋回半径（m）			1.7	
PTO	回転速度／エンジン回転速度（rpm）		530，799，1182，662（逆転）／ 2600	
	軸寸法（mm）		JIS35	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンク　JIS 0 形	

注）・全長は機体先端から後輪（クローラ）後端までの寸法です。

※ この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

付表

型式			GSK23J	GSK23JT
クローラタイプ			W 仕様	
			ハイラグ	
機体寸法	全長（mm）		2370	
	全幅（mm）		1260（クローラ部）	
	全高（mm）		1970	
	軸距（mm）		1350	
	輪距	前輪（mm）	950	
		後輪（mm）	930	
	最低地上高（mm）		370	
質量（kg）			900	915
エンジン	型式名		D1305	
	種類		水冷４サイクル３気筒ディーゼル（E-TVCS）	
	総排気量（L{cc}）		1.261{1261}	
	出力／回転速度 kW(PS)／rpm		16.5(22.5)／2600	
	使用燃料		ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量（L）		27	
	始動方式		セルモータ式	
	バッテリ		55B24L-MF	
タイヤ	前輪		7-16	
	後輪		クローラ	
ゴムクローラサイズ			330×34×84（幅 × ラグ数 × ラグピッチ）	
車体	クラッチ形式		乾式単板	
	ブレーキ形式		ディスク式（湿式）	
	かじ取り方式		パワーステアリング（インテグラル式）	
	差動方式		２ピニオンかさ歯車式（デフロック付）	
	変速方式		選択かみ合式，常時かみ合式併用（**【T 仕様】**油圧無段変速併用）	
変速段数			前進 9 段，後進 9 段 （**【T 仕様】**前後進無段）	
走行速度 (km/h)		前進	0.58 ～ 13.20 （**【T 仕様】**0 ～ 12.38）	
		後進	0.58 ～ 13.20 （**【T 仕様】**0 ～ 11.76）	
最小旋回半径（m）			1.7	
PTO	回転速度／エンジン回転速度（rpm）		530，799，1182，662（逆転）／2600	
	軸寸法（mm）		JIS35	
作業機昇降装置	制御方式		ポジションコントロール	
	装着方式		３点リンク　JIS 0 形	

注）・全長は機体先端から後輪（クローラ）後端までの寸法です。

※ この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度表

注）定格回転（最高速度のみ最高回転）

(km/h)

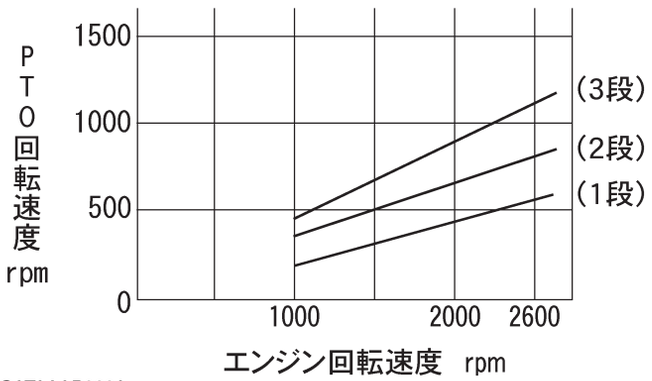
マニュアルシフト仕様			
副変速レバー	主変速レバー	GSK21J, GSK23J	
		前進	後進
低	1 2 3	0.58 0.97 1.49	0.58 0.97 1.49
中	1 2 3	1.17 1.96 2.94	1.17 1.96 2.94
高	1 2 3	4.97 8.35 13.20	4.97 8.35 13.20

(km/h)

グライドシフト（T）仕様		
副変速レバー	GSK21JT, GSK23JT	
	前進	後進
低	0.18 ～ 2.14	0.35 ～ 1.92
中	0.54 ～ 5.97	0.56 ～ 5.49
高	1.33 ～ 12.38	1.33 ～ 11.76

付表

■ PTO 回転速度

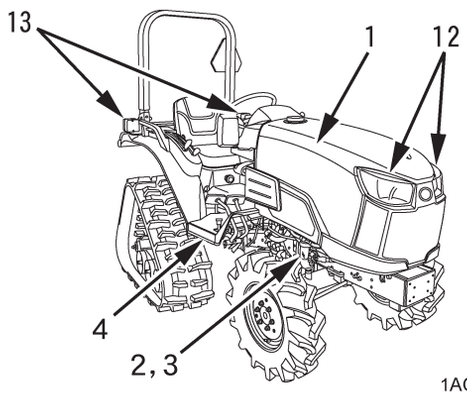


1AGATAAAP066A

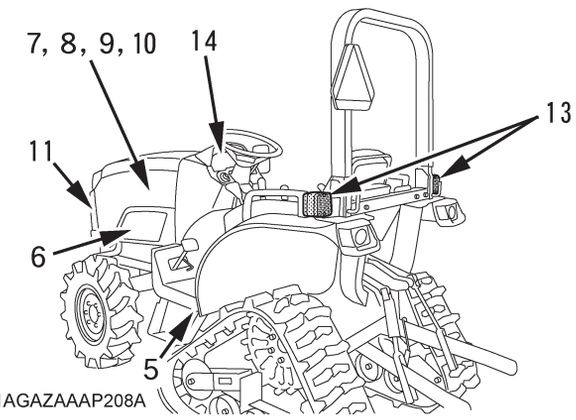
■標準付属品

品　名	数量 / 台	備　考
メインスイッチキーアッシ	1	
取扱説明書	1	
保証書（トラクタ）	1	
PTO 軸キャップ	1	

主な消耗部品一覧表

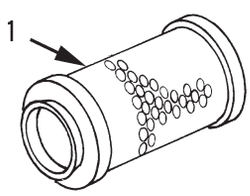


1AGAZAAAP198E



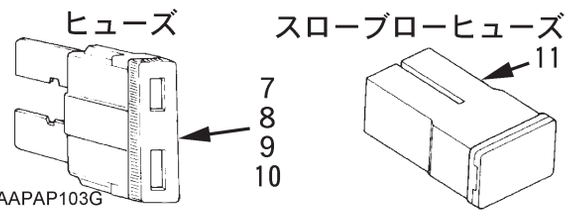
1AGAZAAAP208A

エアークリーナ
エレメント
（シングルエレメント）



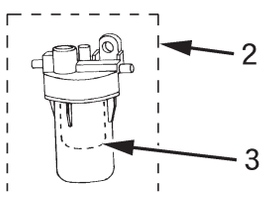
1AGAAAPAP100A

ヒューズ　スローブローヒューズ



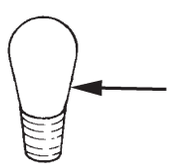
1AGAAAPAP103G

燃料フィルタ



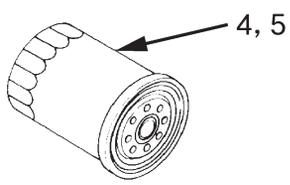
1AGAAAPAP104D

電球



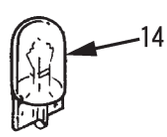
1AGAAAPAP105S

油圧オイルフィルタ
カートリッジ



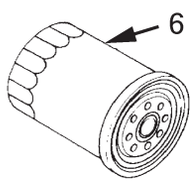
1AGAAAPAP106D

メータパネル用ランプ



1AGATAAAP067G

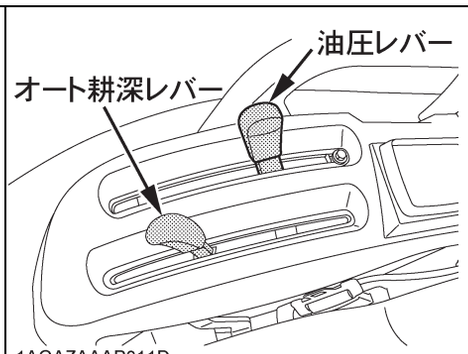
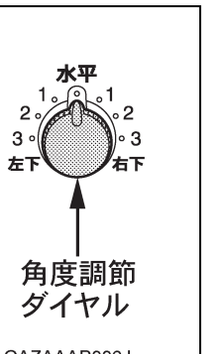
エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



1AGAAAPAP101F

図番	品　名	品番	図番	品　名	品番
1	エレメントアッシ	KK731182390	8	ヒューズ 10A	97430000360
2	フィルタ，アッシ（フューエル）	95410000240	9	ヒューズ 15A	97430000370
3	フィルタ	95410000250	10	ヒューズ 20A	97430000380
4	油圧オイルフィルタカートリッジ	95410000210	11	スローブローヒューズ（50A）	95410000190
5	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ（グライドシフト（T）仕様）	95410000270	12	デンキュウ（12V，23W） ヘッドライト	K3139134360
6	フィルタ，アッシ （オイル，カートリッジ）	K1627132092	13	バルブ（12V，21W） 方向指示器	99660029440
7	ヒューズ 5A	99790001220	14	ランプ（12V，1.7W） イージーチェッカ	95410000280

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容		 1AGAZAAAP011D		 1AGAZAAAP006I	 1AGAZAAAP006J
		油圧レバー	オート耕深 レバー	モンロー切替 スイッチ	角度調節ダイヤル
ポジション コントロール	浅耕し (5 ～ 8 cm)	希望耕深になるよう調整 (後２輪付の場合は最下げ位置)	オート「切」位置	－	－
	一般耕うん (8 ～ 15 cm)				
	深耕し (15 cm 以上)				
	代かき				
	うね立て				
メカオート	浅耕し (5 ～ 8 cm)	最下げ位置	希望耕深に なるよう調整	－	－
	一般耕うん (8 ～ 15 cm)				
	深耕し (15 cm 以上)				
	代かき				
モンロー マチック	水田の耕うん	－	－	水平	希望の角度に なるよう調整
	畑の耕うん			水平	－
				傾斜地	
	プラウ作業等			切	希望の角度に なるよう調整

補　足

＊ 主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。土質など作業条件に合わせ適宜調整してください。

索引

英数字

30 時間ごとの点検･整備 58
50 時間ごとの点検･整備 59
100 時間ごとの点検･整備 63
200 時間ごとの点検･整備 67
300 時間ごとの点検･整備 70
400 時間ごとの点検･整備 71
800 時間ごとの点検･整備 71
１年ごとの点検・整備 71
２年ごとの点検・整備 72
AD 倍速切替スイッチ 18
AD ブレーキホースの交換 73
AD ブレーキホースの点検 62
PTO..... 34
PTO 回転速度表 80
PTO 軸キャップ 35
PTO 変速レバー 34

あ

アクセルレバーとアクセルペダル 22
安全フレームとシートベルトについて 11

い

一般的な耕うん要領 41

う

運転席周りの調節 10
運転前の点検 4
運転中の作動確認 22

え

エアクリーナエレメントの交換 71
エアクリーナエレメントの清掃 65
エバキュエータバルブの清掃 51
エンジンオイルの量及び汚れ 50
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 67
エンジンオイル・ミッションオイル 47
エンジンオイルの交換 63
エンジンの始動と停止 5
エンジンの不調と処置 76
エンジンバルブクリアランスの点検 71
エンジン始動システムの点検 60

お

オート耕深レバー 40
主な消耗部品一覧表 81

か

外部電源取出端子 13
格納 74
各部の名称［モンローマチック］..... 36
各変速レバーの取扱い 19
角度調節ダイヤル 39
寒冷時の暖機運転 9
カンタン給油台 56

き

キースイッチ 8
給油（水）一覧表 46
吸気ホースの交換 73
吸気ホースの点検 68

く

グライドシフト 21
クラッチハウジングの水抜き 61
クラッチペダル 17
クラッチペダルの点検・調整 66
クラッチペダルの遊び・点検 54
グリース 47
グリースの注入 58,59
クローラガイドの点検 69

こ

ゴムクローラの交換 58
ゴムクローラの点検 69
ゴムクローラの張り調整 57
コンビネーションスイッチ 13
小型特殊自動車としての取扱い 2

さ

サービスと保証 1
サイドカバーの取り外し 49
坂道での運転 24
作業ごとの一般的な調整要領 82
作業機を取付けないときの注意 34
作業機昇降装置 29
作業機落下速度の調整 31
三点リンク 32

し

シート 10
始動のしかた 5
主要諸元 77
状況に応じた操作 23

す

水温計 23
推奨オイル・グリース一覧表 47
スプロケットの交換 58
スプロケットの点検 69
スローブローヒューズの交換 74

索引

せ

洗車時の注意 43
旋回のしかた 24
前車軸ケースオイルの交換 71
前輪駆動レバー 17

そ

走行装置の取扱い 14
走行速度表 79

た

タイヤ 41
タイヤの空気圧 41
タイヤの空気圧, 及び摩耗, 損傷 53
タイヤ取付けボルトの点検 61

ち

チェックチェーン 34
駐車ブレーキの解除のしかた 22
駐車ブレーキの作動点検 54
長期格納時の手入れ 74
チルトステアリングハンドル 12

て

停止のしかた 7
停車・駐車 15
定期点検箇所一覧表 44
デフロックの使い方 23
転輪・遊輪の点検 69

と

トーイン調整・タイロッドの点検 69
灯火類の操作 13
道路走行中の注意 25
トップリンク 33
トラクタの給油（水） 46
トラクタの主要諸元 77
トラクタの周りを歩いて 49
トラクタの方向転換のしかた 42
トラクタメータ 23
トラックへの積み・降ろし 26

な

ならし運転(最初の約 50 時間)..... 10

に

日常点検 49

ね

燃料計 22
燃料の空気抜きのしかた 73
燃料の補給 55
燃料フィルタエレメントの清掃・交換 71
燃料フィルタの水, 沈殿物の点検 52
燃料ホースの交換 73
燃料ホースの点検 62

は

廃棄物の処理について 43
倍速ターン高速けん制装置の点検 61
発進・走行 14
バックアップ／オートアップ切替スイッチ .. 30
バックミラー 13
バッテリあがりの処置 9
バッテリ電解液の点検 64
パワーステアリングの取扱い 27
パワクロの点検項目 69
パワクロの特別な運転のしかた 27
パワクロの日常点検 56

ひ

必要に応じた点検・整備 73
一うねおき耕うんのしかた 42
ヒューズの交換 73
標準付属品 80

ふ

ファンベルトの点検・調整 66
不調と処置 76
ブレーキペダル 16
ブレーキペダルの点検・調整 67
ブレーキペダルの遊び・点検 54

ほ

防虫網の清掃 53
ボンネットの開閉 48
ボンネットの開閉及びサイドカバーの外し方 48
ほ場への出入り時の注意 24
ポンパレバー 29

ま

マニュアルシフト 20
満タンお知らせブザー 56

み

ミッションオイルの交換 70
ミッションオイルの量及び汚れ 50

め

メータ・ランプ類の作動 55
メカオートの取扱い 40

も

モンローシリンダホースの交換 73
モンローマチックの取扱い 36

モンロー切替スイッチ 38

ゆ

油圧（ポジションコントロール）レバー..... 29
油圧オイルフィルタカートリッジの交換 68
油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換..... 69

ら

ラジエータの洗浄 73
ラジエータホースの交換 73
ラジエータホースの点検 68
ランプ類の交換 74

り

リフトロッドの調整 33
隣接耕うんのしかた 41

れ

冷却水の交換 72
冷却水の量 51

ろ

ロアーリンク取付け穴の選択 33
ロータリ着脱時の注意 40

わ

ワイヤハーネス,バッテリ(+)コードの点検・交換..... 52
ワンタッチ耕うんスイッチ 36